

**SONY**<sup>®</sup>

# デジタル HD ビデオカセットレコーダー

---

## 取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、  
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

お問い合わせは  
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>

Printed in China

**HDV**  
HDV 1080i    **DVCAM**    **DV**  
Digital Video Cassette    **Mini DV**  
Digital Video Cassette    **i**

**HVR-1500A**

# 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。危険です。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

## 安全のための注意事項を守る

6~8ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記されています。

## 定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検することをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

## 故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

## 万一、異常が起きたら

- ・煙が出たら
- ・異常な音、においがしたら
- ・内部に水、異物が入ったら
- ・製品を落としたり、キャビネットを破損したときは



- ① 電源を切る。
- ② 電源コードや接続ケーブルを抜く。
- ③ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。

## 警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

### ⚠ 警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

### ⚠ 注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

#### 注意を促す記号



火災



感電



注意



手を挟まれ  
ないよう注意

#### 行為を禁止する記号



禁止



分解禁止

#### 行為を指示する記号



指示



アース線を  
接続せよ

# 目次

⚠ 警告 .....	6
⚠ 注意 .....	7
その他の安全上のご注意 .....	8

## 第1章 概要

本機の特長 .....	9
HDV フォーマットを採用 .....	9
DVCAM/DV フォーマットを採用 .....	9
多彩なインターフェース .....	10
その他の特長 .....	10
各部の名称と働き .....	13
前面パネル .....	13
後面パネル .....	22

## 第2章 準備

ご使用になる前に .....	26
システム周波数を設定する .....	26
初期設定（セットアップメニュー） .....	26
ASSIGN ボタンを使用する .....	28
液晶ディスプレイの画質を調整する .....	28
外部モニターと接続する .....	29
映像を見るには .....	29
HD の映像を見るには .....	29
文字情報をスーパーインポーズする .....	30
文字情報の表示をオン / オフするには .....	30
文字を調節するには .....	30
表示内容 .....	30
サブ情報の表示 .....	31
本機で扱えるタイムデータ .....	33
タイムデータや動作モードを表示する .....	34
液晶ディスプレイやモニター画面に表示する .....	34
記録フォーマットと入出力信号について .....	36
HDV1080i/DVCAM/DV フォーマットの主な違い .....	36
E-E モード時の入力信号と出力信号 .....	36
再生時のフォーマットと出力信号 .....	39
使用できるカセット .....	41
カセットを入れる / 取り出す .....	42

---

## 第3章 記録・再生

記録 .....	43
記録時の設定 .....	43
記録する .....	45
再生 .....	47
再生時の設定 .....	47
再生する .....	48
変速再生する .....	48
外部機器から操作する .....	49
繰り返し（リピート）再生を行う .....	49
再生区間を任意に指定する .....	50
任意に設定した位置を頭出しする .....	52

---

## 第4章 タイムデータを活用する

タイムコードやユーザービットを記録する .....	53
タイムコード初期値、ユーザービットデータを設定する .....	53
記録済みのタイムコードに続けてタイムコードを記録するには .....	54
外部タイムコードに内蔵タイムコードジェネレーターを同期させる—外部同期 .....	55
タイムコードを出力する .....	56
再生時のタイムコード出力 .....	56
記録時 /E-E モード時のタイムコード出力 .....	57

---

## 第5章 編集のための接続と設定

i.LINK を使った接続 .....	58
ノンリニア編集システムで使用する（AV/C 接続） .....	58
カット編集システムで使用する .....	59
リニア編集システムのための接続 .....	61
外部コントローラーを使用した DVCAM フォーマットの編集 .....	61
本機を HDV テープのプレーヤーとして使用する場合 .....	64
レコーダーの編集機能を使用する場合 .....	66

---

## 第6章 i.LINK 端子を使ったダビングと TC インサート

デジタルダビングする .....	67
接続と設定 .....	67
HDV/DVCAM/DV フォーマットの信号をデジタルダビングする .....	67
タイムコードを記録し直す—TC インサート機能（DVCAM フォーマットのみ） .....	70

---

## 第7章 メニュー

メニューの構成 .....	73
メニューの内容 .....	76
セットアップメニュー .....	76
自動モード (AUTO FUNCTION) 実行メニュー .....	87
メニューの設定を変更する .....	89
設定変更に使用するボタン .....	89
BASIC (基本) メニューの設定を変更する .....	89
ENHANCED (拡張) メニューを表示する .....	90
ENHANCED (拡張) メニューの設定を変更する .....	91
メニューの設定を工場出荷時の設定に戻す — 設定の初期化 .....	91
ASSIGN ボタンに機能を割り当てる .....	92

---

## 第8章 保守・点検

使用上のご注意 .....	94
液晶画面の輝点・減点について .....	94
結露について .....	94
定期点検 .....	95
デジタル時間計 .....	95
ヘッドクリーニング .....	97
トラブル時の対処 .....	98
アラーム表示 .....	99
エラー表示 .....	101

---

## 付録

iLINKについて .....	102
仕様 .....	103
保証書とアフターサービス .....	106
用語解説 .....	107
五十音順 .....	107
アルファベット順 .....	108
索引 .....	110

## ⚠ 警告



火災

感電

下記の注意を守らないと、  
**火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。**



禁止

### 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 設置時に、製品と壁やラック、棚などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 热器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。



禁止

### 油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所で設置・使用すると、火災や感電の原因となります。

取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での設置・使用は、火災や感電の原因となります。



禁止

### 内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。



指示

### 電源コードのプラグおよびコネクターは突き当たるまで差し込む

真っ直ぐに突き当たるまで差し込まないと、火災や感電の原因となります。



分解禁止

### 内部を開けない

内部には電圧の高い部分があり、キャビネットや裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の調整や設定、点検、修理、別売りのボードの取り付けはお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

## ⚠ 注意

下記の注意を守らないと、  
けがをしたり周辺の物品に損害を  
与えることがあります。



禁止

### 通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- ・壁から10cm以上離して設置する。
- ・密閉された狭い場所に押し込めない。
- ・毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- ・布などで包まない。
- ・あお向けや横倒し、逆さまにしない。



禁止

### 不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。



禁止

### 製品の上に乗らない、重い物 を載せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



注意

### 転倒、移動防止の処置をする

製品をラックに取り付け・取りはずしするときは、転倒・移動防止の処置をしないと、倒れたり、動いたりして、けがの原因となることがあります。

安定した姿勢で注意深く作業してください。

また、ラックの設置状況、強度を充分にお確かめください。



手を挟ま  
ないよう注意

### カセット挿入口に手や指を入 れない

カセットを挿入した後、カセット挿入口に指をはさむのが原因となることがあります。



指示

### 付属の電源コードおよび指定 の接続コードを使用する

付属以外の電源コードおよび指定以外の接続コードを使用すると、火災や感電の原因となります。

他の電源コードや接続コードを使用する場合は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。



指示

### オプション基板の取り付けは 専門の技術者に依頼する

別売りのオプションボードの取り付けを行う場合は、必ずサービストレーニングを受けた技術者にご依頼ください。

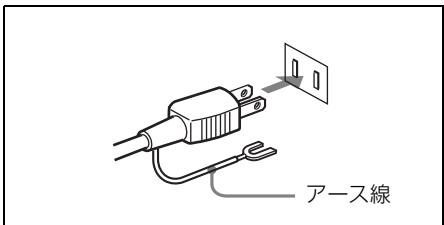


アース線を  
接続せよ

### 安全アースを接続する

安全アースを接続しないと、感電の原因となることがあります。

付属の電源コードのプラグから出ている緑色のアース線を建物に備えられているアース端子に接続してください。



安全アースを取り付けることができない場合は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

## その他の安全上のご注意

### ご注意

日本国内で使用する電源コードセットは、電気用品安全法で定める基準を満足した承認品が要求されます。

ソニー推奨の電源コードセットをご使用ください。

### 設置上のご注意

- 設置時には、通気やサービス性を考慮して設置スペースを確保してください。
  - ファンの排気部をふさがない。
  - 通気のために、セット周辺に空間をあける。
  - 作業エリアを確保するため、セット後方は、10cm 以上の空間をあける。
- 机上などの平面に設置する場合は、セット上部はサービス性を考慮し 10cm 以上の空間を確保することを推奨します。
- 機器を水滴のかかる場所に置かないでください。また水の入った物、花瓶などを機器の上に置かないでください。

### 重要

機器の名称と電気定格は、底面に表示されています。

#### 警告

アースの接続は、必ず電源プラグを電源コンセントへ接続する前に行ってください。

アースの接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてから行ってください。

#### 警告

イヤホンやヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

# 概要

## 本機の特長

HVR-1500A は、HDV<sup>1)</sup> フォーマットと DVCAM<sup>2)</sup>/DV フォーマットを採用したデジタル HD ビデオカセットレコーダーです。映像信号を色信号と輝度信号に分けて（コンポーネント方式）デジタル処理を行うことにより、安定した高画質を実現しています。

本機は、HDV/DVCAM (DV) に対応した iLINK インターフェース、および HD-SDI 入出力、SD-SDI 入出力、デジタルオーディオ AES/EBU 入出力、さらにアナログビデオ出力、アナログオーディオ出力を標準装備し、ノンリニア編集システム、SD リニア編集システム、HD リニア編集システムのフィーダーなど、映像製作の現場における幅広い用途への対応が可能です。

さらに、SD アナログビデオ入力 / オーディオ入力をオプションで装備することができ、SD リニア編集システムのエディティングレコーダーとしてもお使いいただけます。

また、2.7 型 (16 : 9) のカラー液晶ディスプレイを装備し、映像、オーディオレベル、メニューなどの確認を手軽に行うことができます。

本機の SDI 入力端子は SD/HD 兼用です。この端子に HD-SDI 信号を入力し、HDV 1080i フォーマットで記録することができます。

1) HDV および HDV ロゴはソニー株式会社、日本ビクター株式会社の商標です。

2) DVCAM はソニー株式会社の商標です。

以下に本機の主な特長を紹介します。

## HDV フォーマットを採用

HDV、DVCAM フォーマットカセットまたは DV フォーマットカセットにデジタルハイディフィニション (HD) の映像の録画・再生ができます。HDV 映像信号の圧縮方法は、BS デジタルや地上デジタルのハイビジョン放送やブルーレイディスクで採用されている MPEG2 方式です。本機では、HDV フォーマットの中で、有効走査線数 1080 本のインターレース方式 (HDV 1080/60i 方式、および

HDV 1080/50i 方式、画素数 1440 × 1080 ドット) を採用しています。記録時の映像ビットレートは約 25 Mbps です。デジタルインターフェースに iLINK を採用し、HDV に対応する周辺機器との接続が可能です。

◆ 詳しくは「記録フォーマットと入出力信号について」(36 ページ)をご覧ください。

## 高性能ダウンコンバート機能

HDV フォーマットで録画したテープを再生するとき、ダウンコンバートして映像を出力することができるで、デジタルハイディフィニション (HD) に対応していないディスプレイでのモニターも可能です。また、変換モードはスクイーズ、エッジクロップ (サイドカット)、レターボックスから選択できます。

## DVCAM/DV フォーマットを採用

DVCAM は、4 : 1 : 1 (60i 方式) / 4 : 2 : 0 (50i 方式) コンポーネントデジタル方式の家庭用 DV フォーマットをベースにソニーが開発した、業務用の 1/4 インチデジタル記録フォーマットです。

本機では、DVCAM と DV フォーマットの SP モードで記録・再生ができます。

◆ 詳しくは「記録フォーマットと入出力信号について」(36 ページ)をご覧ください。

## ワイドトラック

DVCAM フォーマットの場合の記録トラックの幅は、DV フォーマットの 10μm に対し、50% 広い 15μm を採用しています。これにより、業務用の編集フォーマットとして充分な信頼性を確保しています。

## DV フォーマットおよび DVCPRO (25Mbps) フォーマットの再生機能

DV フォーマット (SP モードのみ) および DVCPRO (25Mbps) 記録のカセットを本機で再生することができます。これらを編集素材としてリニア編集システムで使用する場合は、DVCAM 記録カセットと同様にジョグオーディ

オやデジタルスロー、高速サーチなどの機能が利用でき、迅速な応答による高精度の編集を行うことが可能です。

### ご注意

- DVCPRO フォーマットで記録されたテープのキューオーディオは再生できません。
- DVCPRO フォーマットでの記録はできません。
- DV (LP) フォーマットで記録 / 再生はできません。

### 3 種類のカセットサイズに対応

カセットテープのサイズは、スタンダード (L)、ミニ (S) の2種類があり、本機ではどちらのサイズも使用できます。また、DVCPRO フォーマットのスタンダード (L) および中間 (M) サイズのカセットにも対応しています。

- カセットを入れると、カセットのサイズに合わせて自動的にリール台の位置が移動します。
- カセットアダプターなども不要です。

### アップコンバート / クロスコンバート機能

本機はオプションボード HVBK-1520 を装着することにより、DV/DVCAM/DVCPRO フォーマットの再生信号をアップコンバートして HD-SDI 信号を出力することができます。また、SD ビデオ入力信号をアップコンバートして HD-SDI 信号を出力することも可能です（アップコンバート機能）。

さらに、HDV 記録テープの再生時、およびアップコンバート時の HD-SDI 出力信号を 1080i または 720p 方式へ変換して出力することができます（クロスコンバート機能）。

### 多彩なインターフェース

#### デジタルインターフェース

本機は次のデジタルインターフェースを使用することができます。

**i.LINK (HDV/DV)** : HDV 1080i 方式と DVCAM/DV 方式に対応した、i.LINK 入出力が可能です。

**SD-SDI<sup>1)</sup>** : SD のデジタルビデオ / オーディオ信号を入出力することができます。

**HD-SDI<sup>1)</sup>** : HD のデジタルビデオ / オーディオ信号を入出力することができます。

**AES/EBU** : デジタルオーディオ信号を入出力することができます。

1) SDI 入力は同一の端子を使用して、INPUT SELECT ボタンで SD-SDI 入力と HD-SDI 入力を切り替えます。

### アナログインターフェース

本機はアナログビデオ / オーディオ機器とも接続して使用できるように、豊富なアナログインターフェースを装備しています。

**アナログビデオ** : SD コンポーネント、HD コンポーネント、コンポジット、S ビデオ用の各出力に対応しています。3つのBNC型端子をメニュー設定により、4種類の信号の出力に使い分けることができます。また、モニター専用のコンポジット出力端子を装備し、HDV フォーマットで記録されたテープの再生時にもダウンコンバートされた信号をモニターすることができます。この出力にはタイムコード、動作モード、エラーメッセージなどの文字情報をスーパーインポーズ表示することができます。さらに、別売りのオプションボード HVBK-1505 を装着することで、コンポーネント (SD 信号のみ)、コンポジット、S ビデオの各入力にも対応が可能です。

**アナログオーディオ** : 2 チャンネルの出力を装備しており、4 チャンネルモード時は、1/2 チャンネル出力、3/4 チャンネル出力を選択できます。

アナログ出力インターフェースは標準で装備しているため、放送局や中継車でのビューアーとしてそのまま使用することができます。アナログビデオ / オーディオ信号の入力には、別売りの HVBK-1505 が必要です。

### その他の特長

#### 1080、525/60i (NTSC) および 1080、625/50i (PAL) 両方式に対応

本機は、60i/50i の両方式に対応しています。これらの信号方式は、メニュー設定で切り換えることができます。

◆ 信号方式の切り換えについて詳しくは、「システム周波数を設定する」(26 ページ) をご覧ください。

VTR を接続しての記録・再生はもちろん、パソコンなどで編集した信号をダウンロードする場合、また、本機からパソコンへアップロードする場合にも、60i/50i<sup>1)</sup> のどちらの方式にも対応できます。ただし、60i/50i の方式変換には対応していません。

1) 本機では、フィールド周波数 59.94 Hz を 60i と表示します。

### 16:9 カラー液晶ディスプレイ

2.7 型 (16:9) のカラー液晶ディスプレイを装備しており、記録・再生している内容をその場で確認することができます。セットアップメニュー やオーディオレベル、本機の状態などの文字情報をスーパーインポーズして表示することもできます。

## 高信頼性メカデッキの採用とコンパクトな設計

アルミダイキャスト製メカデッキ、ダイレクトドライブ2リールモーター、ヘッドクリーナーなどを搭載し、耐久性、信頼性に優れたメカニズムを採用しています。

また、19インチラックに2台並べることができるコンパクトなサイズで、スペースの限られる卓上での操作や、ノンリニア編集におけるフィーダーなどに適しています。

また、中継車などで、アナログ／デジタルの各種フォーマットに対応するビューアーとして使用することもできます。

## リモートコントロールが可能

本機はiLINKインターフェースやRS-422Aインターフェースを持つ編集機、DSRM-10（別売り）などのSIRCS<sup>1)</sup>対応リモートコントロールユニットからコントロールできます。

1) SIRCS (Sony Integrated Remote Control System)：ソニー製の業務用ビデオカセットレコーダー／プレーヤーをリモートコントロールするためのコマンドプロトコル。

## タイムコードジェネレーター／リーダーを内蔵

タイムコードジェネレーター／リーダーを内蔵しており、 SMPTE フォーマットに準拠したタイムコードの記録および再生が可能です。

また、TC IN/OUT 端子を使用して、外部へタイムコード (LTC) を出力したり、外部タイムコード (LTC) を本機へ入力することができます。

さらに、DVCAIM フォーマットの場合には VITC にも対応しています。また、SD-SDI、HD-SDI 入出力はエンベッド TC に対応しています。

## リファレンス信号入力が可能

本機に入力されたリファレンス信号をループスルー端子によって、他の接続機器に入力することができます。

ブリッジ接続をしない場合には、75Ωで自動的に終端されます。

本機は SD のリファレンス信号および HD のリファレンス信号 (1080i の 3 値シンク) の入力に対応しています。スルー出力も入力された SYNC と同じ SD または HD の SYNC が出力されます。

## ビデオプロセスコントロール

アナログおよび SDI フォーマットのビデオ出力に対して、ビデオ出力レベル、クロマ信号出力レベル、セットアップレベル、クロマ位相の調整が可能です。調整はメニューで行います。

また、HD 出力も独立して調整することができます。

## メニューによる機能・動作条件の設定

本機を使用目的に合わせてより使いやすくするために、さまざまな機能や動作条件がメニューで設定できるように設計されています。

また、ASSIGN ボタンに希望のメニュー項目を割り当てることで、よく使う機能を速やかに呼び出すことができます。

## メンテナンスを容易にする諸機能

**自己診断・アラーム機能**：操作や接続の誤り、動作異常などを自動的に検出し、これらの内容、原因、対策をビデオモニターやタイムカウンター表示部に表示します。

**デジタル時間計**：通電時間、ドラム回転時間、テープ走行時間、テープスレッディング／アンスレッディング回数の4種類の累積値を算出し、ビデオモニターやタイムカウンター表示部に表示します。

## テスト信号発生器を内蔵 (SD/HD)

本機は、テスト用の SD および HD のビデオ / オーディオ信号発生機能を搭載しています。テストビデオ信号には、カラーバー信号またはブラックバースト信号が選択できます。テストオーディオ信号には、無音信号または 1kHz の正弦波が選択できます。

これらの選択はメニューで行います。

## オプションボード

### アナログ入力ボード HVBK-1505

本機に装着することにより、以下のフォーマットのアナログビデオ / オーディオ信号の入力が可能になります。

**アナログビデオ信号入力**：3つのBNC型端子を以下の3種類の信号で使い分けて入力を行います。

- コンポジットビデオ信号
- S ビデオ信号
- コンポーネントビデオ信号 (Y, R - Y, B - Y)

### アナログオーディオ信号入力

XLR型端子(凹) 2チャンネルのアナログオーディオ信号を入力することができます。

### フォーマットコンバーターボード HVBK-1520

本機に装着することにより、以下の機能が使用可能になります。

**アップコンバート機能**：本機で再生される SD ビデオ信号を HD ビデオ信号にアップコンバートして、HD-SDI 信号 (SMPTE 292M に準拠) を出力することができます。HD-SDI 信号は、アップコンバートされたビデオ信号に同期したオーディオ (4 チャンネル) とタイムコードがエンベッドされて出力されます。

また、本機への SD ビデオ入力信号をアップコンバートして HD-SDI 信号を出力することができます。

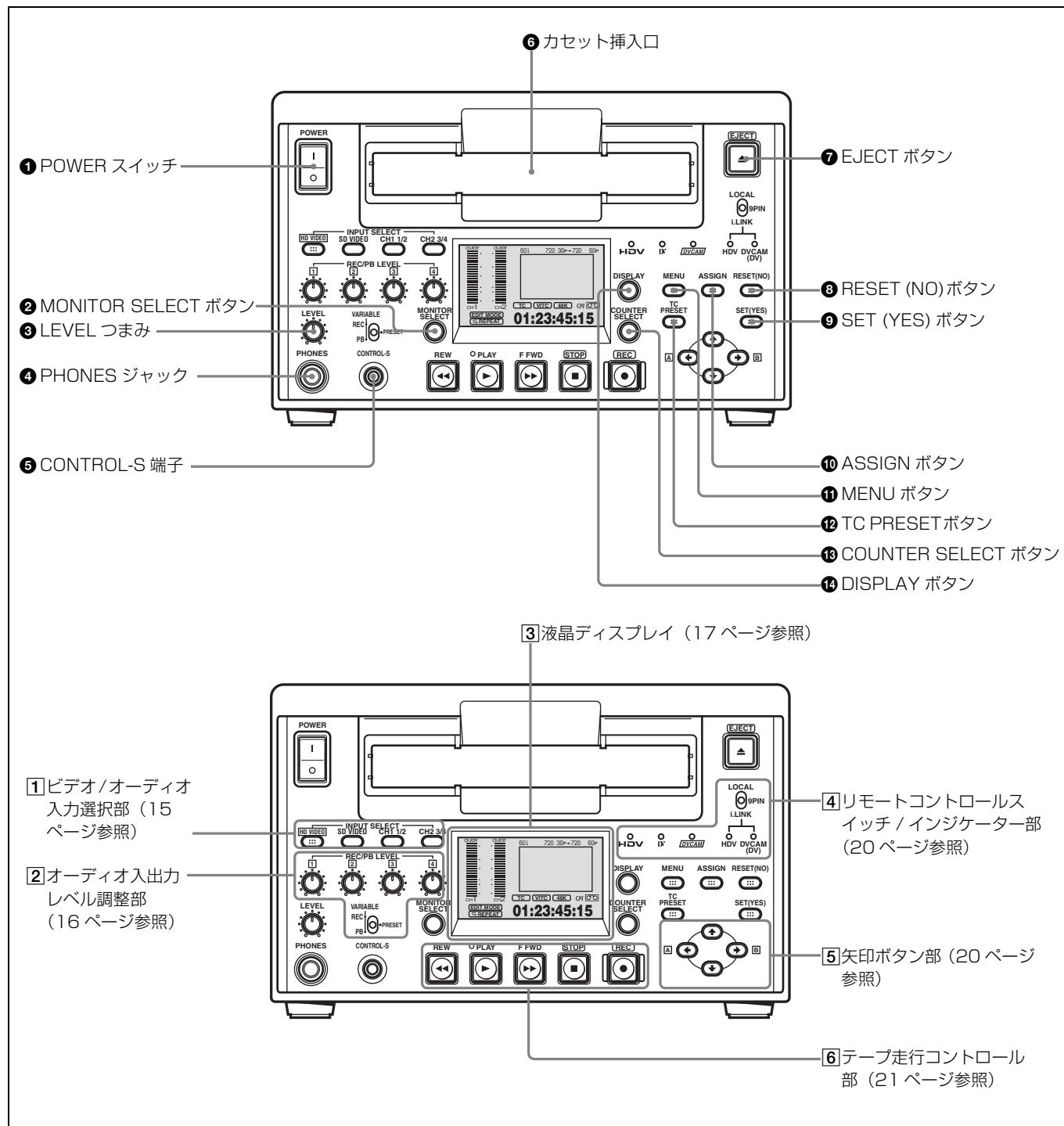
**クロスコンバート機能**：本機への HD ビデオ信号入力時、SD ビデオ信号のアップコンバート時、および HDV 記録されたテープの再生時に、HD-SDI 出力信号フォーマットを 1080i または 720p へ変換して出力することができます。

### △ 注意

オプションボードの取り付けはお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

# 各部の名称と働き

## 前面パネル



### ① POWER (電源) スイッチ

「I」側を押すと電源が入り、液晶ディスプレイが点灯します。電源を切るときは「O」側を押します。

## ② MONITOR SELECT (モニターオーディオ選択) ボタン

PHONES ジャックおよび後面パネルの MONITOR AUDIO 端子に出力するオーディオチャンネルを選択します。液晶ディスプレイにレベルメーターが表示されているとき選択されているチャンネルが、レベルメーター下部に反転表示されます。

## ③ LEVEL (音量調節) つまみ

PHONES ジャックから出力される音量を調整します。後面パネルの MONITOR AUDIO 端子から出力される音量も同時に調整されます。

## ④ PHONES (ヘッドホン) ジャック (ステレオ標準ジャック)

ステレオヘッドホンを接続すると、記録、再生、編集中の音声をモニターできます。モニターするチャンネルは、MONITOR SELECT ボタンで選択します。

液晶ディスプレイにレベルメーターが表示されているとき選択されているチャンネルが、レベルメーター下部に反転表示されます。

## ⑤ CONTROL (コントロール) -S 端子 (ステレオミニジャック)

SIRCS 対応のリモートコントロールユニット (DSRM-10 など、別売り) をこの端子に接続し、本機をリモートコントロールすることができます。

## ⑥ カセット挿入口

HDV、DVCPAM、DV、DVCPRO (25Mbps) フォーマット用のビデオカセットテープを挿入します。

◆ 使用可能なカセットとカセットの取り扱いについて詳しくは、「使用できるカセット」 (41 ページ) をご覧ください。

## ⑦ EJECT (カセット取り出し) ボタン

押すと、数秒後にカセットが排出されます。

## ⑧ RESET (NO) (リセット (ノー)) ボタン

以下のときにこのボタンを押します。

- ・メニューの設定を初期化するとき
- ・本機からの質問に対して NO (ノー) と答えるとき
- ・タイムカウンター表示部のタイムデータをリセットするとき

## ⑨ SET (YES) (セット (イエス)) ボタン

以下のときにこのボタンを押します。

- ・メニューやタイムコードの新しい設定を本機のメモリーに保存するとき
- ・本機からの質問に対して YES (イエス) と答えるとき

## ⑩ ASSIGN (アサイン) ボタン

任意のメニュー項目（第1層、第2層の項目）をこのボタンに割り当てることで、その機能をダイレクトに呼び出せます。

◆ 機能の割り当てについて詳しくは、「ASSIGN ボタンに機能を割り当てる」 (92 ページ) をご覧ください。

## ⑪ MENU (メニュー) ボタン

押すと、液晶ディスプレイおよびコンポジット出力のスーパーインポーズ画面にメニューが表示されます。再度押すと、元の画面に戻ります。

◆ メニューの使いかたについては、「第7章 メニュー」 (73 ページ) をご覧ください。

## ⑫ TC PRESET (タイムコードプリセット) ボタン

内蔵タイムコードジェネレーターのタイムコードの初期値とユーザービットデータを設定するときに押します。

◆ タイムコード初期値の設定方法については、「タイムコード初期値、ユーザービットデータを設定する」 (53 ページ) をご覧ください。

## ⑬ COUNTER SELECT (カウンター表示選択) ボタン

タイムカウンター表示部に表示されるタイムデータの種類を選択します。押すたびに、タイムデータ種別インジケーターの表示が、CNT (カウンターのカウント値) → TC (タイムコード) → UB (ユーザービットデータ) → CNT … の順に切り換わります<sup>1)</sup>。

1) メニュー項目 TC SELECT が VITC に設定されている場合は、CNT (カウンターのカウント値) → VITC (VITC タイムコード) → VIUB (VITC ユーザービットデータ) の順に切り換わります。

## ご注意

本機のリモートコントロールスイッチが 9PIN または iLINK に設定されていて、後面パネルの REMOTE 端子または i HDV/DV 端子に外部機器が接続されているときは、本機の COUNTER SELECT ボタンでは、TC と UB の切り換え操作のみが可能です。タイムデータの表示切り換えは外部機器側から行ってください。

## ⑭ DISPLAY (ディスプレイ) ボタン

液晶ディスプレイの表示モードを次の 3 タイプ間で切り換えることができます。

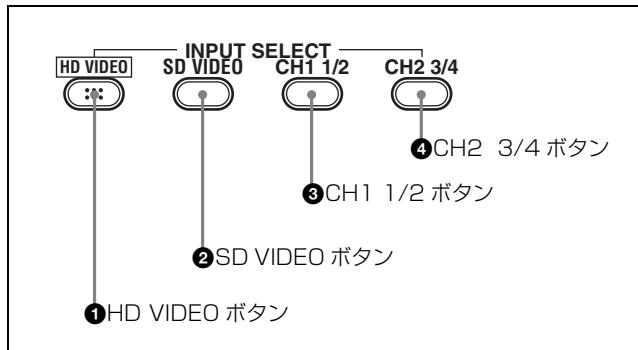
**ステータス表示モード**：入出力信号や、その他の設定の詳細を表示するデフォルト画面モード

**小画面表示モード**：モニター画像を確認しながら、オーディオレベルメーターやタイムコードなどの情報を表示するモード

**全画面表示モード**：モニター画像を全面表示するモード

**ご注意**

メニュー項目 DOWN CONVERTER >CONV MODE を EDGE-CROP に設定すると、本機の液晶ディスプレイの表示は 4:3 のアスペクト比になります。

**① ビデオ / オーディオ入力選択部****INPUT SELECT ボタン**

INPUT SELECT ボタンは入力信号の選択、および記録信号フォーマットの選択に使用します。

HD VIDEO ボタンで選択された入力信号は HDV フォーマットで記録され、SD VIDEO ボタンで選択された入力信号は DV または DVCAM フォーマット<sup>1)</sup> で記録されます。また、SDI 信号は SD、HD とも共通端子 (SD/HD SDI IN) に入力しますが、HD VIDEO ボタンで選択した場合は HD-SDI 入力、SD VIDEO ボタンで選択した場合は SD-SDI 入力になります。iLINK 入力も同様に、HD VIDEO ボタンで選択した場合は iLINK : HDV 入力に、SD VIDEO ボタンで選択した場合は iLINK : DV または DVCAM 入力になります。

オーディオ信号は、HDV 記録の場合は 2 チャンネル、DV/DVCAM 記録の場合はセットアップメニュー<sup>2)</sup> により 2 チャンネル記録または 4 チャンネル記録が選択できます。4 チャンネルが選択された場合は 1/2 チャンネル、3/4 チャンネルの 2 チャンネル単位で入力を選択します。

1) 記録フォーマットの DVCAM/DV の選択は、メニュー項目 REC FORMAT (77 ページ参照) で設定します。

2) オーディオ記録モードを選択するには、メニュー項目 REC MODE (84 ページ参照) で設定します。

**① HD VIDEO (HD ビデオ) ボタン**

HDV フォーマットで記録する入力信号を選択します。

押すとボタンが点灯し、HD ビデオ入力が選択されていることを表示します。

押すたびに、入力信号が次の順に選択されます。

- SD/HD SDI IN 端子に入力される HD-SDI ビデオ信号
- i HDV/DV 端子に入力される HDV フォーマット信号
- メニュー項目 INT VIDEO SG (82 ページ参照) で選択された内蔵のテストビデオ信号

このボタンでの選択により、対応する信号が入力信号表示部 (17 ページ参照) に表示されます。

**② SD VIDEO (SD ビデオ) ボタン**

DV または DVCAM フォーマットで記録する入力信号を選択します。

押すたびに、ビデオ入力信号が次の順に選択されます。

- VIDEO IN 端子に入力されるコンポジットビデオ信号 (別売りの HVBK-1505 装着時)
- VIDEO IN 端子に入力される S ビデオ (Y/C 分離) 信号 (別売りの HVBK-1505 装着時)
- VIDEO IN 端子に入力されるコンポーネント (Y、R-Y、B-Y) 信号 (別売りの HVBK-1505 装着時)
- SD/HD SDI IN 端子に入力される SDI ビデオ信号
- i HDV/DV 端子に入力される DV/DVCAM フォーマット信号<sup>1)</sup>
- メニュー項目 INT VIDEO SG (82 ページ) で選択された、内蔵のテストビデオ信号

このボタンでの選択により、対応する信号が入力信号表示部 (17 ページ参照) に表示されます。

1) 記録フォーマットの DVCAM/DV の選択は、メニュー項目 REC FORMAT (77 ページ参照) で設定します。

**③ CH1 1/2 (オーディオチャンネル 1、1/2) ボタン**

押すたびに、オーディオチャンネル 1 (2 チャンネルモードの場合) またはオーディオチャンネル 1 と 2 (4 チャンネルモードの場合) に入力されるオーディオ信号が以下の順に選択されます。

- AUDIO IN 1/3 端子に入力されるアナログオーディオ信号 (別売りの HVBK-1505 装着時)
- AUDIO I/O (AES/EBU) IN 1/2 端子に入力される AES/EBU フォーマットのデジタルオーディオ信号
- SD/HD SDI IN 端子に入力される SDI オーディオ信号
- メニュー項目 INT AUDIO SG (85 ページ参照) で選択された、内蔵のテストオーディオ信号

このボタンでの選択により、対応する信号が入力信号表示部の CH-1 (17 ページ参照) に表示されます。

アナログオーディオ信号が選択された場合は、AUDIO IN 1/3 端子への入力はチャンネル 1 (2 チャンネルモードの場合) またはチャンネル 1 と 3 (4 チャンネルモードの場合) に記録されます (1 と 3 には同じオーディオ信号が記録されます)。

**④ CH2 3/4 (オーディオチャンネル 2、3/4) ボタン**

押すたびに、オーディオチャンネル 2 (2 チャンネルモードの場合) またはオーディオチャンネル 3 と 4 (4 チャンネルモードの場合) に入力されるオーディオ信号が以下の順に選択されます。

- AUDIO IN 2/4 端子に入力されるアナログオーディオ信号 (別売りの HVBK-1505 装着時)
- AUDIO I/O (AES/EBU) IN 3/4 端子に入力される AES/EBU フォーマットのデジタルオーディオ信号
- SD/HD SDI IN 端子に入力される SDI オーディオ信号
- メニュー項目 INT AUDIO SG (85 ページ参照) で選択された、内蔵のテストオーディオ信号

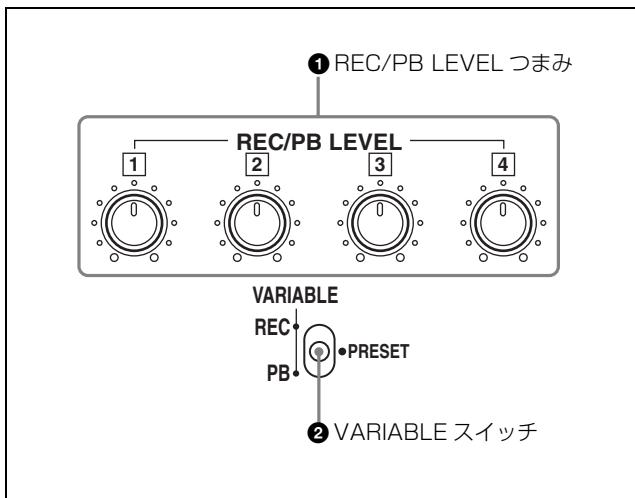
このボタンでの選択により、対応する信号が入力信号表示部の CH-2 (18 ページ参照) に表示されます。

アナログオーディオ信号が選択された場合は、AUDIO IN 2/4 端子への入力はチャンネル 2 (2 チャンネルモードの場合) またはチャンネル 2 と 4 (4 チャンネルモードの場合) に記録されます (2 と 4 には同じオーディオ信号が記録されます)。

VARIABLE スイッチを REC に設定すると、REC/PB LEVEL つまみで各チャンネルごとにオーディオレベルを調整することができます。

オーディオ記録モード (2 チャンネル / 4 チャンネル) は、メニュー項目 REC MODE (84 ページ参照) で切り換えることができます。

## ② オーディオ入出力レベル調整部



### ① REC/PB LEVEL (記録 / 再生オーディオレベル調整) つまみ

これらのつまみは、VARIABLE スイッチの設定により、次のように異なる働きをします。

VARIABLE スイッチの設 定	つまみの働き
PRESET	これらのつまみは無効になり、入出力レベルは固定される。なお、アナログ信号入出力時の基準レベルは、メニュー項目 LEVEL SELECT (85 ページ参 照) で設定した値になる。
REC	デジタルまたはアナログで記録中のオーディオ入力のレベルを、チャンネル 1 ~ 4 で個別に調整する。
PB	デジタルまたはアナログで再生中のオーディオ出力のレベルを、チャンネル 1 ~ 4 で個別に調整する。

### ② VARIABLE (切り換え) スイッチ

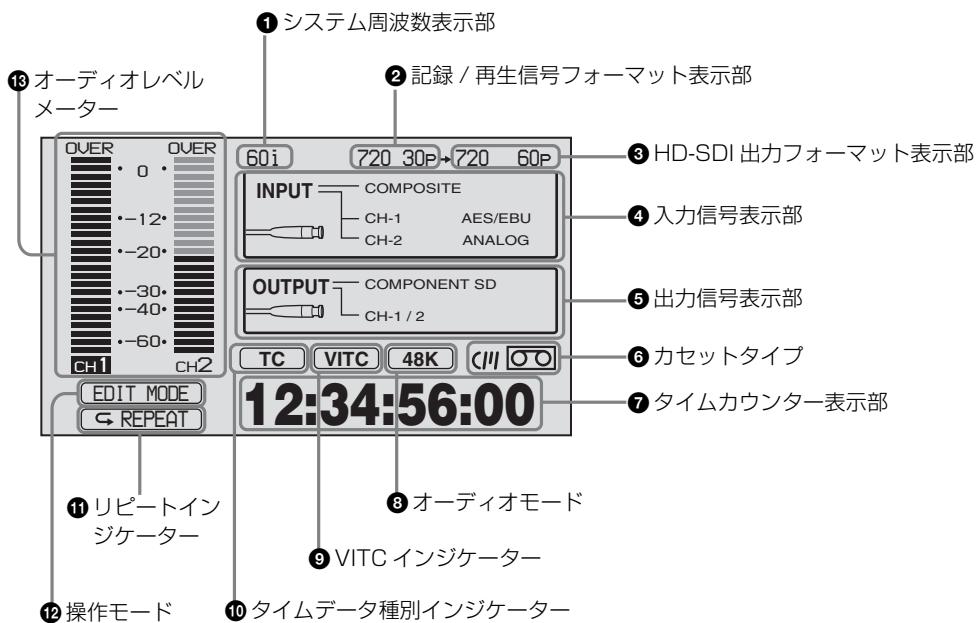
REC/PB LEVEL つまみの働きを切り替えます。

### ご注意

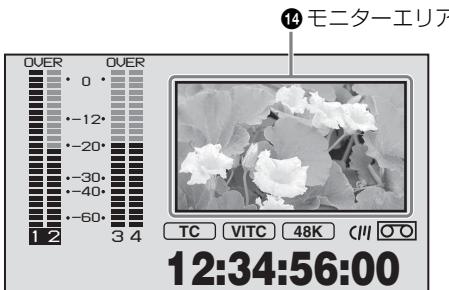
- iLINK (HDV) 入力を選択して HDV フォーマットの信号を記録する場合は、記録オーディオレベルを調整することはできません。
- iLINK 出力のオーディオ信号レベルを REC/PB LEVEL つまみで調整することはできません。ただし、HDV フォーマットで記録されたテープを DVCAM/DV フォーマットへコンバートして iLINK 出力を行う場合には、PB LEVEL 調整が反映されます。

### ③ 液晶ディスプレイ

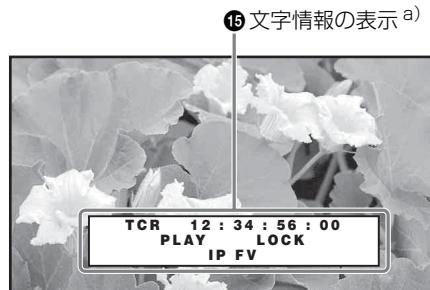
ステータス表示モード



小画面表示モード



全画面表示モード



a) メニュー項目 CHARA. DISPLAY (78 ページ参照) で表示の ON/OFF が設定できます。

本取扱説明書では、本機の液晶ディスプレイと外部接続モニターを「モニター画面」と総称しています。

#### ① システム周波数表示部

メニュー項目 SYSTEM SEL (87 ページ参照) で設定されているシステム周波数を表示します。

**60i** : 59.94i (J) または 59.94i (UC) (NTSC) を選択しているときに表示されます。

**50i** : 50i (PAL) を選択しているときに表示されます。

◆ システム周波数の設定については、「システム周波数を設定する」(26 ページ) をご覧ください。

#### ② 記録 / 再生信号フォーマット表示部

記録 / 再生ビデオフォーマットを表示します。

#### ③ HD-SDI 出力フォーマット表示部

テープ上の記録信号フォーマットを変換して HD SDI OUT 端子から出力する場合、HD-SDI 出力の信号フォーマットが表示されます。

#### ④ 入力信号表示部

ビデオ / オーディオ入力選択部のボタン (i.LINK, VIDEO, CH1 1/2, CH2 3/4) で選択されたビデオ入力とオーディオ入力の信号フォーマットを表示します。

**上段** : ビデオエリア (ビデオの入力信号フォーマットを表示します。)

**下2段** : オーディオエリア (オーディオの入力信号フォーマットを表示します。)

選択した入力に信号がない場合は、対応する入力信号表示が点滅します。

## ご注意

信号入力に必要な別売りのオプションボードが装着されていない場合は、対応する入力信号は表示されません。

### • HD VIDEO 入力が選択されている場合

ビデオエリアの表示	信号フォーマット
SG : HD	HD のテスト信号
HD SDI	HD-SDI ビデオ信号 <sup>1)</sup>
iLINK : HDV	iLINK 準拠 HDV フォーマットのビデオ / オーディオ信号

1) VIDEO OUT 端子からはダウンコンバートされた信号（アナログビデオ出力）が出力されます。

### • SD VIDEO 入力が選択されている場合

ビデオエリアの表示	信号フォーマット
SG : SD	SD のテスト信号（工場出荷時にはこの信号が選択されている。）
COMPOSITE	コンポジットビデオ信号（別売りの HVBK-1505 装着時）
S VIDEO	S ビデオ（Y/C 分離）信号（別売りの HVBK-1505 装着時）
COMPONENT SD	Y、R-Y、B-Y コンポーネント信号（別売りの HVBK-1505 装着時）
SD SDI	SD SDI (D1 フォーマット) ビデオ信号
iLINK : DV または iLINK : DVCAM	iLINK 準拠 DVCA/DV フォーマットのビデオ / オーディオ信号 <sup>1)</sup>

1) メニュー項目 REC FORMAT (77 ページ) による記録フォーマットの設定に従って表示されます。

### • オーディオ

オーディオ入力は、CH1 1/2 と CH2 3/4 の単位で個別に入力を選択できます。次表に、オーディオエリアの表示と選択された信号の対応を示します。

オーディオエリアの表示	信号フォーマット
CH1 1/2 (ANALOG、AES/EBU、SDI、SG)	オーディオチャンネル 1 (2 チャンネルモード時) またはチャンネル 1 と 2 (4 チャンネルモード時) の入力として選択されている信号のフォーマットを表示する。 <b>ANALOG</b> : アナログオーディオ信号（別売りの HVBK-1505 装着時） <b>AES/EBU</b> : AES/EBU フォーマットのデジタルオーディオ信号 <b>SDI</b> : HD-SDI または SD-SDI フォーマットのデジタルオーディオ信号（HD/SD はビデオ入力の選択に従う） <b>SG</b> : テストオーディオ信号（工場出荷時にはこの信号が選択されている。）

オーディオエリアの表示	信号フォーマット
CH-2 3/4 (ANALOG、AES/EBU、SDI、SG)	オーディオチャンネル 2 (2 チャンネルモード時) またはチャンネル 3 と 4 (4 チャンネルモード時) の入力として選択されている信号のフォーマットを表示する。 <b>ANALOG</b> : アナログオーディオ信号（別売りの HVBK-1505 装着時） <b>AES/EBU</b> : AES/EBU フォーマットのデジタルオーディオ信号 <b>SDI</b> : HD-SDI または SD-SDI フォーマットのデジタルオーディオ信号（HD/SD はビデオ入力の選択に従う） <b>SG</b> : テストオーディオ信号（工場出荷時にはこの信号が選択されている。）

## ご注意

iLINK 入力が選択されている場合、オーディオ入力信号は自動的に iLINK 端子からの信号となりオーディオエリアの表示はブランクになります。

### ⑤ 出力信号表示部

INTERFACE SELECT メニュー (86 ページ参照) で選択されている信号フォーマットを表示します。

- 上段** : ビデオエリア（アナログビデオの出力信号フォーマットを表示します。）  
**下段** : オーディオエリア（アナログオーディオ出力端子から出力されるオーディオチャンネルを表示します。）

### ビデオエリアの表示

次のアナログビデオ信号フォーマットを表示します。

ビデオエリアの表示	信号フォーマット
COMPOSITE/S	コンポジットビデオ信号および S ビデオ信号
COMPONENT SD	Y、R-Y、B-Y コンポーネント SD 信号
COMPONENT HD	Y、Pr、Pb コンポーネント HD 信号

この表示に応じて、後面パネルの 4 つのアナログビデオ出力端子 (Y/CPST、Pr/R-Y/S-C、Pb/B-Y/S-Y、(SUPER) CPST) から出力される信号が以下のように切り換わります。

(SUPER) CPST 端子から出力される文字情報は、メニュー項目 CHARA. DISPLAY (78 ページ参照) にて表示 / 非表示を選択できます。

### • COMPOSITE/S が選択されている場合

端子	信号フォーマット
Y/CPST	コンポジットビデオ信号
Pr/R-Y/S-C	C 信号
Pb/B-Y/S-Y	Y 信号
(SUPER) CPST	コンポジットビデオ信号

• COMPONENT SD が選択されている場合

端子	信号フォーマット
Y/CPST	SD Y 信号
Pr/R-Y/S-C	SD R - Y 信号
Pb/B-Y/S-Y	SD B - Y 信号
(SUPER) CPST	コンポジットビデオ信号

• COMPONENT HD が選択されている場合

端子	信号フォーマット
Y/CPST	HD Y 信号
Pr/R-Y/S-C	HD Pr 信号
Pb/B-Y/S-Y	HD Pb 信号
(SUPER) CPST	コンポジットビデオ信号

### オーディオエリアの表示

後面パネルの AUDIO OUT 1/3 端子と AUDIO OUT 2/4 端子から出力されるオーディオ信号の出力チャンネルを表示します。

インジケーター	状態
CH 1/2	チャンネル 1 が AUDIO OUT 1/3 端子、チャンネル 2 が AUDIO OUT 端子 2/4 から出力されます。
CH 3/4	チャンネル 3 が AUDIO OUT 1/3 端子、チャンネル 4 が AUDIO OUT 端子 2/4 から出力されます。

出力チャンネルの選択は、メニュー項目 AUDIO OUTPUT (86 ページ参照) で切り換えることができます。

### ⑥ カセットタイプ

カセットが挿入されているとき表示されます。

**□**：カセットが挿入されているとき

**□□**：カセットメモリー内蔵のカセットが挿入されているとき

**CL □**：クリッププリングデータが内蔵カセットメモリーに書き込まれたカセットが挿入されているとき

### ⑦ タイムカウンター表示部

通常は、COUNTER SELECT ボタンによる選択およびメニュー項目 TC SELECT (80 ページ参照) の設定に応じて、タイムカウンターのカウント値、タイムコード、VITC、またはユーザービットデータを表示します。また、エラーメッセージ、編集点、セットアップメニューなどの表示にも使用されます。

### ⑧ オーディオモード

- 再生時は、テープに記録されたオーディオの記録時のモードを表示します。

**48K** : 2 チャンネルモード (48kHz)

**44.1K** : 2 チャンネルモード (44.1kHz)

**32K** : 4 チャンネルモード (32kHz)

- 記録時、E-E モード時は、メニュー項目 REC MODE (84 ページ参照) によるオーディオ記録モードの設定を表示します。

**48K** : 2 チャンネルモード (48kHz)

**32K** : 4 チャンネルモード (32kHz)

### ご注意

iLINK (HDV) 入力からの記録では、1080/60i または 1080/50i フォーマットの 4 チャンネルモードのオーディオがそのまま記録されます。ただし、本機で再生可能なのは 2 チャンネルまでです。

### ⑨ VITC インジケーター

タイムカウンター表示部の内容にかかわらず、VITC タイムコードが読み取られているとき、または記録されているときに点灯します。

### ⑩ タイムデータ種別インジケーター

タイムカウンター表示部に表示されているタイムデータの種別を示します。

**TC** : SMPTE タイムコード

**UB** : ユーザービットデータ

**CNT** : カウンターのカウント値

**VITC** : VITC のタイムコード

**VIUB** : VITC のユーザービットデータ

### ⑪ リピートインジケーター

メニュー項目 REPEAT MODE (76 ページ参照) が ON のとき点灯します。

### ⑫ 操作モード

現在有効になっているモードを表示します。

**REC INHI (記録禁止)** : 使用中のカセットの REC/SAVE

スイッチが SAVE (記録禁止) になっているとき、またはメニュー項目 REC INHIBIT が ON に設定されているときに表示されます。

**NO EDIT (編集不可)** : DVCAM フォーマット以外の記録テープを再生しているときに表示されます。この表示が現れた場合、その記録テープを編集素材として使用することはできますが、インサート編集やアッセンブル編集などの操作を行うことはできません。また、編集時に本機のオーディオ記録モードとテープのオーディオ記録モードが一致しないときも、表示されます。

**EDIT MODE (編集モード)** : 後面パネル (22 ページ参照) の REMOTE 端子に接続した編集機、または iHDV/DV 端子に接続した外部機器の操作により、本機がアッセンブルやインサートなどの編集モードに設定されると表示されます。DVCAM モードの場合のみ可能です。

### ⑬ オーディオレベルメーター

チャンネル1、2または1~4のオーディオ記録レベル（記録時）またはオーディオ再生レベル（再生時）を表示します。オーディオレベルが0dBを超えると最上部のOVERインジケーターが点灯します。

### ⑭ モニターエリア

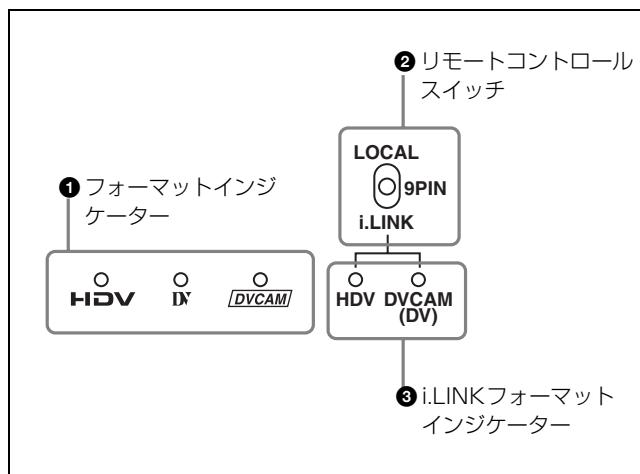
モニター画像が表示されます。

### ⑮ 文字情報の表示

メニューにて設定した文字情報およびサブ情報が表示されます。

- ◆ 文字情報について詳しくは、「文字情報をスーパーインポーズする」（30ページ）をご覧ください。

## ④ リモートコントロールスイッチ / インジケーター部



### ① フォーマットインジケーター

記録、再生時のテープフォーマットおよび入力フォーマットを表示します。

インジケーター	再生時	記録時 / E-E モード時
HDV	HDV フォーマットで記録されたテープを再生しているときに点灯する。	INPUT SELECT の HD VIDEO ボタンを選択した場合に点灯する。
DV	DV (SP) フォーマットで記録されたテープを再生しているときに点灯する。	INPUT SELECT の SD VIDEO ボタンを選択し、メニュー項目 REC FORMAT (77ページ参照) を DV (SP) に設定した場合に点灯する。
DVCAM	DVCAM フォーマットで記録されたテープを再生しているときに点灯する。	INPUT SELECT の SD VIDEO ボタンを選択し、メニュー項目の REC FORMAT を DVCAM に設定した場合に点灯する。

### ご注意

DVCPRO (25Mbps) の記録テープ再生時は、いずれのインジケーターも点灯しません。

### ② リモートコントロールスイッチ

本機の操作を前面パネルで行うか、外部機器 (iLINK または RS-422A (9PIN) によるコントロール) で行うかを選択します。

**LOCAL** : 前面パネルまたは CONTROL-S 端子に接続されたリモートコントロールユニット (SIRCS 対応) で操作します。

**9PIN** : 後面パネルの REMOTE 端子 (9ピン) に接続した外部機器で操作します。

**iLINK** : 後面パネルの i HDV/DV 端子に接続した外部機器で操作します。

### ご注意

工場出荷時は、リモートコントロールスイッチが 9PIN または iLINK に設定されているときは EJECT ボタンと STOP ボタン以外のテープ走行コントロール部のボタンが働かないように、メニューで設定されています。この設定はメニュー項目 LOCAL ENABLE (77ページ参照) で変更できます。

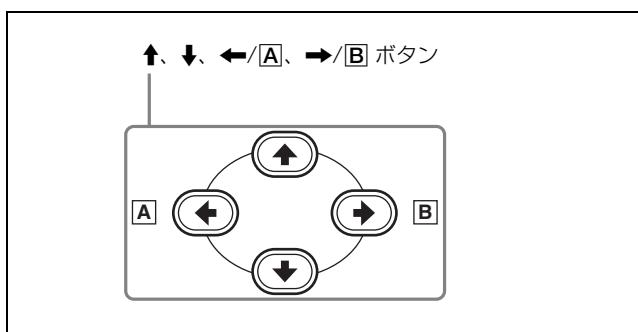
### ③ iLINK フォーマットインジケーター

iLINK 入出力の信号フォーマットを表示します。

**HDV** : HDV 1080i フォーマットの信号を iLINK インターフェースを介して入出力しているときに点灯します。

**DVCAM (DV)** : DVCAM/DV フォーマットの信号を iLINK インターフェースを介して入出力しているときに点灯します。

## ⑤ 矢印ボタン部



### ↑、↓、←/[A]、→/[B] ボタン

メニューの中から項目を選択するとき、およびタイムコードの初期値やユーザービットデータを変更するとき、これらのボタンを使用します。

また、次のようなサーチ再生操作やタイムコード表示にも使用することができます。

- ・高速サーチ再生
- ・コマ送り再生
- ・スロー再生

◆ サーチ再生操作について詳しくは、「変速再生する」(48 ページ)をご覧ください。

#### • リピート再生の A 点、B 点が設定されているとき

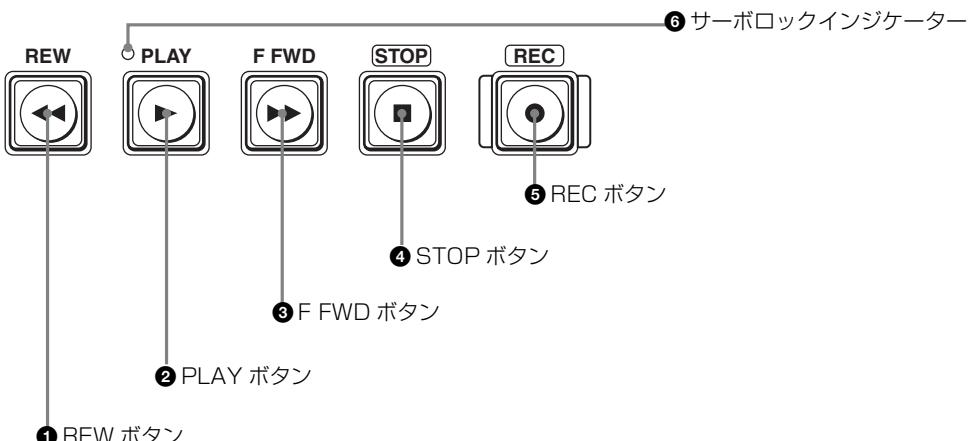
タイムコード表示	矢印ボタンの操作
タイムカウンター表示部に B 点のタイムコードを表示	→/[B] ボタンを押す。
タイムカウンター表示部に A 点のタイムコードを表示	←/[A] ボタンを押す。

タイムコード表示	矢印ボタンの操作
(B 点の TC) - (A 点の TC) の値を表示	←/[A] ボタンと →/[B] ボタンを同時に押す。

#### • リピート再生の A 点、B 点へキューアップするとき

キューアップ	矢印ボタンの操作
B 点へキューアップ	→/[B] ボタンと、F FWD ボタンまたはREW ボタンを同時に押す。
A 点へキューアップ	←/[A] ボタンと、F FWD ボタンまたはREW ボタンを同時に押す。

## 6 テープ走行コントロール部



### ① REW (巻き戻し) ボタン

押すとランプが点灯し、テープを巻き戻します。  
メニュー項目 AUTO EE SELECT >F.FWD/REW (77 ページ参照) が PB に設定されているときは、巻き戻し中の画像を見ることができます。

### ② PLAY (再生) ボタン

押すとランプが点灯し、再生が始まります。  
記録または編集中に PLAY ボタンを押すと、記録または編集が中止され、本機は再生モードになります。

### ③ F FWD (早送り) ボタン

押すとランプが点灯し、テープを早送りします。  
メニュー項目 AUTO EE SELECT >F.FWD/REW (77 ページ参照) が PB に設定されているときは、早送り中の画像を見ることができます。

### ④ STOP (停止) ボタン

押すとテープ走行が停止します。

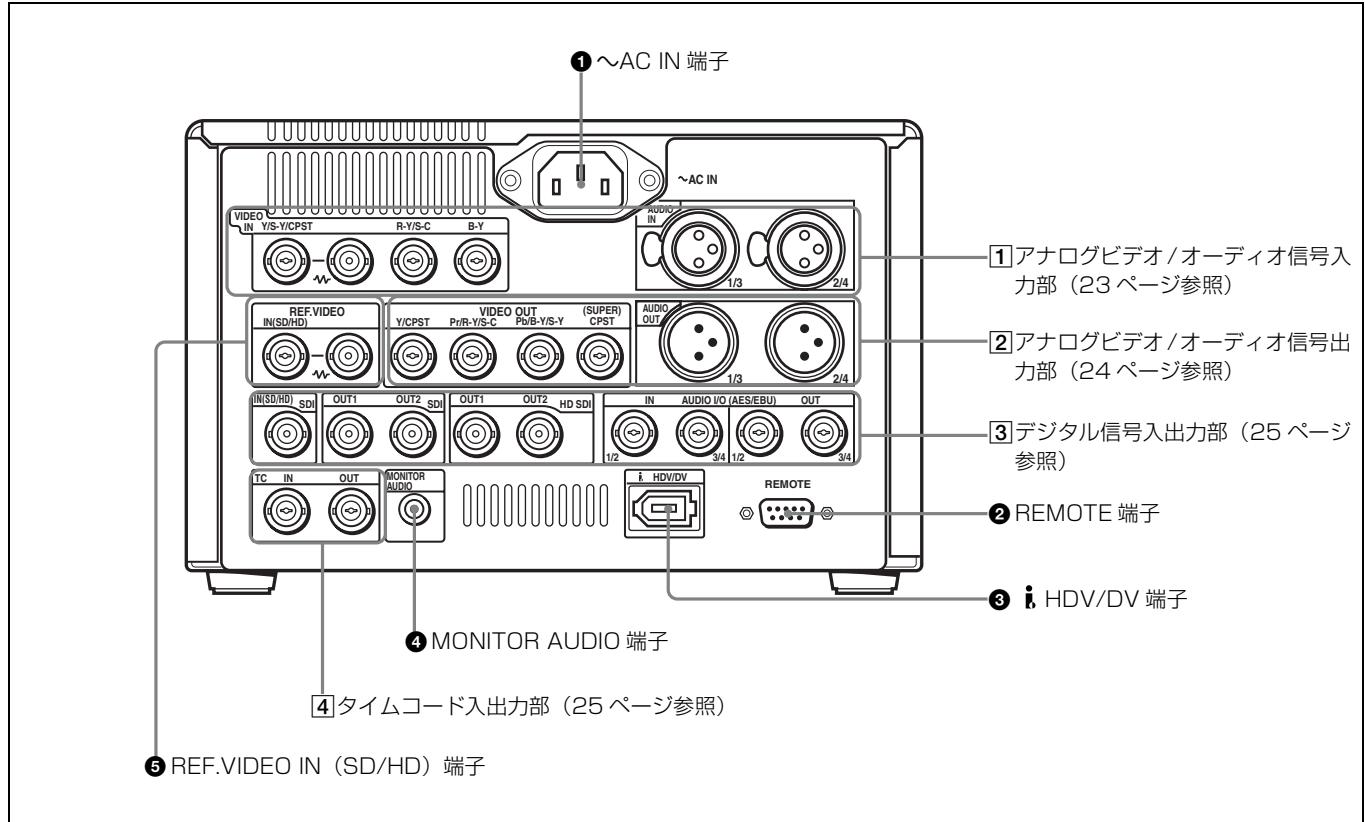
### ⑤ REC (記録) ボタン

このボタンを押したまま PLAY ボタンを押すとランプが点灯し、記録が始まります。

### ⑥ サーボロックインジケーター

記録 / 再生時にサーボロックされると点灯します。

## 後面パネル



### ① ~AC IN (AC 電源入力) 端子

付属の電源コードを使って、AC 電源に接続します。

### ② REMOTE (リモート) 端子 (D-sub 9 ピン)

本機に対応したエディティングコントローラーや 2 台編集機能を持つ VTR (DSR-2000A など) を本機に接続してリモートコントロールするとき、別売りの 9 ピンリモートケーブルで接続します。

### ③ i HDV/DV (HDV/DV 入出力) 端子 (6 ピン) (IEEE1394 コネクター)

HDV/DVCAM/DV フォーマットのデジタルビデオ / オーディオ信号を入出力します。

また、本機に対応したノンリニア編集機や 2 台編集機能を持つ VTR (DSR-2000A など) を、6 ピン iLINK ケーブル (別売り) で接続すると、リモート操作が可能になります。

#### ご注意

- 6 ピン型の HDV/DV 端子を持つ機器と本機を iLINK ケーブルで接続する場合、iLINK ケーブルを抜き差しするときは、あらかじめ機器の電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。機器の電源プラグを差したもので iLINK ケーブルを抜き差しすると、機器の HDV/

DV 端子から出力している高圧電流 (8 ~ 40V) が本機に流れ込み、本機の故障の原因となる恐れがあります。

- 6 ピン型の HDV/DV 端子を持つ機器と本機を接続する場合は、機器の 6 ピン型の HDV/DV 端子から先に接続してください。
- + $1/2$  ~ + $1/30$  倍速、- $1/30$  ~ - $1/2$  倍速でサーチを行っているときは、この端子から出力されるオーディオ信号を他の機器でモニターすると、本機で再生したオーディオ信号と異なる音声になることがあります。

### ④ MONITOR AUDIO (モニターオーディオ出力) 端子 (ピンジャック)

モニター用のオーディオ信号を出力します。モニターオーディオのチャンネルは、MONITOR SELECT ボタン (14 ページ参照) で選択できます。

### ⑤ REF.VIDEO IN (SD/HD) (基準ビデオ信号入力 / ループスルー出力) 端子 (BNC 型)

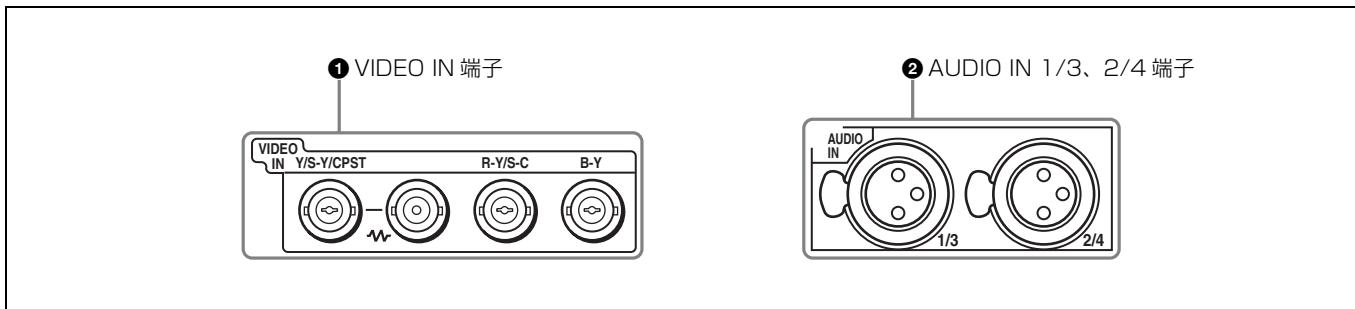
2 個の端子はループスルーになっており、左側に基準ビデオ信号を入力すると、右側の端子 (W) に接続された機器に同じ信号が出力されます。右側の端子に何も接続されていない場合は、自動的に  $75\Omega$  で終端されます。

**ご注意**

iLINK 入力選択時は、再生出力信号は基準ビデオ信号入力に同期しません。

**① アナログビデオ / オーディオ信号入力部（別売りの HVBK-1505 装着時）**

アナログビデオ / オーディオ信号入力部の端子は、別売りの HVBK-1505 装着時に使用できるようになります。

**① VIDEO IN (ビデオ入力) 端子 (BNC 型)**

アナログビデオ信号入力用の端子で、以下の 3 種類があります。

- Y/S-Y/CPST (ループスルー)
- R-Y/S-C
- B-Y

これらの端子に入力する信号は、ビデオ / オーディオ入力選択部の SD VIDEO ボタン (15 ページ参照) の設定によって決まります。

SD VIDEO ボタンで何が選択されているかは、入力信号表示部のビデオエリア (17 ページ参照) に表示されます。入力できる信号は以下のとおりです。

**• COMPOSITE が選択されている場合**

端子	入力信号
Y/S-Y/CPST	コンポジットビデオ信号
R-Y/S-C	使用しない
B-Y	使用しない

Y/S-Y/CPST の 2 個の端子はループスルーになっており、左側にコンポジットビデオ信号を入力すると、右側の端子 ( ) に接続された機器にも同じ信号が出力されます。右側の端子に何も接続されていない場合は、自動的に  $75\Omega$  で終端されます。

**• S VIDEO が選択されている場合**

端子	入力信号
Y/S-Y/CPST	Y 信号
R-Y/S-C	C 信号 (3.58MHz)
B-Y	使用しない

**• Y-R、B が選択されている場合**

端子	入力信号
Y/S-Y/CPST	Y 信号
R-Y/S-C	R-Y 信号
B-Y	B-Y 信号

**② AUDIO IN (オーディオ入力) 1/3、2/4 端子 (XLR 3 ピン、凹)**

プレーヤーまたはオーディオ機器からのアナログオーディオ信号を、1/3 と 2/4 のそれぞれに入力します。

オーディオ記録モード (2 チャンネル / 4 チャンネル) の設定により、各端子の信号の記録先が以下のように異なります。

**• 2 チャンネル (48kHz) モードが選択されている場合**

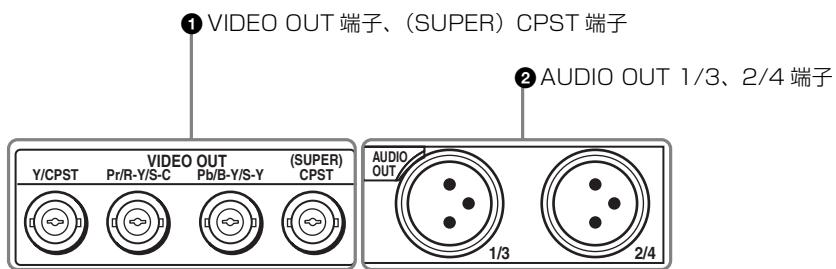
端子	記録先チャンネル
AUDIO IN 1/3	オーディオチャンネル 1
AUDIO IN 2/4	オーディオチャンネル 2

**• 4 チャンネル (32kHz) モードが選択されている場合**

端子	記録先チャンネル
AUDIO IN 1/3	オーディオチャンネル 1、3
AUDIO IN 2/4	オーディオチャンネル 2、4

なお、オーディオ記録モードは、メニュー項目 REC MODE (84 ページ参照) で切り換えることができます。ただし、HDV 記録時はメニュー設定にかかわらず、2 チャンネルモードになります。

## 2 アナログビデオ / オーディオ信号出力部



### ① VIDEO OUT (ビデオ出力) 端子、(SUPER) CPST (モニター出力) 端子 (BNC型)

VIDEO OUT 端子は、アナログビデオ信号出力用の端子で、以下の3種類があります。

- Y/CPST
- Pr/R-Y/S-C
- Pb/B-Y/S-Y

これらの端子から出力する信号は、メニュー項目 VIDEO OUTPUT (86 ページ参照) の設定によって決まります。メニューで何が選択されているかは、出力信号表示部のビデオエリア (18 ページ参照) に表示されます。出力できる信号は以下のとおりです。

#### • COMPOSITE&S-VIDEO が選択されている場合

端子	出力信号
Y/CPST	コンポジットビデオ信号
Pr/R-Y/S-C	C 信号
Pb/B-Y/S-Y	Y 信号
(SUPER) CPST	コンポジットビデオ信号

#### • COMPONENT (SD) が選択されている場合

端子	出力信号
Y/CPST	SD Y 信号
Pr/R-Y/S-C	SD R-Y 信号
Pb/B-Y/S-Y	SD B-Y 信号
(SUPER) CPST	コンポジットビデオ信号

#### • COMPONENT (HD) が選択されている場合

端子	出力信号
Y/CPST	HD Y 信号
Pr/R-Y/S-C	HD Pr 信号
Pb/B-Y/S-Y	HD Pb 信号
(SUPER) CPST	コンポジットビデオ信号

また、(SUPER) CPST (モニター出力) 端子は、モニター専用のコンポジット出力端子です。(SUPER) CPST 端子から出力される文字情報は、メニュー項目

CHARA.DISPLAY (78 ページ参照) にて表示 / 非表示を選択できます。

### ② AUDIO OUT (オーディオ出力) 1/3、2/4 端子 (XLR 3 ピン、凸)

アナログオーディオ信号を出力します。

再生オーディオモードとメニュー項目 AUDIO OUTPUT (86 ページ参照) の設定 (1/2 CH または 3/4 CH) により、各端子の出力チャンネルが以下のように決まります。

#### • 2 チャンネルモード (48kHz または 44.1kHz)

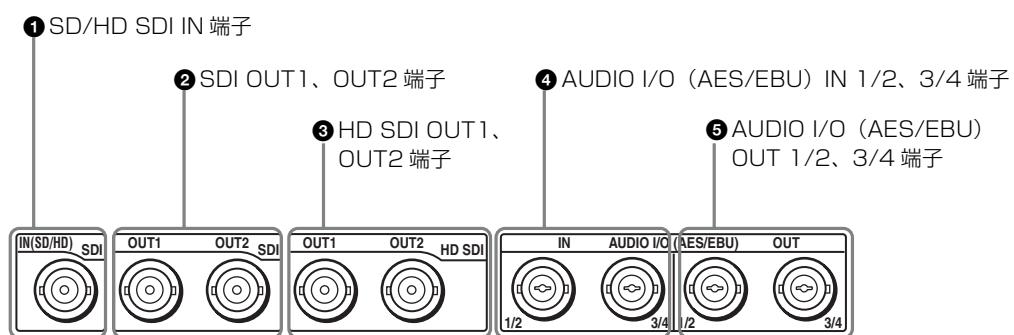
端子	出力オーディオチャンネル
AUDIO OUT 1/3	オーディオチャンネル 1 (1/2 CH の場合) または無音 (3/4 CH の場合)
AUDIO OUT 2/4	オーディオチャンネル 2 (1/2 CH の場合) または無音 (3/4 CH の場合)

#### • 4 チャンネルモード (32kHz)

HDV テープ再生時は 2 チャンネルモードになります。

端子	出力オーディオチャンネル
AUDIO OUT 1/3	オーディオチャンネル 1 (1/2 CH の場合) またはオーディオチャンネル 3 (3/4 CH の場合)
AUDIO OUT 2/4	オーディオチャンネル 2 (1/2 CH の場合) またはオーディオチャンネル 4 (3/4 CH の場合)

### ③ デジタル信号入出力部



#### ① SD/HD SDI IN (SDI 信号入力) 端子 (BNC 型)

HD-SDI または SD-SDI フォーマットのビデオ / オーディオ信号を入力します。INPUT SELECT ボタンの HD VIDEO ボタンまたは SD VIDEO ボタンにより、HD または SD を選択します。

HD-SDI 入力設定時は、以下の信号フォーマットに対応しています。

- 1080/59.94i (システム周波数が 60i のとき)
- 1080/50i (システム周波数が 50i のとき)

現在の設定は、入力信号表示部 (17 ページ参照) に表示されます。

#### ご注意

1035/59.94i、1080/29.97PsF 信号は 1080/59.94i 信号として、1080/25PsF 信号は 1080/50i 信号として扱われます。

#### ② SDI OUT1、OUT2 (SDI 信号出力 1、2) 端子 (BNC 型)

SDI フォーマット (SD) のビデオ / オーディオ信号を出力します。

#### ③ HD SDI OUT1、OUT2 (HD-SDI 信号出力 1、2) 端子 (BNC 型)

HD-SDI フォーマットのビデオ / オーディオ信号を出力します。

オプションボード HVBK-1520 装着時は、DV/DVCAM/DVCPRO テープの再生時や SD ビデオ信号入力時にも、アップコンバートされた信号が出力されます。

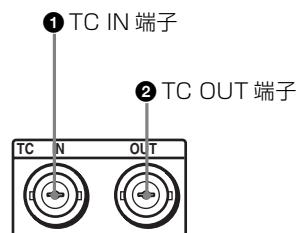
#### ④ AUDIO I/O (AES/EBU) IN (デジタルオーディオ入力) 1/2、3/4 端子 (BNC 型)

AES/EBU フォーマットのデジタルオーディオ信号を入力します。左側の端子 (1/2) がオーディオチャンネル 1 と 2 に、右側の端子 (3/4) がオーディオチャンネル 3 と 4 に、それぞれ対応しています。

#### ⑤ AUDIO I/O (AES/EBU) OUT (デジタルオーディオ出力) 1/2、3/4 端子 (BNC 型)

AES/EBU フォーマットのデジタルオーディオ信号を出力します。左側の端子 (1/2) がオーディオチャンネル 1 と 2 に、右側の端子 (3/4) がオーディオチャンネル 3 と 4 に、それぞれ対応しています。

### ④ タイムコード入出力部



#### ① TC IN (タイムコード入力) 端子 (BNC 型)

外部機器で発生させた SMPTE タイムコードを入力します。

#### ② TC OUT (タイムコード出力) 端子 (BNC 型)

本機の動作状態に応じて以下のタイムコードを出力します。

**再生時**：再生タイムコード

**記録時**：内蔵のタイムコードジェネレーターで発生するタイムコード、または TC IN 端子に入力されたタイムコード。

メニュー項目 EE OUT PHASE (81 ページ参照) が NO OUTPUT に設定されている場合は、タイムコードは出力されません。

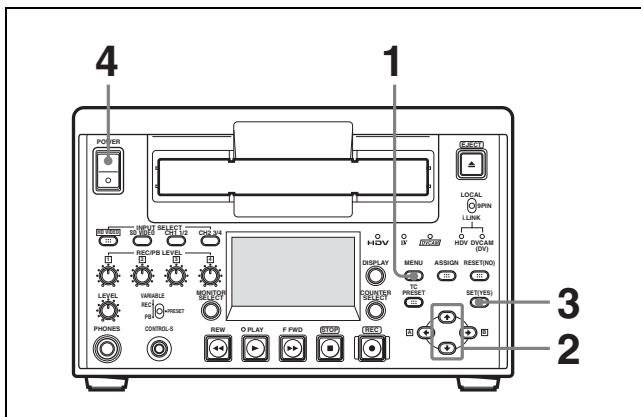
## ご使用になる前に

### システム周波数を設定する

本機はシステム周波数が日本向け（59.94i）に設定された状態で出荷されています。

### システム周波数を日本向け以外に設定するには

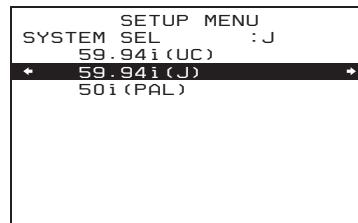
次のように操作します。



**1** MENU ボタンを押して、セットアップメニュー項目 SYSTEM SEL (87 ページ参照) を選択する。

**2** ↑ ボタンまたは ↓ ボタンを押して、使用地域を選択する。

システム周波数を日本向けに戻す場合は、59.94i (J) を選択します。



**59.94i J**  
タイムカウンター  
表示部

モニター画面

**3** SET (YES) ボタンを押す。

モニター画面には「NOW SAVING...」、タイムカウンター表示部には「Saving...」と表示され、変更した設定が本機のメモリーに保存されます。

保存が終了すると、「ALARM システムを変更しました。Power OFF → ON して下さい。」が表示されます。

**4** POWER スイッチを押していったん電源を切り、再度電源を入れる。

システム周波数が設定され、本機が使用できるようになります。

### 初期設定（セットアップメニュー）

本機をご使用になるために必要な設定をセットアップメニューで行います。

セットアップメニューには、BASIC（基本）メニューと ENHANCED（拡張）メニューがあり、それぞれ次のような項目があります。

#### BASIC メニュー

- 操作に関する項目
- 表示に関する項目
- タイムコードに関する項目
- システム周波数の選択に関する項目

#### ENHANCED（拡張）メニュー

- テープ保護に関する項目
- ビデオ操作に関する項目
- オーディオ操作に関する項目

- 出力端子（フォーマット）に関する項目
  - メニューバンクに関する項目
- ◆ 各メニュー項目について詳しくは、「第7章 メニュー」(73ページ)をご覧ください。

## メニューの操作方法

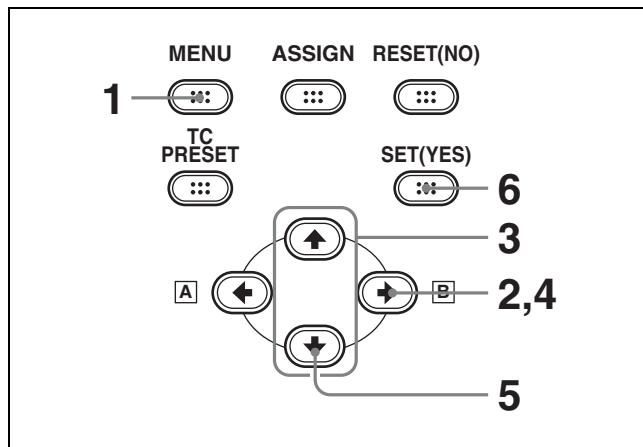
### 設定変更に使用するボタン

メニューの設定変更操作には、メニュー操作部にある次のボタンを使います。

メニュー操作ボタン	働き
MENU ボタン	<ul style="list-style-type: none"> <li>メニューを開いて、メニュー設定モードに入る。</li> <li>メニューを閉じて、メニュー設定モードを終了する。</li> </ul>
↑、↓ ボタン	1つの層の中で反転カーソルを上下に移動して、項目や設定を選ぶ。押したままにすると、反転カーソルが移動し続ける。
←/[A]、→/[B] ボタン	<ul style="list-style-type: none"> <li>→/[B] ボタンで下層に移動する。</li> <li>←/[A] ボタンで上層に移動する。</li> </ul> <p>押したままにすると、反転カーソルが移動し続ける。</p>
RESET (NO) ボタン	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定を工場出荷時の状態に戻す。</li> <li>モニター画面に表示される質問に、NOと答える。</li> </ul>
SET (YES) ボタン	<ul style="list-style-type: none"> <li>変更後の設定をメモリーに保存する。</li> <li>モニター画面に表示される質問に、YESと答える。</li> </ul>

### ENHANCED (拡張) メニューを表示する

工場出荷時は、BASIC (基本) メニューだけが表示されるように設定されています。ENHANCED (拡張) メニューを表示するときは次の手順で行います。

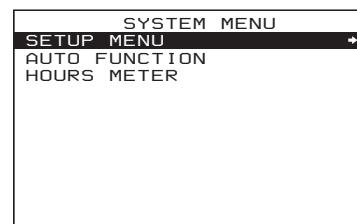


### 1 MENU ボタンを押す。

液晶ディスプレイおよび外部モニターにメニュー選択層が表示されます。

下図の例では、SETUP MENU (セットアップメニュー) が選択 (反転表示) されています。

本機のタイムカウンター表示部には、選択されている項目のみが表示されます。項目名が長い場合は省略形で表示されます。

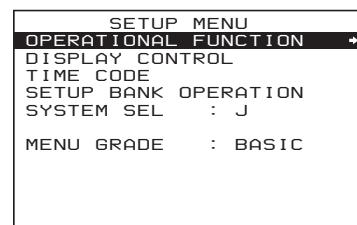


モニター画面



### 2 SETUP MENU が反転表示された状態で、→/[B] ボタンを押す。

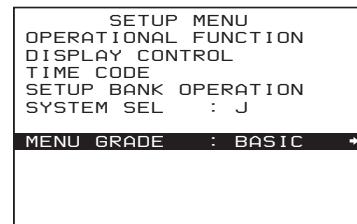
セットアップメニューの第1層にある BASIC メニューがすべて表示されます。



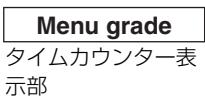
モニター画面



### 3 ↑ ボタンまたは ↓ ボタンを押して、MENU GRADE を選択する。

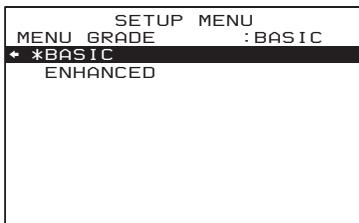


モニター画面



### 4 →/[B] ボタンを押す。

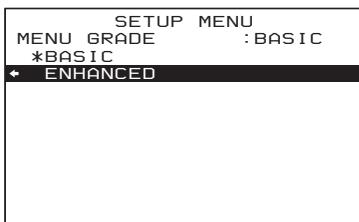
MENU GRADE の第2層が表示されます。



モニター画面

表示	意味
項目名の右側に表示される文字列	そのメニューの項目の現在の設定 「:」が付いているとき：現在の設定が工場出荷時の設定と同じ (27 ページの手順 3 参照) 「・」が付いているとき：現在の設定が工場出荷時の設定と異なっている (91 ページの「ENHANCED (拡張) メニューの設定を変更する」の手順 2 参照)

5 ↓ ボタンを押して、ENHANCED を選択する。



モニター画面

表示	意味
選択した項目のすべての設定が表示されているときの「*」 (27 ページの手順 4 参照)	工場出荷時の設定

6 SET (YES) ボタンを押す。

モニター画面には「NOW SAVING...」、タイムカウンター表示部には「Saving...」と表示され、変更した設定が本機のメモリーに保存されます。  
保存が終了すると、モニター画面とタイムカウンター表示部の表示は通常の状態に戻ります。

### ご注意

- 保存中に本機の電源を切ると、設定データが失われることがあります。保存が完了するまで、電源を切らないでください。
- SET (YES) ボタンを押さずに MENU ボタンを押すと、新しい設定は保存されません。モニター画面に「ABORT !」が、タイムカウンター表示部には「Abort !」が、それぞれ 0.5 秒間表示され、メニューは強制終了されます。複数の項目の設定を変更する場合は、すべての設定変更を終了した後に、必ず SET (YES) ボタンを押してください。

## モニター画面の表示の意味

表示	意味
画面右端に表示される ⇒ (27 ページの手順 1 参照)	→/[B] ボタンを押すことにより、1 つ下の層のメニュー画面または設定選択画面に進める。
画面左端に表示される ⇐ (27 ページの手順 4 参照)	←/[A] ボタンを押すことにより、1 つ前の（1 つ上の層の）メニュー画面に戻れる。

表示	意味
選択した項目のすべての設定が表示されているときの「*」 (27 ページの手順 4 参照)	工場出荷時の設定

## ASSIGN ボタンを使用する

前面パネルの ASSIGN ボタンに希望のメニュー項目（第 1 層または第 2 層）を割り当てることができます。よく使うメニューを割り当てておくと、ASSIGN ボタンを押すだけで呼び出すことができます。

◆ ASSIGN ボタンへの機能の割り当てについて詳しくは、「ASSIGN ボタンに機能を割り当てる」（92 ページ）をご覧ください。

## 液晶ディスプレイの画質を調整する

メニュー項目 LCD (79 ページ参照) で液晶ディスプレイのバックライトの明るさやガンマ補正カーブの傾きを調整することができます。

◆ 液晶ディスプレイの画質調整について詳しくは、「第 7 章 メニュー」（73 ページ）をご覧ください。

# 外部モニターと接続する

## ご注意

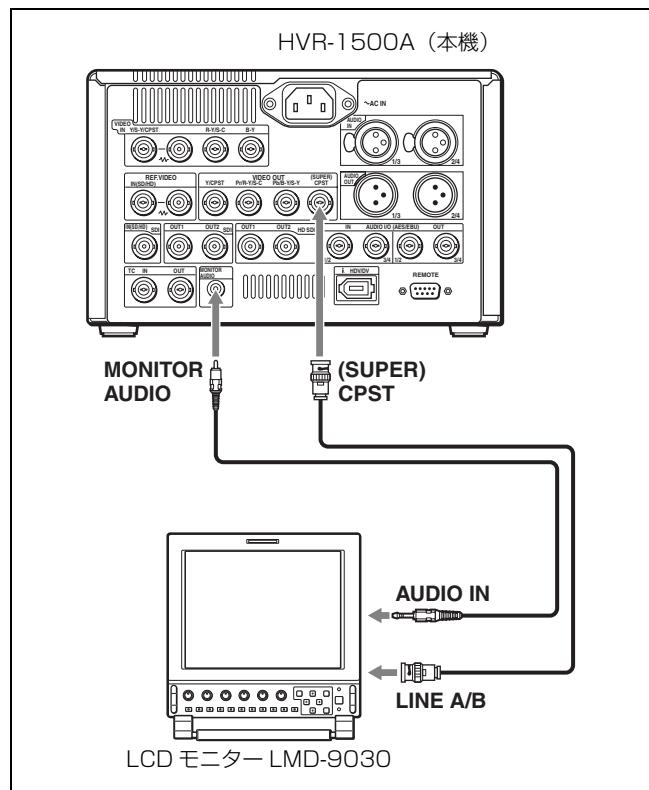
本章で記載されている周辺機器や関連機器は、すでに「生産完了」となっている場合があります。機器の選定にあたっては、ソニーの営業担当者またはお買い上げ店にお問い合わせください。

本機の映像出力端子や MONITOR AUDIO 端子にソニー製 LCD モニターを接続する場合の例を示します。

- ◆ 出力映像にタイムコードや本機の動作状態などの文字情報をスーパーインポーズ（付加）することができます。詳しくは、「文字情報をスーパーインポーズする」（30 ページ）をご覧ください。

## 映像を見るには

次図のように接続します。



## 接続方法と接続ケーブル

接続方法	接続ケーブル (別売り)
コンポジット ((SUPER) CPST)	75Ω 同軸ケーブル、 ピンプラグ-ミニプラグケーブル
オーディオ (MONITOR AUDIO)	

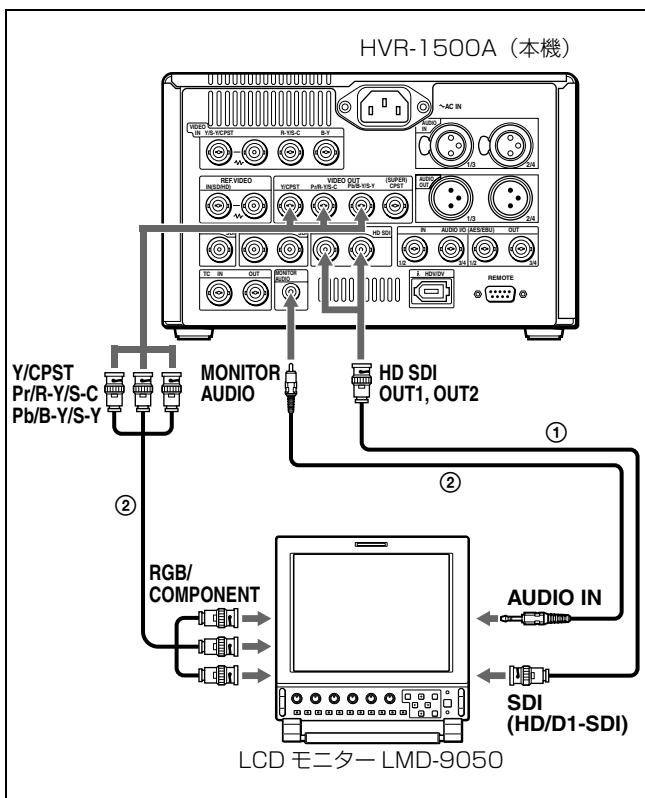
## ご注意

HDV フォーマットの映像は、SD 信号にダウンコンバートされます。

## HD の映像を見るには

次図の ① または ② の方法で接続します。

② の方法で接続するときは、メニュー項目 INTERFACE SELECT > VIDEO OUTPUT を、COMPONENT (HD) に設定します (86 ページ参照)。



## 接続方法と接続ケーブル

	接続方法	接続ケーブル (別売り)
①	HD-SDI	75Ω 同軸ケーブル
②	コンポーネント (Y/CPST、 Pr/R-Y/S-C、 Pb/B-Y/S-Y) オーディオ (MONITOR AUDIO)	75Ω 同軸ケーブル ピンプラグ-ミニプラグケーブル

# 文字情報をスーパーインポーズする

本機の(SUPER) CPST 端子から出力されるコンポジットビデオ信号に、タイムコード、メニュー設定、アラームメッセージなどの文字情報をスーパーインポーズ(重ねて表示)することができます。

## 文字情報の表示をオン / オフするには

メニュー項目 DISPLAY CONTROL >CHARA. DISPLAY (78 ページ参照) で設定します。

ON : 文字情報を表示する。

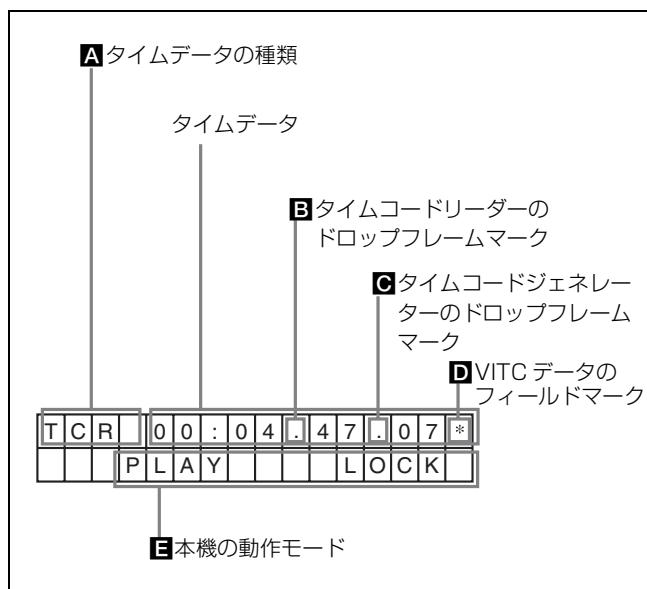
OFF : 文字情報を表示しない。

- ◆ タイムコードの設定、表示について詳しくは、「第4章 タイムデータを活用する」(53 ページ) をご覧ください。

## 文字を調節するには

スーパーインポーズされる文字の位置、大きさ、種類は、メニュー項目 DISPLAY CONTROL (78 ページ参照) の各項目で設定します。

## 表示内容



### A タイムデータの種類

タイムデータの種類によって、次のように表示されます。

表示	内容
CNT	タイムカウンターのカウント値
TCR	タイムコードリーダーが読み取ったタイムコード (工場出荷時の設定)
UBR	タイムコードリーダーが読み取ったユーザービットデータ
TCR.	VITC リーダー <sup>a)</sup> が読み取ったタイムコード
UBR.	VITC リーダー <sup>a)</sup> が読み取ったユーザービットデータ
TCG	タイムコードジェネレーターが発生しているタイムコード
UBG	タイムコードジェネレーターが発生しているユーザービットデータ
T*R <sup>b)</sup>	テープに記録されたタイムコードが正しく読み取れなかつたので、タイムコードリーダーがタイムコードデータを補間処理した。
U*R <sup>b)</sup>	テープに記録されたユーザービットデータが正しく読み取れなかつたので、タイムコードリーダーが前の(正しく読み取れた) ユーザービットデータを保持した。

a) タイムコードと VITC の切り換えは、メニュー項目 TC SELECT (80 ページ参照) で行います。

b) アスタリスク (\*) は、データがテープから正しく読み取れなかつた場合に表示されます。

### B タイムコードリーダーのドロップフレームマーク

.	ドロップフレームモード
:	ノンドロップフレームモード

### C タイムコードジェネレーターのドロップフレームマーク

.	ドロップフレームモード (工場出荷時の設定)
:	ノンドロップフレームモード

### D VITC データのフィールドマーク

" " (空白)	フィールド 1、3 を表示するとき
" * "	フィールド 2、4 を表示するとき

### E 本機の動作モード

表示	動作モード
CASSETTE OUT	カセットが挿入されていない。
THREADING	テープのローディング中
UNTHREADING	テープのアンローディング中
STANDBY OFF	スタンバイオフモード
T.RELEASE	テンションリリースモード
STOP	ストップモード
F.FWD	早送りモード
REW	巻き戻しモード
PREROLL	プリロールモード
PLAY	再生モード (サーボアンロック)
PLAY-PAUSE	再生一時停止モード
PLAY LOCK	再生モード (サーボロック)

表示	動作モード
REC	記録モード（サーボアンロック）
REC LOCK	記録モード（サーボロック）
REC - PAUSE	記録一時停止モード
EDIT	編集モード（サーボアンロック）
EDIT LOCK	編集モード（サーボロック）
JOG STILL	ジョグ再生モードでの静止画
JOG FWD	正方向のジョグ再生
JOG REV	逆方向のジョグ再生
SHUTTLE (速度)	シャトル再生モード
AUTO EDIT	自動編集モード
PREVIEW	プレビューモード
REVIEW	レビュー モード

## サブ情報の表示

メニュー項目 DISPLAY CONTROL >SUB STATUS (79 ページ参照) を OFF 以外に設定すると、モニター画面上の動作モード表示の下にサブ情報が表示されます。

T	C	R	0	0	:	0	4	.	4	7	.	0	7
		P	L	A	Y					L	O	C	K
I	N	S	V	A	1	2	3	4	T	C			

サブ情報

SUB STATUS の設定と表示されるサブ情報の内容は次のとおりです。

SUB STATUS の設定	サブ情報の内容
EDIT PRESET	エディティングコントローラによる編集モードの設定内容
TC MODE	内蔵タイムコードジェネレーターの動作状態
REMAIN	分単位のテープ残量
AUDIO MIXING	オーディオ入力信号ミキシング設定状態
ALL	上記すべてのサブ情報

以下の表に、実際にモニター画面に出るサブ情報の表示とその意味を示します。

各表の「画面上の表示」欄に〔 〕内で示すのは、SUB STATUS を ALL に設定したときの表示です。なお、ALL に設定したときの表示形式については次項をご覧ください。

- SUB STATUS を EDIT PRESET に設定したとき

画面上の表示	意味
ASM [ASM]	アッセンブルモード
INS V A1234 TC [V1234T]	INS : インサートモード V A1234 TC : インサート編集の対象に指定されたチャンネル（信号） V : ビデオ A1234 : オーディオ 1、2、3、4 TC : タイムコード

- SUB STATUS を TC MODE に設定したとき

画面上の表示	意味
INT PRST FREE [IP F]	内蔵タイムコードジェネレーターがFREE RUN モードで歩進している。
INT PRST REC [IP R]	内蔵タイムコードジェネレーターがREC RUN モードで歩進している。
INT REGEN-T&U [IRTU]	内蔵のタイムコードジェネレーターが読み取ったタイムコード (LTC) に同期している。

画面上の表示	意味
EXT LTC-T&U [ELTU]	内蔵タイムコードジェネレーターが、外部から入力されるタイムコード（LTC）に同期して、それと同じ値のタイムコードおよびユーザービットデータを発生（リジェネレート）している。
EXT VITC-T&U [EVTU]	内蔵タイムコードジェネレーターが、外部入力ビデオ信号に挿入されているVITCに同期して、それと同じ値のタイムコードおよびユーザービットデータを発生（リジェネレート）している。
EXT DVIN-T&U [EDTU]	内蔵タイムコードジェネレーターが、iLINK (iHDV/DV) インターフェースを介して入力される外部タイムコードに同期して、それと同じ値のタイムコードおよびユーザービットデータを発生（リジェネレート）している。
EXT DVIN.V-T&U [EDTU]	内蔵タイムコードジェネレーターが、iLINK (iHDV/DV) インターフェースを介して入力される外部VITCに同期して、それと同じ値のタイムコードおよびユーザービットデータを発生（リジェネレート）している。
EXT SDI-T&U [ESTU]	内蔵タイムコードジェネレーターが、SD-SDIまたはHD-SDI信号入力のエンベデッドTCに同期して、それと同じ値のタイムコードおよびユーザービットデータを発生（リジェネレート）している。

- SUB STATUS を REMAIN に設定したとき

画面上の表示	意味
REMAIN 184 min	テープの残りの長さを分単位で表示する。残量が未検出のとき、表示は「REMAIN -- min」になる。

- SUB STATUS を AUDIO MIXING に設定したとき

画面上の表示	意味
1 2 3 4 [MIX]	オーディオ入力ミキシングに指定されたチャンネル
	<b>1 2 3 4</b> ：オーディオ入力チャンネル 1、2、3、4

表示例

12	2	3	34	
----	---	---	----	--

オーディオチャンネル 1 に入力  
オーディオ 1 と 2 がミキシングされる。

オーディオチャンネル 2 に入力  
オーディオ 2 が記録される。

オーディオチャンネル 3 に入力  
オーディオ 3 が記録される。

オーディオチャンネル 4 に入力  
オーディオ 3 と 4 がミキシングされる。

#### ALL に設定したときのサブ情報の表示形式

サブ情報表示エリアの左から順に、「編集モードの設定内容」、「オーディオ入力信号ミキシング設定状態」、「内蔵タイムコードジェネレーターの動作状態」が表示されます。

T	C	R	0	0	:	0	4	:	4	7	.	0	7	
		P	L	A	Y					L	O	C	K	
V	1	2	3	4	T	M	I	X		E	D	T	U	V

編集モードの設定内容

オーディオ入力信号ミキシング  
設定状態

内蔵タイムコードジェネレーターの動作状態  
(右端の V は、メニュー項目 VITC (80 ページ参照) が ON に設定されているとき表示される。)

# 本機で扱えるタイムデータ

タイムデータを活用して、時間情報の確認や編集時の精度確保、複数機器の同期などを容易に行うことができます。本機では、次のタイムデータを利用できます。

**カウンターのカウント値 (CNT) の表示**：フレーム単位でのテープ上の相対位置。リセット可能。

**REC DATE/TIME の表示**：記録年月日および記録時間  
(記録フォーマットがDVCPROの場合を除く)

**各種タイムコードの設定、表示、記録、再生**：

- LTC およびユーザービットデータ
- VITC (テープの記録 / 再生は DVCA M フォーマットの場合のみ。)
- SD/HD SDI エンベデッドタイムコード (SD-SDI 信号: RP188。 HD-SDI 信号: ARIB STD-B4.2.0 および RP188。)

記録 / 再生フォーマットと扱えるタイムデータの関係は次のとおりです。

○：扱える ×：扱えない

記録 / 再生 フォーマット	タイムデータ			
	カウンタの カウント値	LTC (およびユ ーザービット)	VITC <sup>2)</sup>	REC DATE/ TIME
HDV 1080i	○	○	×	表示のみ
DVCA M	○	○	○ <sup>3)</sup>	表示のみ
DV (SP)	○	○ <sup>1)</sup>	× <sup>4)</sup>	表示のみ
DVCPRO (25Mbps)	○	○	×	×

1) 民生用機器で収録した場合は、常にドロップフレームモードで記録されます。また、ユーザービットは扱えません。

2) アナログ映像信号上の VITC に、本機内蔵のタイムコードジェネレーターを同期させることができます。ただし VITC データとしての記録は、本機の記録フォーマットが DVCA M に設定されている場合のみ可能です。

3) VITC の代わりに REC DATE/TIME が記録されている場合は、REC DATE/TIME を表示します。

4) REC DATE/TIME が記録されている場合、メニュー項目 VITC を ON に設定すると、REC DATE/TIME の内容を VITC の代わりに表示することができます。

また、テープから読み取ったタイムコードを出力したり、外部のタイムコード信号を入力したりすることができます。

## ご注意

- 本機では REC DATE/TIME の記録はできません。

- 本機を標準速再生以外のモードにしたときは、TC OUT 端子からは何も出力されません。E-E モード時の出力は、メニュー項目 EE OUT PHASE (81 ページ参照) により変更可能です。
- 变速再生時のタイムコード出力はメニュー項目 MUTING IN SRCH の設定に従います (81 ページ参照)。

# タイムデータや動作モードを表示する

モニター画面に、タイムデータや動作モードを表示することができます。

また、液晶ディスプレイのタイムカウンター表示部に希望のタイムデータを表示することができます。

## 液晶ディスプレイやモニター画面に表示する

- メニュー項目 DISPLAY INFO (79 ページ参照) で、タイムデータの表示モードを設定する。

表示モード	表示される内容
TIME DATA & STATUS	タイムデータと本機の動作モード
TIME DATA & UB	COUNTER SELECT ボタンで選択したタイムデータとユーザー ビットデータ。ただし、ユーザー ビット表示を選択している場合は、ユーザービットデータとタイム コード。
TIME DATA & CNT	COUNTER SELECT ボタンで選択したタイムデータと CNT。ただし、CNT 表示を選択している場合は、CNT とタイムコード。
TIME DATA & TIME	TC と VITC
TIME DATA ONLY	COUNTER SELECT ボタンで選択したタイムデータのみ
REC DATE & TIME	テープに記録された REC DATE (記録年月日) と REC TIME (記録時間)

- メニュー項目 TC SELECT (80 ページ参照) で、タイムコードまたはユーザービットデータを表示する場合のタイムコードの種類を選択する。

設定内容	表示されるデータ
TC	LTC のタイムコード値、またはユーザービット データ
VITC	VITC のタイムコード値、またはユーザービット データ

### ご注意

本機の内蔵タイムコードジェネレーターが外部リジエネレートモードのとき (55 ページ参照)、手順 2 で選択したタイムコードが同期先タイムコードとして設定されます。

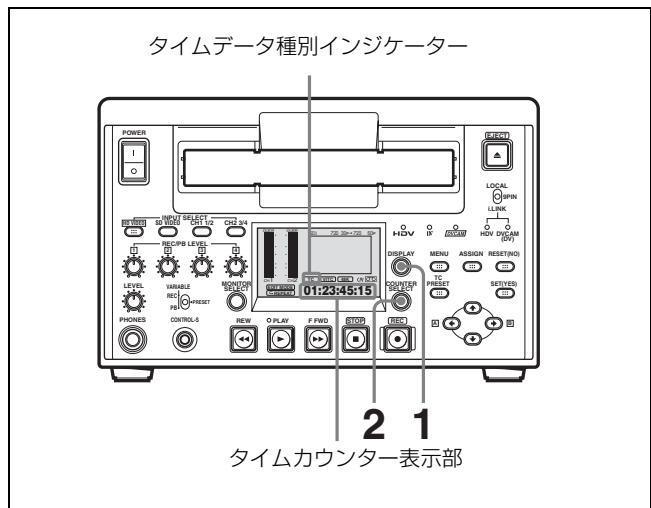
- メニュー項目 CHARA. DISPLAY (78 ページ参照) を ON に設定する (工場出荷時は ON に設定されています)。

モニター画面に設定した内容が表示されます。

スーパーインポーズされる文字情報の表示内容、および文字の種類と位置は、メニュー項目 DISPLAY CONTROL (78 ページ参照) で設定できます。また、メニュー項目 SUB STATUS (79 ページ参照) を OFF 以外に設定すると、編集モードやタイムコードジェネレーターに関するサブ情報を表示することができます。

- 文字情報の表示内容について詳しくは、「文字情報をスーパーインポーズする」(30 ページ)をご覧ください。また、サブ情報について詳しくは、「サブ情報の表示」(31 ページ)をご覧ください。

## タイムデータ表示を切り換えるには



- DISPLAY ボタンを押して、液晶ディスプレイの表示をステータス表示モードまたは小画面表示モードに切り換える (17 ページ参照)。

- COUNTER SELECT ボタンを押す。

ボタンを押すたびに、タイムデータ種別表示が次のように切り換わります。

タイムデータ種別 インジケーター	スーパーインポー ズ上のタイムデー タ種別表示		表示される内容
	記録時	再生時	
CNT	CNT	CNT	タイムカウンターのカウント値 (リセット可能)

タイムデータ種別 インジケーター	スーパーインポー ズ上のタイムデー タ種別表示		表示される内容
	記録時	再生時	
TC	TCG	TCR	タイムコード（記録時は内蔵タイムコードジェネレーターが発生するタイムコード、再生時はテープから読み取ったタイムコードが表示される。）
UB	UBG	UBR	ユーザービットデータ（記録時は設定済みのユーザービットデータ、再生時はテープから読み取ったユーザービットデータが表示される。）

### CNTの値をリセットするには

メニュー操作部の RESET (NO) ボタンを押します。  
タイムカウンター表示部の表示が 0:00:00:00 になります。

#### ご注意

- 本機のリモートコントロールスイッチが 9PIN または iLINK に設定されていて、後面パネルの REMOTE 端子または iHDV/DV 端子に外部機器が接続されているときは、本機の COUNTER SELECT ボタンでは、TC と UB の切り換え操作のみが可能です。タイムデータの表示切り換えは外部機器側から行ってください。
- 再生中、テープに記録の不連続な部分があると、その位置ではカウンターが誤動作することがあります。

#### ご注意

本機のカウンターのカウント値は、タイムコードを元に算出した簡易的なものです。

そのため次のような場合には、正確な値が算出されないことがあります。

- タイムコードに不連続な部分があるテープを使用している場合
- DF/NDF が混在して記録されているテープを使用している場合
- 記録部分の間に無記録部分や不連続な記録部分があるテープを使用している場合
- 異なるビデオフォーマット (HDV、DVCAM、または DV) の記録の境目を再生すると、その位置でカウンターに表示されるデータが不正確になることがあります。

# 記録フォーマットと入出力信号について

## HDV1080i/DVCAM/DV フォーマットの主な違い

HDV1080i/DVCAM/DV フォーマットには、それぞれ次の  
ような特徴があります。

仕様	HDV1080i	DVCAM	DV
トラック幅	10 μm	15 μm	10 μm
オーディオサンプリング周波数 (最大チャンネル数)	16 ビット : 48kHz (2 チャンネルまたは 4 チャンネル <sup>5)</sup> )	12 ビット : 32kHz (4 チャンネル) 16 ビット : 48kHz (2 チャンネル)	12 ビット : 32kHz (4 チャンネル) 16 ビット : 32kHz, 44.1kHz, 48kHz (2 チャンネル) <sup>2)</sup>
オーディオ記録モード <sup>1)</sup>	ロックモード	ロックモード	アンロックモード <sup>3)</sup>
タイムコード	ドロップフレーム (60i のみ) <sup>4)</sup> ユーザービットなし <sup>4)</sup>	NTSC : SMPTE タイムコード (DF/NDF、ユーザービットあり)  PAL : EBU タイムコード (ユーザービットあり)	ドロップフレーム (NTSC のみ) <sup>4)</sup> ユーザービットなし <sup>4)</sup>

- 1) オーディオ信号の記録には、ロックモードとアンロックモード  
があります。ロックモードでは、オーディオのサンプリングクロックとビデオのサンプリングクロックが同期しています。一方、民生用 DV フォーマットで採用しているアンロックモードでは、オーディオとビデオのサンプリングクロックはそれぞれ独立しています。ロックモードはアンロックモードに比べ、上位フォーマットとの親和性が高く、オーディオ編集時のデジタル処理やスムーズなつなぎ目を作るときに有利です。  
2) 本機は 16 ビット : 32 kHz、16 ビット : 44.1 kHz の記録には対応  
していません。

- 3) 本機はロックモードで記録を行います。  
4) 本機は 60i モードの設定時、DF/NDF の選択およびユーザービットが扱えるように機能拡張されています。  
5) 4 チャンネルはオプションの 2 チャンネルを追加した場合（本機は 2 チャンネル対応です）。
- ◆ 使用可能なカセットについては、「使用できるカセット」（41 ページ）をご覧ください。

## E-E モード時の入力信号と出力信号

- オプションボード HVBK-1505 が装着されている場合、E-E モード時の入力信号と出力信号の関係は次のようにになります。
- 入力信号の選択は、前面パネルのビデオ / オーディオ入力選択部の INPUT SELECT ボタンで行います。

- アナログビデオ信号の出力選択は、メニュー項目 INTERFACE SELECT >VIDEO OUTPUT (86 ページ参照) で設定します。

### アナログ信号出力部

○：出力あり ×：出力なし -：非該当

入力	出力	アナログビデオ出力				アナログオーディオ出力		
		コンポジット <sup>6)、7)</sup>	S ビデオ <sup>6)、7)</sup>	コンポーネント <sup>6)</sup>	コンポジット <sup>6)</sup> (文字情報) <sup>8)</sup>	アナログオーディオ <sup>9)</sup>		
アナログ入力 (HVBK-1505) <sup>1)</sup>	Y/CPST	Pr/R-Y/S-C, Pb/B-Y/S-Y	Y/CPST, Pr/R-Y/S-C, Pb/B-Y/S-Y	Y/CPST, Pr/R-Y/S-C, Pb/B-Y/S-Y	(SUPER) CPST	AUDIO OUT 1/3	AUDIO OUT 2/4	MONITOR AUDIO
	○	○	○	×	○	-	-	-
	○	○	○	×	○	-	-	-
	○	○	○	×	○	-	-	-
デジタルオーディオ (AES/EBU)	-	-	-	-	-	○	○	○

SDI	SD VIDEO 選択時 <sup>3)</sup>	○	○	○	×	○	○	○
	HD VIDEO 選択時 <sup>11)</sup>	○ <sup>10)</sup>	○ <sup>10)</sup>	○ <sup>10)</sup>	○	○ <sup>10)</sup>	○	○
iLINK DV フォーマット (DV/DCAM/DV) <sup>4)</sup>		○	○	○	×	○	○	○
iLINK HDV フォーマット (1080i) <sup>5)</sup>		○ <sup>10)</sup>	○ <sup>10)</sup>	○ <sup>10)</sup>	○	○ <sup>10)</sup>	○	○

- 1) アナログインプットボード HVBK-1505 (別売り) 装着時  
 2) HD コンポーネント信号は入力できません。  
 3) SDTI 信号には対応していません。  
 4) DVC PRO 信号は入力できません。  
 5) HDV 1080 50i/60i 以外のフォーマットの信号は入力できません。  
 6) メニュー項目 INTERFACE SELECT >VIDEO OUTPUT で、コンポジット信号および S ビデオ信号 (同時出力可) を出力するか、SD コンポーネント信号または、HD コンポーネント信号を出力するかを選択します。  
 7) コンポジット信号と S ビデオ信号は同時に出力できます。

## デジタル信号出力部

○：出力あり ×：出力なし -：非該当

△：フォーマットコンバーターボード HVBK-1520 (別売り) 装着時はアップコンバート出力が可能になります。

入力	出力	SDI 出力		デジタルオーディオ出力		iLINK 出力	
		SD-SDI <sup>3)</sup>	HD-SDI	デジタルオーディオ (AES/EBU)	DV (DV/DCAM/DV)	HDV (1080i)	
HVBK-1505 (別売り)	コンポジット <sup>1)</sup>	○	△	-	-	○	× <sup>10)</sup>
	コンポーネント <sup>1), 2)</sup>	○	△	-	-	○	× <sup>10)</sup>
	S ビデオ <sup>1)</sup>	○	△	-	-	○	× <sup>10)</sup>
	オーディオ <sup>1)</sup>	○	○	○	○	○	○
デジタルオーディオ (AES/EBU)		○	○	○	○ <sup>7)</sup>	○	○
SDI	SD VIDEO 選択時 <sup>3)</sup>	○	△	○	○ <sup>7)</sup>	○	× <sup>10)</sup>
	HD VIDEO 選択時 <sup>8)</sup>	○ <sup>6)</sup>	○	○	×	× <sup>9)</sup>	○ <sup>12)</sup>
iLINK DV フォーマット (DV/DCAM/DV) <sup>4)</sup>		○	× <sup>11)</sup>	○	○ <sup>7)</sup>	-	-
iLINK HDV フォーマット (1080i) <sup>5)</sup>		○ <sup>6)</sup>	○	○	×	-	-

- 1) アナログインプットボード HVBK-1505 (別売り) 装着時  
 2) HD コンポーネント信号は入力できません。  
 3) SDTI 信号には対応していません。  
 4) DVC PRO 信号は入力できません。  
 5) HDV 1080 50i/60i 以外のフォーマットの信号は入力できません。  
 6) HD 信号をダウンコンバートした信号が出力されます。  
 7) オーディオ入力信号が 4 チャンネルモードで、メニュー項目 AUDIO CONTROL >REC MODE で 4 CHANNEL (32kHz) を選択しているときに出力します。  
 8) 入力可能な HD-SDI の信号フォーマットは 1080/59.94i または 1080/50i です。なお、1035/59.94i、1080/29.97PsF 信号は 1080/59.94i として、また 1080/25PsF 信号は 1080/50i としてそれぞれ扱います。  
 9) HD-SDI 入力信号をダウンコンバートして iLINK 準拠の DV/DCAM 信号として出力することはできません。  
 10) アップコンバートした信号を HDV フォーマットで記録したり、iLINK 準拠の HDV 信号として出力したりすることはできません。

- 8) メニュー項目 DISPLAY CONTROL >CHARA.DISPLAY で文字情報を出力しないよう設定できます。  
 9) メニュー項目 INTERFACE SELECT >AUDIO OUTPUT で CH-1 および CH-2 を出力するか、CH-3 および CH-4 を出力するかを設定します。  
 10) HD 信号をダウンコンバートした信号が出力されます。  
 11) 入力可能な HD-SDI の信号フォーマットは 1080/59.94i または 1080/50i です。なお、1035/59.94i、1080/29.97PsF 信号は 1080/59.94i として、また 1080/25PsF 信号は 1080/50i としてそれぞれ扱います。

## ご注意

- 本機の iHDV/DV 端子に入力された映像信号は、iLINK 伝送信号のジッター (周波数の揺れ) がそのまま VIDEO OUT 端子に出力されます。接続しているビデオモニターにこの揺れが表示される場合があります。
- iLINK ケーブル接続時は、映像のみまたは音声のみを出力することはできません。

## 記録時の入力信号と記録フォーマット

本機は、HDV フォーマット (1080/60i、1080/50i)、DVCAM フォーマットおよび DV フォーマット (SP モード) による記録が可能です。オーディオ信号は HDV 記録では 2 チャンネル、DVCAM/DV 記録では 2/4 チャンネルモードに対応しています。

○：記録可 ×：記録不可 ( )：オーディオ記録チャンネル数

記録フォーマット		HDV <sup>6)</sup>	DVCAM	DV (SP)
入力信号				
アナログ信号入力端子 (HVBK-1505)	コンポジット <sup>1)</sup>	×	○	○
	コンポーネント <sup>1), 2)</sup>	×	○	○
	S ビデオ <sup>1)</sup>	×	○	○
	オーディオ <sup>1)</sup>	○ (2 チャンネル) <sup>7)</sup>	○ (2/4 チャンネル)	○ (2/4 チャンネル)
デジタルオーディオ (AES/EBU)		○ (2 チャンネル) <sup>7)</sup>	○ (2/4 チャンネル)	○ (2/4 チャンネル)
SDI	SD VIDEO 選択時 <sup>3)</sup>	×	○ (2/4 チャンネル)	○ (2/4 チャンネル)
	HD VIDEO 選択時 <sup>8)</sup>	○ (2 チャンネル)	×	×
i.LINK DV フォーマット (DVCAM/DV) <sup>4)</sup>		×	○ (2/4 チャンネル)	○ (2/4 チャンネル)
i.LINK HDV フォーマット (1080i) <sup>5)</sup>		○ (2/4 チャンネル) <sup>9)</sup>	×	×

- 1) アナログインプットボード HVBK-1505 (別売り) 装着時
- 2) HD コンポーネント信号は入力できません。
- 3) SDTI 信号には対応していません。
- 4) DVCPRO 信号は入力できません。
- 5) HDV1080 50i/60i 以外のフォーマットの信号は入力できません。
- 6) 本機の HDV 記録は HDV1080 50i/60i (オーディオ : 2 チャンネルモード) となります。HDV1080i 方式以外の MPEG2 の信号を記録することはできません。また、本機では HDV 拡張フォーマットの 4 チャンネルオーディオ信号の入出力、記録、テープの再生はできません。
- 7) ビデオ入力で HD-SDI が選択されている場合。
- 8) 入力可能な HD-SDI の信号フォーマットは 1080/59.94i または 1080/50i です。なお、1035/59.94i、1080/29.97PsF 信号は 1080/59.94i として、また 1080/25PsF 信号は 1080/50i としてそれぞれ記録します。
- 9) 1080i 方式以外の HDV 信号を記録することはできません。HDV 拡張フォーマットの 4 チャンネルオーディオ信号はそのまま入出力されます。本機で 3/4 チャンネルをモニターしたり他の端子から入出力することはできません。

オプションボード HVBK-1505 が装着されている場合には、アナログビデオ / オーディオ信号の入力が可能になります。記録時の入力信号と記録フォーマットの関係は次のようになります。

- 本機で HDV フォーマットで記録したテープは、HDV フォーマットの 1080i 方式に対応していない機器で再生することはできません。他機で再生する前に本機で再生して、テープの内容を確認することをおすすめします。
- HDV を DVCAM にダウンコンバートした信号を HDV/DV カセットに DVCAM フォーマットで記録する場合、記録可能時間はカセットに表記されている時間の約  $\frac{2}{3}$  になります。DVCAM カセットに DVCAM フォーマットで記録する場合は、カセットに表記されている時間と記録可能時間は同じです。
- 本機では、HDV のプログレッシブ信号フォーマットである 1080/24p、1080/25p、1080/30p、720/50p フォーマット、および SD フォーマットである 480/60p、576/50p の入出力、記録、再生はできません。

### ご注意

- HDV フォーマットの記録では、記録開始まで数秒かかることがあります。また、つなぎ目は約 1 秒間の静止画になります。
- DV (LP) /DVCPRO フォーマットの記録はできません。
- 本機は DVCAM/DV モードの 16 ビット:44.1kHz、16 ビット:32kHz の記録には対応していません。
- DV フォーマットから DVCAM フォーマットへダビングされたテープなど、お使いになるテープの記録内容によっては、フォーマットの違いにより、再生 / 編集時、機能に制約を生じことがあります。

## 再生時のフォーマットと出力信号

再生時のフォーマットと出力信号の関係は次のようになります。

### アナログ信号出力部

○：出力あり ×：出力なし

出力	映像	アナログビデオ出力				アナログオーディオ出力		
		コンポジット <sup>3), 4)</sup>	Sビデオ <sup>3), 4)</sup>	コンポーネント <sup>3)</sup>	コンポジット（文字情報） <sup>5)</sup>	アナログオーディオ（AES/EBU） <sup>6)</sup>	AUDIO OUT 1/3	AUDIO OUT 2/4
フォーマット	音量	Y/CPST	Pr/R-Y/S-C, Pb/B-Y/S-Y	Y/CPST, Pr/R-Y/S-C, Pb/B-Y/S-Y	Y/CPST, Pr/R-Y/S-C, Pb/B-Y/S-Y	(SUPER) CPST	AUDIO OUT 1/3	AUDIO OUT 2/4
DV	DVCAM <sup>1)</sup>	○	○	○	×	○	○	○
	DV (SP) <sup>1)</sup>	○	○	○	×	○	○	○
	DVCPRO (25Mbps) <sup>1), 2)</sup>	○	○	○	×	○	○	○
	DV (LP) <sup>1)</sup>	× <sup>7)</sup>	× <sup>7)</sup>	× <sup>7)</sup>	× <sup>7)</sup>	×	×	×
HDV	1080/60i <sup>9)</sup>	○ <sup>8)</sup>	○ <sup>8)</sup>	○ <sup>8)</sup>	○	○ <sup>8)</sup>	○	○
	1080/50i <sup>9)</sup>	○ <sup>8)</sup>	○ <sup>8)</sup>	○ <sup>8)</sup>	○	○ <sup>8)</sup>	○	○
	1080/30p, 25p	×	×	×	×	×	×	×
	1080/24p	×	×	×	×	×	×	×
	720/30p <sup>9)</sup>	○ <sup>8)</sup>	○ <sup>8)</sup>	○ <sup>8)</sup>	○ <sup>10)</sup>	○ <sup>8)</sup>	○	○
	720/25p	×	×	×	×	×	×	×

1) 525/60, 625/50 方式で使用できます。

2) DVCPRO フォーマットの CUE トラックの再生、25Mbps 以外のフォーマットの再生はできません。

3) メニュー項目 INTERFACE SELECT >VIDEO OUTPUT で、コンポジット信号および S ビデオ信号（同時出力可）を出力するか、SD コンポーネント信号または、HD コンポーネント信号を出力するかを選択します。

4) コンポジット信号と S ビデオ信号は同時に出力できます。

5) メニュー項目 DISPLAY CONTROL >CHARA.DISPLAY で文字情報を出力しないよう設定できます。

6) DV/DVCAM 記録テープの 4 チャンネルオーディオ信号の再生時は、メニュー項目 INTERFACE SELECT >AUDIO OUTPUT で CH-1 および CH-2 を出力するか、CH-3 および CH-4 を出力するかを設定します。HDV 記録テープの再生時はこのメニュー項目の設定に関係なく、CH-1, CH-2 が出力されます。（再生は 2 チャンネルモードで行われます。）

7) DV (LP) フォーマット：サーチ画像は出力されます。再生モードにすると、正常な再生はできませんがサーチのような画像が 出力されます。（画質は低下しますが記録内容の確認程度には使用できます。）オーディオ信号は出力されません。前面パネルの フォーマットインジケーターの DV が点滅します。

8) HD からダウンコンバートされた信号を出力します。（ダウンコンバート形式はメニュー項目 DOWN CONVERTER で選択できます。）

9) 本機のオーディオ再生は 2 チャンネルモードで行われます。

10) 720/60p 方式で出力されます。

### ご注意

本機では HDV フォーマットの 720/30p 方式は再生できませんが、HDV/DV 端子から出力することはできません。

## デジタル信号出力部

○：出力あり ×：出力なし

△：フォーマットコンバーターボード HVBK-1520（別売り）装着時はアップコンバート出力が可能になります。

出力	SDI 出力				デジタルオーディオ出力		i.LINK 出力 <sup>4)</sup>	
	SD-SDI <sup>3)</sup>		HD-SDI		デジタルオーディオ (AES/EBU)		DV (DVCA M/DV)	HDV (1080i)
フォーマット	SDI OUT1	SDI OUT2	HD SDI OUT1	HD SDI OUT2	AUDIO I/O (AES/EBU) OUT 1/2	AUDIO I/O (AES/EBU) OUT 3/4	i HDV/DV	i HDV/DV
DV	DVCAM <sup>1)</sup>	○	○	△ <sup>10)</sup>	△ <sup>10)</sup>	○	○ <sup>7)</sup>	○ ×
	DV (SP) <sup>1)</sup>	○	○	△ <sup>10)</sup>	△ <sup>10)</sup>	○	○ <sup>7)</sup>	○ ×
	DVC PRO (25Mbps) <sup>1), 2)</sup>	○	○	△ <sup>10)</sup>	△ <sup>10)</sup>	○	○ <sup>7)</sup>	× ×
	DV (LP) <sup>1)</sup>	×	×	×	×	×	×	×
HDV	1080/60i <sup>9)</sup>	○ <sup>5)</sup>	○ <sup>5)</sup>	○	○	○	○ <sup>5, 8)</sup>	○
	1080/50i <sup>9)</sup>	○ <sup>5)</sup>	○ <sup>5)</sup>	○	○	○	○ <sup>5, 8)</sup>	○
	1080/30p, 25p	×	×	×	×	×	×	×
	1080/24p	×	×	×	×	×	×	×
	720/30p <sup>9)</sup>	○ <sup>5)</sup>	○ <sup>5)</sup>	○ <sup>6)</sup>	○ <sup>6)</sup>	○	×	×
	720/25p	×	×	×	×	×	×	×

1) 525/60、625/50 方式で使用できます。

2) DVC PRO フォーマットの CUE トラックの再生、25Mbps 以外のフォーマットの再生はできません

3) SDTI 信号には対応していません。

4) i HDV/DV 端子から出力したいフォーマットを、メニュー項目 INTERFACE SELECT > iLINK OUTPUT で選択します。

5) HD からダウンコンバートされた信号を出力します（ダウンコンバート形式はメニュー項目 DOWN CONVERTER で選択ができます）。

6) 720/60p 方式で出力されます。

7) オーディオモードが4チャンネルの場合のみ信号を出力します。

8) メニュー項目 INTERFACE SELECT > iLINK OUTPUT で DVCAM または DV を選択します。

9) 本機のオーディオ再生は2チャンネルモードで行われます。ただし、i HDV/DV 端子からは記録されているオーディオデータがそのまま出力されます。

10) アップコンバート出力は、他の出力に対して1フレーム遅れて出力されます。

### ご注意

- 本機は HDV (1080/60i、1080/50i)、DVCAM フォーマットおよび DV フォーマット (SP モード) での記録、再生ができます。しかし、DV フォーマットから DVCAM フォーマットへダビングされたテープなど、お使いになるテープの記録内容によっては、フォーマットの違いにより、再生・編集時、機能に制約を生じることがあります。
- フォーマットが混在して記録されているテープを再生する場合、HDV、DVCAM または DV フォーマットの記録の境目や、60i と 50i フォーマットの境目を再生すると、その位置では映像および音声が乱れます。

- HDV、DVCAM フォーマットと DV フォーマット (SP モード) が混在して記録されたテープを再生する場合、次のような制限があります。
  - フォーマットが切り換わった位置で画像が乱れたり、音声にノイズ音が出力される場合があります。
  - テープ走行が安定するまで、一時的にテープ走行コントロール部のボタンが効かなくなる場合があります。
- HDV で記録されたテープでは、一時停止中の映像は i HDV/DV 端子から出力されません。
- HDV フォーマットで記録されたテープは変速再生の音声を聞くことができません。
- HDV フォーマットの場合、変速再生中は簡易画像が出力されます。
- フォーマットコンバーターボード HVBK-1520 装着時に、DVCAM (DV) フォーマットで記録した映像信号を HDV 映像信号にアップコンバートして i HDV/DV 端子から出力することはできません。
- HDV フォーマットで記録されたテープを DVCAM フォーマットに変換して出力する場合、テープ上の絶対番地 (ATN : Absolute Track Number) は常に「0」が出力されます。

# 使用できるカセット

本機では、次の DVCAM 用カセットテープおよび HDV 用カセットテープを使用することができます。

DVCAM 用カセットではスタンダードサイズは 184 分、ミニサイズ (S) のカセットは 40 分までの記録 / 再生が可能です。また、HDV 用カセットでは、スタンダードサイズは 276 分、ミニサイズ (S) のカセットは 63 分までの記録 / 再生が可能です。

## DVCAM 用カセット

型名	サイズ
PDV-184 * /124 * /94 * /64 * /34 *	スタンダードサイズ (L)
PDVM-40 * /34 * /32 * /22 * /12 *	ミニサイズ (S)

## HDV 用カセット

型名	サイズ
PHDV-276DM/186DM/124DM/64DM	スタンダードサイズ (L)
PHDVM-63DM	ミニサイズ (S)

型名中の「\*」は、「ME」(カセットメモリー付)、「N」(カセットメモリーなし) または「MEM」(マスター・テーブ) を表します。

型名中の数字は、最大記録 / 再生時間 (単位 : 分) を表します。たとえば、PDV-184ME の最大記録 / 再生時間は 184 分です。

◆ フォーマットについて詳しくは、「記録フォーマットと入出力信号について」(36 ページ) をご覧ください。

### ご注意

- DVC PRO (25Mbps) のカセットテープは、本機で再生することはできますが、記録に使用することはできません。
- 本機に対応しないカセットを入れると、自動的に排出されます。
- 本機では、家庭用 DV または HDV 対応のカセットを使用することはできますが、テープによっては画面および音声にノイズが出ることがあります。再生、編集、記録内容の保存などの点で信頼性の高い、HDV<sup>1)</sup> または DVCAM カセットをお使いください。
- DV 機器で記録されたカセットテープは、本機で再生することはできませんが、編集による記録操作はできません。本機にこのようなカセットを入れると、液晶ディスプレイに NO EDIT インジケーターが点灯します。

1) 業務用 HDV テープは Digital Master シリーズを推奨します。

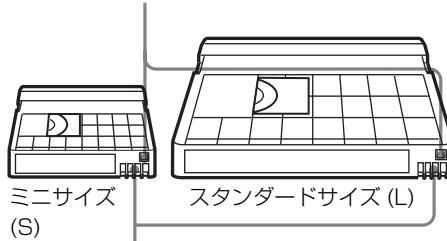
Digital Master はソニー株式会社の商標です。

## HDV/DVCAM カセットについて

HDV/DVCAM 用カセットテープの外観は下図のとおりです。

### REC/SAVE スイッチ

◆ このスイッチの働きについては、「誤消去を防ぐには」(42 ページ) をご覧ください。



### カセットメモリー

クリップリンクログデータを保存するためのメモリーです。

## カセットの互換性

HDV 記録には、DV 規格のカセットテープを使用することができます。本機で採用している HDV 1080i 方式は、記録時の映像ビットレートは 25Mbps、テープ上の記録トラック幅は 10 μm と、家庭用 DV (SP) フォーマットと同じです。

DVCAM フォーマットは、トラック幅が 15 μm と、HDV や DV (SP) フォーマットの 1.5 倍あります。そのため、同じテープを用いて DVCAM フォーマットで記録した場合、記録時間は、HDV 記録時や DV (SP) 記録時の時間の 3 分の 2 になります。

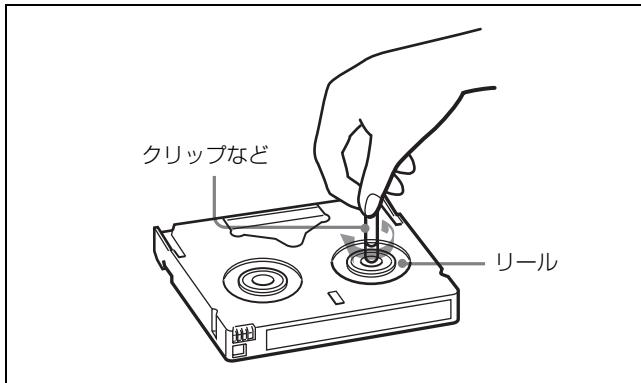
## カセット使用上のご注意

- 長期間保存するときは、テープを初めまで巻き戻してから、必ず専用ケースに入れ、立てて置いてください。そのまま放置すると、画像や音声が乱れる原因となります。
- カセットメモリーの端子（接点）部にゴミや汚れが付着すると、接点不良となり、機能を損なう原因となります。ゴミ、汚れは取り除いてお使いください。
- 床に落とすなどして衝撃を与えると、内部のテープがたるみ、正常な記録・再生ができなくなることがあります。
- テープを本機に挿入したまま放置すると、トラブルの原因となることがあります。本機の電源を切る前には、EJECT ボタンを押して、テープを取り出しておくことをおすすめします。

◆ テープにたるみがないことを確認する方法については、次項をご覧ください。

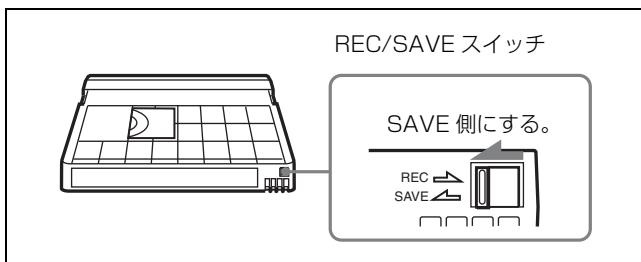
## テープにたるみがないことを確認するには

クリップなどでリールを矢印の方向へ軽く回します。テープにたるみがなければリールは回りません。この後、カセットをいったん本機に入れて、約10秒後に取り出します。



## 誤消去を防ぐには

テープの記録内容を誤って消さないようにするには、カセットのREC/SAVEスイッチをSAVE側にします。



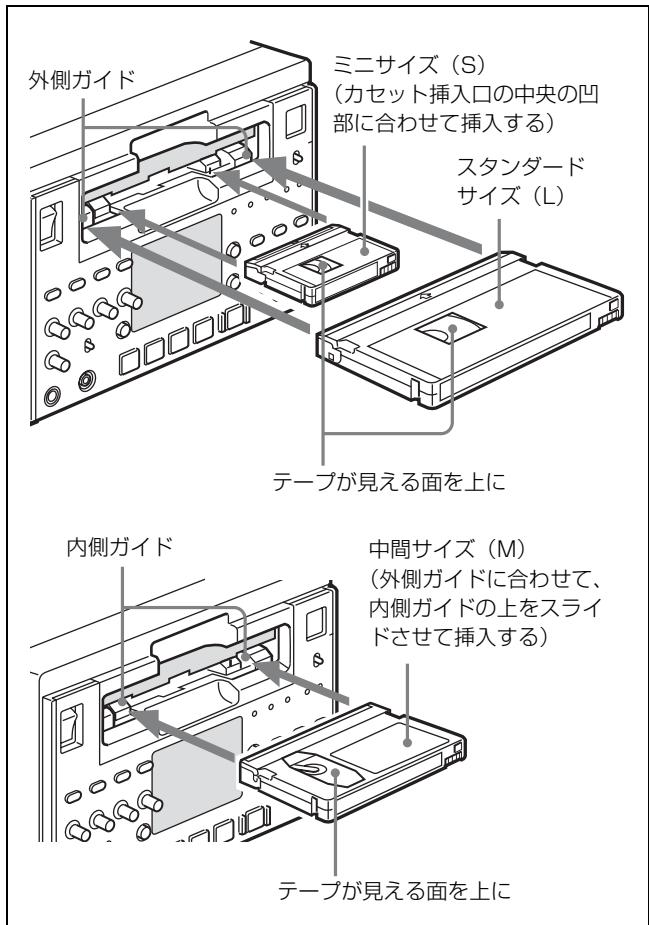
## 再び記録できるようにするには

カセットのREC/SAVEスイッチをREC側にします。

## カセットを入れる / 取り出す

### カセットを入れるには

スタンダードサイズ(L)、中間サイズ(M)(DVCPRO)、ミニサイズ(S)の3つのサイズのカセットを挿入することができます。いずれのサイズのカセットも、次図のようにテープが見える面を上にして挿入します。

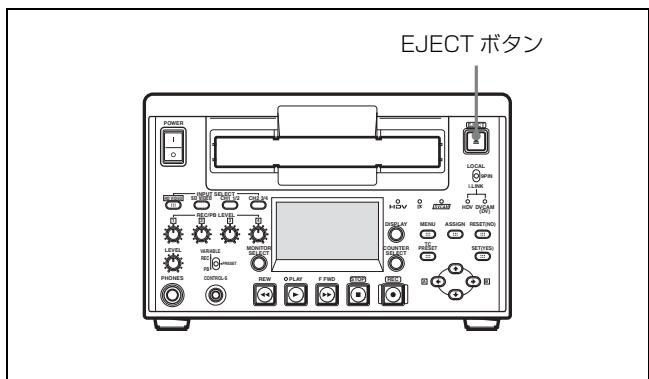


### カセットの二重挿入防止について

カセットを入れると、カセット挿入口にオレンジ色の二重挿入防止板が現れます。2つ目のカセットを入れようとしても入りません。

### カセットを取り出すには

EJECTボタンを押します。



# 記録・再生

## 記録

本機をレコーダーとして使うときに必要な設定と記録の方法を説明します。

- ◆ 本機を編集システムの一部として使用する場合の接続や設定については、「第5章 編集のための接続と設定」(58ページ)をご覧ください。
- ◆ iLINK インターフェースを介してのダビングに使用する場合は、「第6章 iLINK 端子を使ったダビングと TC インサート」(67ページ)をご覧ください。

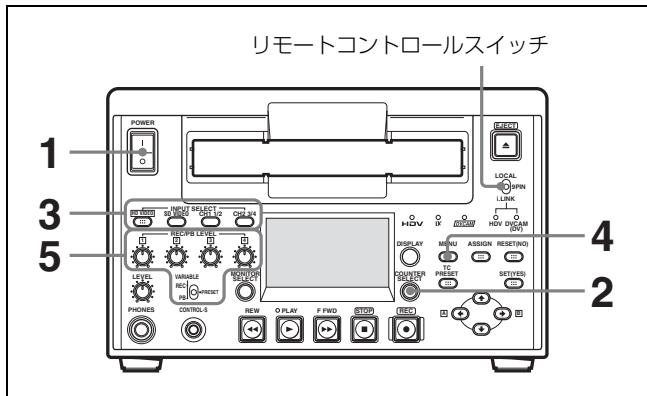
本機による記録には、HDV および DVCAFM フォーマットを推奨していますが、DV (SP モードのみ) フォーマットによる記録も可能です。

### ご注意

- リモートコントロールユニット DSRM-10 (別売り)などを使用して、本機で DV (SP) 記録テープにつなぎ撮りを行う場合、最初の記録開始位置で極まれに画像が乱れたり、オーディオ記録モード (REC MODE) の相異により音声がミュートされることがあります。また、DV フォーマットの仕様に伴う機能上の制約を受けることがあります。
- HDV 記録の場合は、本機ではつなぎ録りやアッセンブル / インサート編集を行うことはできません。
- アナログ入力信号を記録する場合には、別売りのオプションボード HVBK-1505 (11ページ参照) が必要です。
- 本機は HDV フォーマットの 1080/60i と 1080/50i 方式の記録に対応していますが、プログレッシブ方式には対応していません。また、オーディオ信号は 2 チャンネルに対応です。
- iLINK (HDV) 入力からの記録では、1080/60i または 1080/50i フォーマットの 4 チャンネルモードのオーディオがそのまま記録されます。
- HDV 記録の開始時には iLINK (HDV) 出力が一瞬乱れます。

- ◆ 入力信号に対応する記録フォーマットについては、「記録時の入力信号と記録フォーマット」(38ページ)をご覧ください。

## 記録時の設定



- ◆ 本機を REMOTE 端子または iHDV/DV 端子に接続した編集機からコントロールするときは、「リモートコントロールスイッチ」(20ページ)をご覧ください。

- 1 本機の POWER スイッチの「I」側を押して電源を入れる。
- 2 COUNTER SELECT ボタンで、使用するタイムデータの種類を選択する。

ボタンを押すたびに、タイムデータ種別インジケーターの表示が CNT → TC → UB → CNT → … の順に切り換わります。

メニュー項目 TC SELECT (80ページ参照) の設定で、VITC が選択されているときは、CNT → VITC → VIUB → CNT → … の順に切り換わります。

使用するタイムデータ	タイムデータ種別インジケーターの表示
カウンターのカウント値	CNT
タイムコード	TC (VITC)
ユーザービットデータ	UB (VIUB)

外部編集機を使用するときは、タイムデータの選択は編集機側で行います。

### ご注意

HDV 記録では VITC は記録できません。

## 3 記録するビデオ入力信号、オーディオ入力信号を選択する。

入力信号に対応するフォーマット名称を入力信号表示部に表示させます。

設定する入力が HD VIDEO ボタンで選択されると HD VIDEO ボタンが点灯し、HDV フォーマットで記録されることを示します。

ビデオ入力信号（入力端子）	使用する入力選択部（INPUT SELECT）のボタン	入力信号表示部のビデオエリアで点灯させる表示、またはインジケーター
SD の内蔵テスト信号	SD VIDEO	「SG : SD」がビデオエリアに表示される <sup>c)</sup>
コンポジット信号（VIDEO IN : Y/S-Y/CPST）	SD VIDEO	「COMPOSITE」がビデオエリアに表示される <sup>a)</sup>
S ビデオ信号（VIDEO IN : Y/S-Y/CPST と R-Y/S-C）	SD VIDEO	「S VIDEO」がビデオエリアに表示される <sup>a)</sup>
コンポーネント信号（VIDEO IN : Y/S-Y/CPST、R-Y/S-C と B-Y）	SD VIDEO	「COMPONENT SD」がビデオエリアに表示される <sup>a)</sup>
SD-SDI 信号（SD/HD SDI IN）	SD VIDEO	「SDSDI」がビデオエリアに表示される
iLINK 準拠の DV/DVCAM フォーマットのデジタルビデオ信号 (HDV/DV)	SD VIDEO	「iLINK : DV」または「iLINK : DVCAM」がビデオエリアに表示される DVCAM(DV) インジケーター点灯 <sup>b)</sup>
HD の内蔵テスト信号	HD VIDEO	「SG : HD」がビデオエリアに表示される HD VIDEO ボタンが点灯
HD-SDI 信号（SD/HD SDI IN）	HD VIDEO	「HDSDI」がビデオエリアに表示される HD VIDEO ボタンが点灯

ビデオ入力信号（入力端子）	使用する入力選択部（INPUT SELECT）のボタン	入力信号表示部のビデオエリアで点灯させる表示、またはインジケーター
iLINK 準拠の HDV フォーマットのデジタルビデオ信号 (HDV/DV)	HD VIDEO	「iLINK : HDV」がビデオエリアに表示される HDV インジケーター、HD VIDEO ボタンが点灯

- a) 別売りのオプションボード HVBK-1505 が装着されていない場合は、入力選択部のボタンを押しても、選択／表示できません。
- b) 入力信号が iLINK (DV/DVCAM) のときの記録フォーマットは、メニュー項目 REC FORMAT (77 ページ参照) の設定に従い、iLINK : DVCAM または iLINK : DV が表示されます。
- c) 内蔵テストビデオ信号としてカラーバー信号、またはブラックバースト信号を使用できます。どちらを使用するかは、メニュー項目 VIDEO CONTROL > INT VIDEO SG で設定します。

### ご注意

- iLINK 入力を選択した場合は、ビデオ / オーディオ信号共に iLINK インターフェースを介して入力されます。
- iLINK 入力の HDV フォーマットの信号を記録する場合は、REC/PB LEVEL つまりオーディオ記録レベルを調整することはできません。
- 選択した入力に信号がない場合は、対応する入力信号表示が点滅します。

オーディオ入力信号（入力端子）	使用する入力選択部のボタン	入力信号表示部のオーディオエリアで点灯させるインジケーター
アナログ信号（AUDIO IN 1/3、2/4）	CH1 1/2、CH2 3/4	ANALOG <sup>a)</sup>
AES/EBU 信号（AUDIO I/O (AES/EBU) IN）	CH1 1/2、CH2 3/4	AES/EBU
SDI 信号（SDI IN）	CH1 1/2、CH2 3/4	SDI
本機内蔵のテストオーディオ信号	CH1 1/2、CH2 3/4	SG

- a) 別売りのオプションボード HVBK-1505 が装着されていない場合は、入力選択部のボタンを押しても、対応するインジケーターは表示されません。

### ご注意

記録開始後に入力信号を切り換えることはできません。

## 4 オーディオモードを選択する。

メニュー項目 REC MODE (84 ページ参照) で 2 チャンネルモード (2 CHANNEL) または 4 チャンネルモード (4 CHANNEL) を選択してください。

オーディオモード	オーディオモード表示
2 チャンネルモード	48K
4 チャンネルモード	32K

### ご注意

- オーディオ入力信号を HDV 記録する場合は、オーディオ記録モードの設定にかかわらず、2 チャンネルモードになります。
- DVCAM フォーマットおよび DV (SP) フォーマット記録では、2 チャンネル /48kHz と 4 チャンネル /32kHz の 2 種類のオーディオ記録モードを使用しています。これ以外のモード（例えば 4 チャンネル /48kHz）を選択することはできません。HDV フォーマットの記録は、2 チャンネル /48kHz のみです。
- オーディオ編集時に、テープに記録されているオーディオ信号と異なる記録モードの信号をアッセンブルまたはインサート編集すると、編集点で信号が不連続になり正しい記録が行われません。このため本機では、異なるモード間のオーディオ編集はできないようにメニュー設定されています。
- 編集作業を支障なく行うために、テープのオーディオ記録モードをあらかじめ確認してください。
- 記録開始後は、オーディオモードおよび記録フォーマットの切り換えはできません。
- テープの途中でオーディオモードが切り換わると、その部分に対するインサート編集はできません。
- オーディオモードが 4 チャンネルで CH-1/2 と CH-3/4 両方でアナログを選択した場合、CH-1 と CH-3、CH-2 と CH-4 には同じアナログオーディオ信号が記録されます。

## 5 オーディオ入力レベルを調整する。

### オーディオ入力レベルを手動調整して録音するとき

前面パネルの VARIABLE スイッチを REC 側にして、チャンネルごとに REC/PB LEVEL つまみを回します。E-E モードでオーディオレベルメーターを見ながら、最大音量のときにレベルが 0dB を超えないように調整します。

0dB を越えると OVER インジケーターが点灯します。  
調整は E-E モードで行います。

### リファレンス (基準) レベルで録音するとき

前面パネルの VARIABLE スイッチを PRESET にしておきます。あらかじめ設定されたリファレンスレベルで録音されます。

### リファレンス (基準) レベルの設定

工場出荷時のアナログ入力基準レベルは、-20dB に設定されています。

-18、-16、-12dB にしたいときは、メニュー項目 LEVEL SELECT (85 ページ参照) で設定してください。

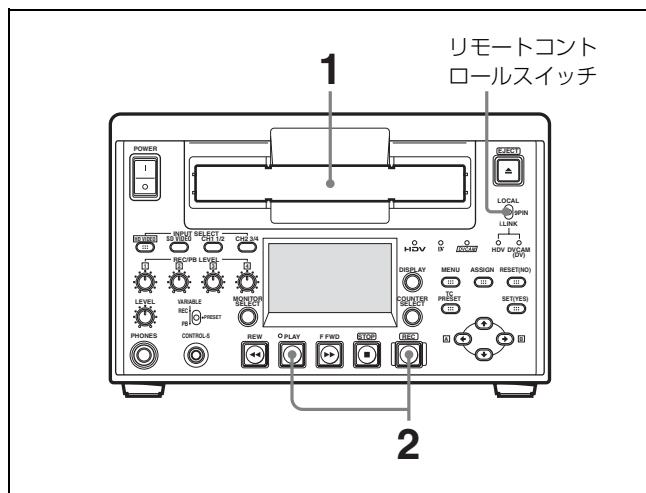
なお、記録フォーマットが DV (SP) に設定されている場合は、基準レベルは -12 dB に固定されます。

## タイムコードの設定

- 記録時のタイムコードの設定については、「第4章 タイムデータを活用する」(53 ページ) をご覧ください。

## 記録する

本機の入力端子に入力された映像・音声信号を本機で記録する方法を説明します。



### ご注意

本機を REMOTE 端子または HDV/DV 端子に接続した編集機からコントロールするときは、リモートコントロールスイッチを 9PIN または iLINK 側にします。編集機からコントロールしないときは LOCAL 側にしてください。

- 次のことを確認してから、テープが見える面を上にしてカセットを本機（レコーダー）に入れる（42 ページ参照）。

確認する事項	参照ページ
カセットが記録禁止になっていること	「誤消去を防ぐには」(42 ページ)
テープにたるみがないこと	「テープにたるみがないことを確認するには」(42 ページ)
タイムカウンター表示部に「HUMID!」と表示されていること	「結露について」(94 ページ)

カセットが自動的に引き込まれ、テープがドラムに巻き付きます。ヘッドドラムが回転したままでテープが停止状態になり、STOP ボタンが点灯します。

### 液晶ディスプレイ（ステータス表示モード）に REC INHI が表示されたら

次の原因が考えられます。

- カセットテープの REC/SAVE スイッチが SAVE（記録禁止）側になっています。EJECT ボタンを押して、カセットを取り出し、REC/SAVE スイッチを REC 側にしてから、カセットを入れ直してください。
- メニュー項目 REC INHIBIT (77 ページ参照) が ON に設定されています。OFF に設定してください。

## 2 REC ボタンを押したまま PLAY ボタンを押す。

本機は記録モードになり、テープ走行が始まります。

### ご注意

- 記録開始後は、オーディオモードおよび記録フォーマットの切り換えはできません。
- テープの途中でオーディオモードが切り換わると、その部分に対するインサート編集はできません。

### カセットを入れたとき次のインジケーターが点灯したら

インジケーター	意味
CII [ ] インジケーター	カセットメモリー付きのカセットが挿入された。
CL [ ] インジケーター	カセットメモリーにクリップリンクログデータが書き込まれている。  ご注意 このようなカセットテープに記録すると、クリップリンクログデータが失われます。

インジケーター	意味
NO EDIT インジケーター	<ul style="list-style-type: none"> <li>DVC PRO テープが挿入されている。 DVCAM フォーマットで記録されたテープと入れ替えてください。</li> <li>記録フォーマットが DV (SP) に設定されている。 この場合、編集機能は使用できません。</li> <li>HDV フォーマットで記録されたテープが挿入されている。 本機では HDV フォーマットのテープ編集はできません。</li> </ul> <p><b>編集中の場合</b> 本機の録音モードとテープの録音モードが一致していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記録する場合は、現在入っているテープをそのまま使用することができます。</li> <li>編集する場合は、本機の録音モードをテープの録音モードに合わせてください。</li> </ul> <p>◆ 詳しくは、「トラブル時の対処」(98 ページ) をご覧ください。</p>

### モニター画面に警告メッセージが表示されたら

全画面表示 / 小画面表示モードのとき、REC/SAVE スイッチが SAVE（記録禁止）側になっているカセットテープに記録しようとするとき、モニター画面に警告メッセージ「ALARM カセットの誤消去防止プラグが押し下げられています。」が表示されます。カセットを取り出し、REC/SAVE スイッチを REC 側にしてから、カセットを入れ直してください。

### 記録を終了するには

STOP ボタンを押します。

本機はストップモードに入り、しばらくすると、テープ保護のため自動的にスタンバイオフモードになります。

### カセットを取り出すには

EJECT ボタンを押します。

数秒でテープがカセットに巻き戻され、カセットが自動的に排出されます。

タイムカウンター表示部にカウンターのカウント値 (CNT) を表示しているとき（タイムデータ種別インジケーターの表示が CNT になっているとき）は、CNT の値がリセットされます。

### 文字情報（タイムデータや動作モード）がモニター画面に表示されないようにするには

メニュー項目 CHARA. DISPLAY (78 ページ参照) を OFF に設定します。

ストップモードからスタンバイオフモードに切り換わるまでの時間を変えるには

メニュー項目 FROM STOP >STOP TIMER (81 ページ参照) の設定を変更します。

**DV (SP) 記録時のリファレンス (基準) レベルについて**  
多くの民生用 DV 機器では、DV 記録を -12dB の基準レベルで行っています。したがって本機で DV (SP) 記録時の基準レベルは -12dB 固定としています。基準レベルの異なる DVCAM ソースをダビングするには、下記の例のように手動調整により録音レベルを合わせることをおすすめします。

#### プレーヤー (DSR-1800A/ 1600A/1500A) E-E モード

オーディオ入力選択 : INT  
SG/1 kHz  
REC モード : DVCAM ソースに合わせて 2ch または 4ch  
リファレンス (基準) レベル : DVCAM ソースの基準レベル  
VAR スイッチ<sup>a)</sup> : PRESET

iLINK/  
SDI など

#### レコーダー (HVR-1500A) E-E モード

REC FORMAT : DV (SP)  
VARIABLE スイッチ : REC  
  
チャンネルごとに  
オーディオレベル  
メーターを見ながら、  
つまみでオーディオ  
レベルを -12 dB に  
合わせる。

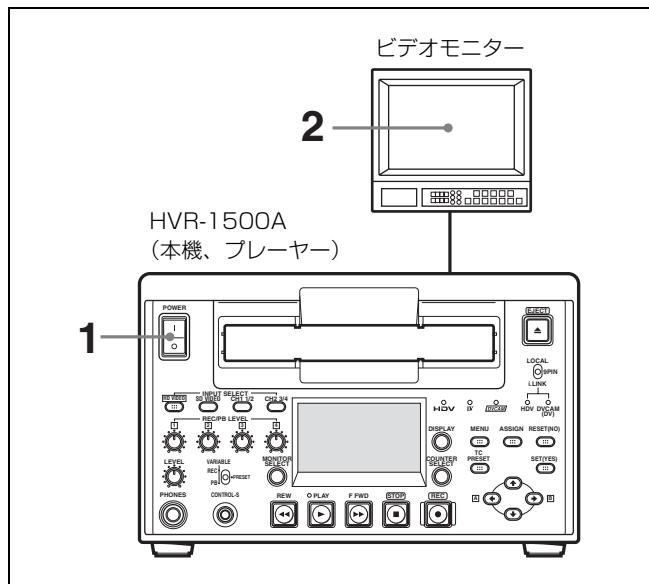
a) DSR-1500A のみ

# 再生

本機をプレーヤーとして使うときに必要な設定と再生の方法を説明します。

- ◆ 本機を編集システムの一部として使用する場合の接続や設定については、「第5章 編集のための接続と設定」(58 ページ) をご覧ください。
- ◆ iLINK インターフェースを介してのダビングに使用する場合は、「第6章 iLINK 端子を使ったダビングと TC インサート」(67 ページ) をご覧ください。

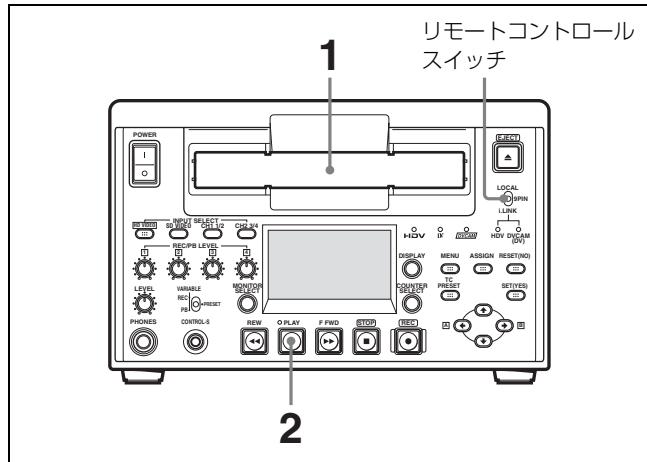
## 再生時の設定



- 1 本機の POWER スイッチの「|」側を押して電源を入れる。
- 2 ビデオモニターの電源を入れ、モニターの各スイッチの設定を行う。

スイッチ	設定
75Ω 終端	ON (または 75Ω 終端器を取り付ける。)

## 再生する



### ご注意

本機を REMOTE 端子または i HDV/DV 端子（22 ページ参照）に接続した機器からコントロールするときは、リモートコントロールスイッチを 9PIN または iLINK 側にします。  
リモートコントロールしないときは、LOCAL 側にしてください。

#### 1 カセットを入れる。

- ◆ 入れかたについては 42 ページを、使用可能なカセットについては 41 ページをご覧ください。

カセットは自動的に引き込まれます。STOP ボタンが点灯し、メニュー項目 AUTO EE SELECT（77 ページ参照）の STOP が PB に設定されているときは、数秒後、モニター画面に静止画が映ります。

#### 2 PLAY ボタンを押す。

再生が始まります。再生中にテープが終わりまでくると、自動的にテープの初めまで巻き戻されて停止します。

### カセットを入れたときのインジケーター表示について

インジケーター	意味
CII [ ] インジケーター	カセットメモリー付きのカセットが挿入された。
CL [ ] インジケーター	カセットメモリーにクリップリンクログデータが書き込まれている。

### 再生を止めるには

STOP ボタンを押します。  
本機はストップモードに入り、しばらくすると、テープ保護のため自動的にスタンバイオフモードになります。

### 再生オーディオ信号のレベルを調整するには

- デジタルまたはアナログオーディオ出力  
前面パネルの VARIABLE スイッチを PB 側にして、チャンネルごとに REC/PB LEVEL つまみで調整する。
- PHONES (ヘッドホン) 端子と MONITOR AUDIO (モニターオーディオ) 端子の出力  
前面パネルの LEVEL (音量調節) つまみ (MONITOR AUDIO と連動) で調整する。

### ご注意

HDV 記録のテープを、DV、DVCAM フォーマットにダウンコンバートして出力する場合を除き、iLINK 出力のオーディオ信号レベルを REC/PB LEVEL つまみで調整することはできません。

### カセットを取り出すには

EJECT ボタンを押します。  
タイムカウンター表示部に CNT を表示しているときは、表示がリセットされます。

### 文字情報（タイムデータや動作モード表示）がモニター画面に表示されないようにするには

メニュー項目 CHARA. DISPLAY（78 ページ参照）を OFF に設定します。

### 自動的に巻き戻さないようにするには

メニュー項目 AUTO REW（78 ページ参照）の設定を DISABLE に設定します。

### ストップモードからスタンバイオフモードに切り換わるまでの時間を変えるには

メニュー項目 FROM STOP >STOP TIMER（81 ページ参照）の設定を変更します。

## 变速再生する

サーチ機能を使用して、確認したい場面をすばやく探したり、編集点を迅速・正確に決定したりすることができます。

### 本機での变速再生操作

メニュー項目 SEARCH ENABLE（77 ページ参照）を ENABLE に設定すると、本機の矢印ボタンによりサーチ操作が可能になります。

○：操作可 ×：操作不可

ボタン操作	対応する变速再生	テープの記録フォーマット	
		DV/DVCAM	HDV
→/[B]	FWD サーチ	10 倍速	8 倍速
←/[A]	REV サーチ	- 10 倍速	- 8 倍速

ボタン操作	対応する変速 再生	テープの記録フォーマット	
		DV/DVCAM	HDV
↑	FWD コマ送り	○	○
↑ (押し続ける)		1/2 倍速	1/5 倍速
↓	REV コマ送り	○	×
↓ (押し続ける)		- 1/2 倍速	- 1 倍速

**ご注意**

HDV フォーマットで記録されたテープは、REV コマ送りや REV スロー再生はできません。

**F FWD ボタン、REW ボタンを押したときの早送り、巻き戻しの最大速度を設定するには**

メニュー項目 MAX SRCH SPEED >F.FWD/REW で希望の最大速度を選択します。

**外部機器から操作する**

後面パネルの REMOTE 端子に接続した RS-422A インターフェースを備えたコントローラーや編集機、HDV/DV 端子に接続した機器、または前面パネルの CONTROL-S 端子に接続した SIRCS 対応のリモートコントロールユニット (DSRM-10 など) から、本機をコントロールすることができます。

**ご注意**

本機を外部機器からコントロールするときは、前面パネルのリモートコントロールスイッチを次のように設定してください。

外部機器	本機のリモートコントロールスイッチの設定
REMOTE 端子に接続した編集機	9PIN
CONTROL-S 端子に接続した SIRCS 対応のリモートコントロールユニット	LOCAL
HDV/DV 端子に接続した機器	iLINK

**外部機器からコントロールする場合の変速再生について**

外部コントローラーや SIRCS リモコンから操作する場合には、フォーマットにより変速再生の対応速度が異なります。

**HDV フォーマットの場合の対応再生速度**

HDV1080i フォーマットで記録されたテープの場合、対応再生速度と画質の状態、出力の可否は次のとおりです。

○：出力可 ×：出力不可

再生速度	画質の状態	ビデオ出力	iLINK 出力
24 倍速	粗い	○	○

再生速度	画質の状態	ビデオ出力	iLINK 出力
8 倍速	粗い	○	○
1 倍速	通常	○	○
1/5 倍速	通常	○	×
1/10 倍速	通常	○	×
1/30 倍速	通常	○	×
FWD コマ送り	通常	○	×
STILL	通常	○	×
- 1 倍速	粗い	○	○
- 8 倍速	粗い	○	○
- 24 倍速	粗い	○	○

**ご注意**

HDV フォーマットで記録されたテープは、オーディオは変速再生できません。

**DV/DVCAM/DVC PRO フォーマットの場合の対応再生速度**

DV/DVCAM/DVC PRO フォーマットの場合に可能な再生操作と、対応する再生速度は次のとおりです。

再生操作	再生速度
シャトル再生	- 60 ~ + 60 倍速 (- 10 ~ + 10 倍速の範囲内では、サーチ音声を確認することができます。)
コマ送り	低速サーチ、フレーム単位
デジタルスロー	- 1/2 ~ + 1/2 倍速 (ノイズなし / デジタルジョグサウンドによる音声のスロー再生が可能です。 ジョグオーディオ - 1/2 ~ - 1/30、+ 1/30 ~ + 1/2 倍速
スチル	希望のフィールドの静止画

◆ 外部機器でのサーチ操作のしかたについては、各機器の取扱説明書をご覧ください。

**繰り返し(リピート)再生を行う**

指定した区間を繰り返し再生するには、次のように操作します。

**1** メニュー項目 REPEAT FUNCTION (76 ページ参照) で、リピートする区間を設定する。

再生区間を A 点、B 点として指定する場合は、次項を参照して操作してください。

**2** メニュー項目 REPEAT FUNCTION の REPEAT MODE を ON にする。

リピートインジケーターが点灯します。

**3** SET (YES) ボタンを押してメニューの表示を消す。

#### 4 PLAY ボタンを押す。

手順1で設定したリピート開始位置へ移動し、リピート再生が開始されます。

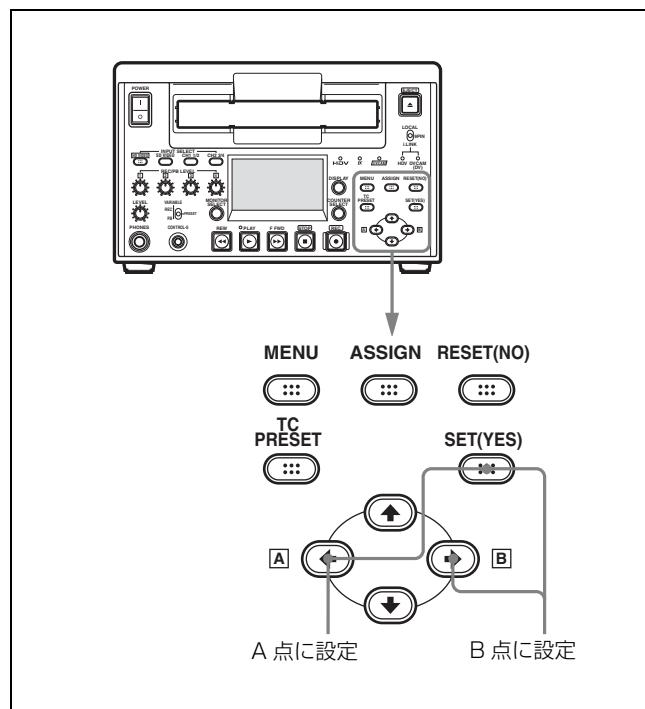
## 再生区間を任意に指定する

現在のテープ位置を開始点（A 点）または終了点（B 点）にするか、任意のタイムコードを入力して設定します。次の設定終了後、PLAY ボタンを押すとリピート再生が行われます。また、リモートコントロールユニット DSRM-10（別売り）の PLAY ボタンを押して実行することもできます。

### ご注意

A 点、B 点間の繰り返し再生を行う場合は、メニュー項目 REPEAT FUNCTION (76 ページ参照) の REPEAT TOP を A POINT に、REPEAT END を B POINT に設定してください。

### 現在のテープ位置を開始点（A 点）または終了点（B 点）にするには



メニュー操作部の SET (YES) ボタンを押したまま、  
←/[A] ボタンまたは →/[B] ボタンを押すと、押したときの  
テープ位置（タイムコード）が A 点または B 点に記憶され  
ます。

同時に「A set」または「B set」がタイムカウンター表示  
部に 0.5 秒間表示されます。

いったん A 点または B 点に記憶されたタイムコードは、値

を変更するまで不揮発性メモリーに保存され、電源を切つ  
ても設定値は失われません。

### ご注意

A 点および B 点にはタイムコードのみ設定できます。  
COUNTER SELECT ボタンで CNT を選択しても、CNT  
を設定することはできません。

### A 点、B 点の設定値を確認するには

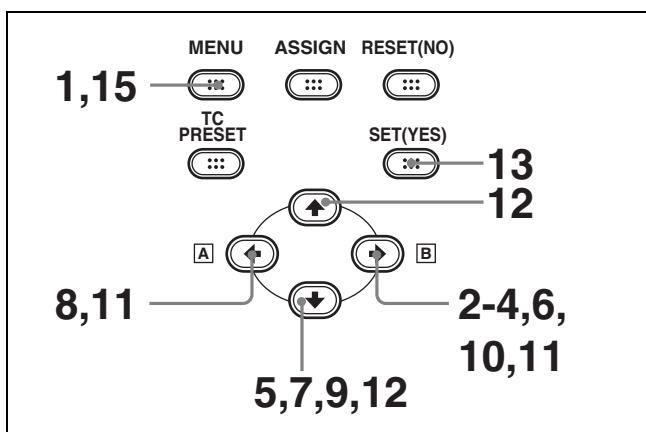
←/[A] ボタンまたは →/[B] ボタンを押したままにすると、  
押している間、モニター画面およびタイムカウンター表示  
部に、A 点または B 点のタイムコードが表示されます。

←/[A] ボタンと →/[B] ボタンを同時に押したままにすると、  
(B 点のタイムコード) - (A 点のタイムコード) の値が表  
示されます。A 点のタイムコードが B 点のタイムコードよ  
り大きい場合は、表示される値にマイナス符号が付きます。

### タイムコードを入力して A 点、B 点を任意 に設定するには

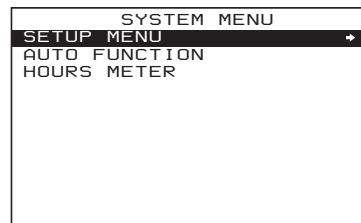
次のように操作します。

前項で指定した A 点、B 点を微調整する場合も、この手順  
を行ってください。



#### 1 MENU ボタンを押す。

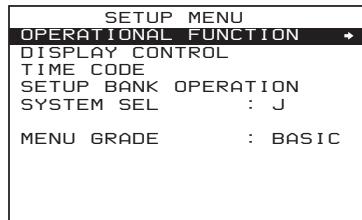
SYSTEM MENU が表示されます。



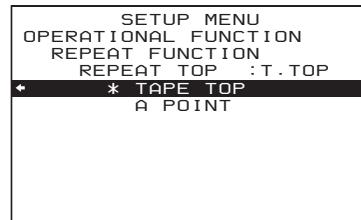
モニター画面

#### 2 SETUP MENU を選択してから、→/[B] ボタンを押す。

表示が次のように変わります。

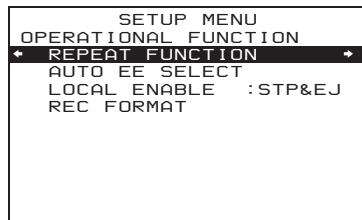


モニター画面



- 3** OPERATIONAL FUNCTION を選択してから、  
→/ [B] ボタンを押す。

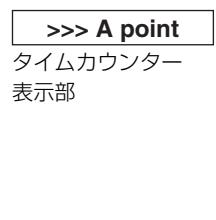
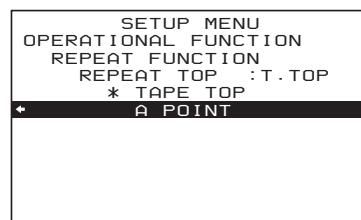
次のように表示されます。



モニター画面

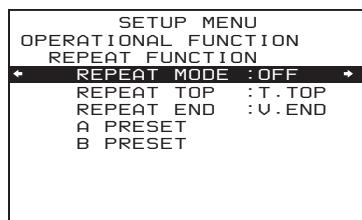


- 7** ↓ ボタンを押して、A POINT を選択する。



- 4** REPEAT FUNCTION を選択してから、→/ [B] ボタンを押す。

REPEAT FUNCTION の設定項目が表示されます。

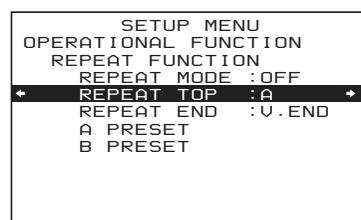


モニター画面

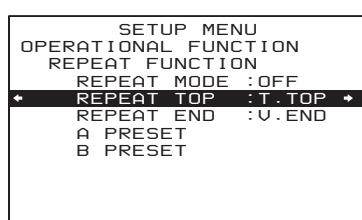


- 8** ←/ [A] ボタンを押す。

表示が次のように変わります。



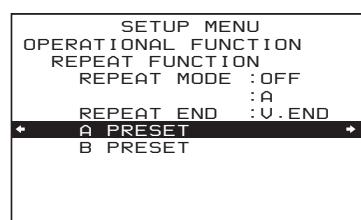
- 5** ↓ ボタンを押して、REPEAT TOP を選択する。



モニター画面



- 9** ↓ ボタンを押して、A PRESET を選択する。



- 6** →/ [B] ボタンを押す。

表示が次のように変わります。

- 10** →/ [B] ボタンを押す。

モニター画面が次のように変わります。2行目には、現在 A 点に設定されているタイムコードが表示されます。



00:00:00:00  
タイムカウンター  
表示部

**11** ←/[A] ボタンまたは →/[B] ボタンを押して、変更したい桁を点滅させる。

ボタンを押すたびに、矢印の方向へ1つずつ点滅する桁が移動します。ボタンを押したままにすると、点滅する桁が連続して移動します。設定値をリセットしたいときは、RESET (NO) ボタンを押すと、タイムコードが00:00:00:00になります。左端の桁が点滅します。

**12** ↑ ボタンまたは ↓ ボタンを押して、数値を変更する。

ボタンを押すたびに、数値が1つずつ増減します。ボタンを押したままにすると、数値が連続して変化します。別の桁の数値を変更する場合は、手順**11**に戻ります。

**13** SET (YES) ボタンを押して、設定した値を確定する。

モニター画面には「NOW SAVING...」、タイムカウンター表示部には「Saving...」と表示され、変更した設定が本機のメモリーに保存されます。

### ご注意

保存中に電源を切ると、設定したデータが失われることがあります。保存が完了するまで電源を切らないでください。

### 変更した値を保存しないときは

MENU ボタンを押して、メニュー画面に戻ります。  
メニュー操作を終了するには、メニュー画面で MENU ボタンを押します。

保存が完了すると、REPEAT FUNCTION 設定画面（手順**9**の状態）に戻ります。

**14** 引き続き B 点を設定するときは、手順**5**～**13**を参照して、A 点と同様に設定を行う。  
(手順**5**で REPEAT END、手順**7**で B POINT、手順**9**で B PRESET を選択する。)

**15** MENU ボタンを押す。

メニュー表示が消えます。

## 任意に設定した位置を頭出しうる

あらかじめ A 点または B 点として任意に設定した位置を頭出しうるには、次のように操作します。

**A 点の頭出し** : ←/[A] ボタンを押したまま、F FWD ボタンまたは REW ボタンを押す。

**B 点の頭出し** : →/[B] ボタンを押したまま、F FWD ボタンまたは REW ボタンを押す。

◆ A 点、B 点の設定方法については、「再生区間を任意に指定する」(50 ページ)をご覧ください。

# タイムデータを活用する

## タイムコードやユーザービットを記録する

タイムコードの記録には、次の3通りの方法があります。

**Internal Preset (内部プリセット) モード**：初期値を設定し、本機内部でタイムコードを発生させて記録する。次のいずれかの歩進モードを選択できる。

- Free Run：タイムコードが常に歩進する。
- Rec Run：記録中のみタイムコードが歩進する。

**Internal Regen (内部リジェネレート) モード**：テープに記録されているタイムコードに連続させて、本機内部でタイムコードを発生させて記録する。

**External Regen (外部リジェネレート) モード**：外部から入力されたタイムコードに同期させて、本機内部でタイムコードを発生させて記録する。外部入力には、以下の端子から入力されるタイムコードを選択できる。

- TC IN 端子 : LTC
- i HDV/DV 端子 : LTC/VITC (VITC は本機の記録フォーマット設定が DVCAM の場合のみ利用可能)
- SD/HD SDI IN 端子 : SD/HD SDI エンベデッドタイムコード (LTC/VITC) (SD-SDI 信号 : RP188。HD-SDI 信号 : ARIB STD-B4.2.0 および RP188。)
- 各映像入力端子 : VITC (本機の記録フォーマット設定が DVCAM の場合のみ利用可能)

### ご注意

- エディティングコントロールユニットを用いたリニア編集で、本機をレコーダーとして用いる場合は、タイムコードの記録モードを内部プリセット、歩進モードを Free Run に設定してください。
- 記録フォーマットが DVCAM でタイムコードが不連続に記録されている場合、本機で任意に設定した初期値からタイムコード（またはユーザービット）を書き換えることができます (TC インサート機能)。
- iLINK 入力選択時は、本機の再生信号は基準ビデオ入力信号に同期しません。本機を RS-422A インターフェース

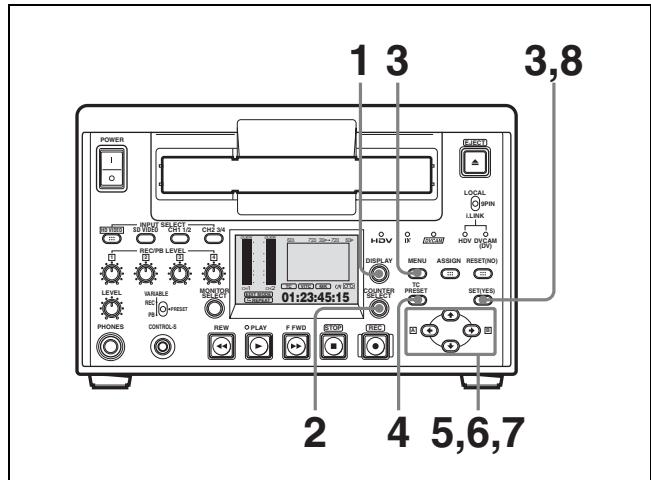
(REMOTE 端子) を介して制御する場合には、SDI 入出力など iLINK 以外の入出力を使用してください。

- ◆ TC インサート機能について詳しくは 70 ページをご覧ください。

## タイムコード初期値、ユーザービットデータを設定する

### Internal Preset モード

内蔵の TC (タイムコード) ジェネレーターが生成するタイムコード (内部タイムコード) をテープに記録する場合、タイムコードの初期値を設定することができます。また DVCAM/DV フォーマットでの記録時には、タイムコードのユーザービットデータをあらかじめ設定しておき、日付、時刻、シーン番号、リール名などをメモ情報として記録することができます。



- DISPLAY ボタンを押して、液晶ディスプレイの表示をステータス表示モードまたは小画面表示モードに切り換える (17 ページ参照)。

- 2** COUNTER SELECT ボタンを押して、タイムデータ種別インジケーターの表示を TC または UB にする。  
**TC**：タイムコードの初期値を設定するとき  
**UB**：ユーザービットデータを設定するとき

タイムカウンター表示部に、タイムコードまたはユーザービットデータが表示されます。

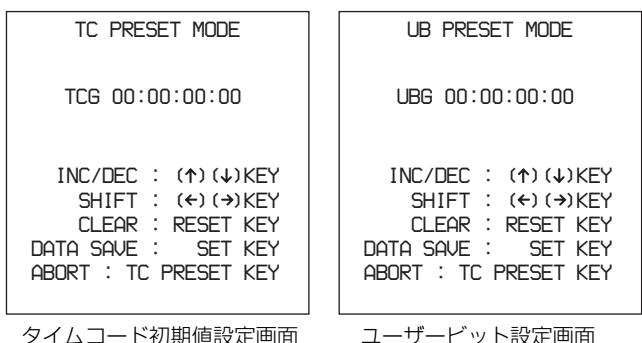
- 3** メニュー項目 TIME CODE (80 ページ参照) で各項目を次のように設定し、SET (YES) ボタンを押す。

項目	設定
TC MODE	INT PRESET
RUN MODE	FREE RUN <sup>1)</sup> または REC RUN <sup>2)</sup>
DF MODE <sup>3)</sup>	ON (DF モード) または OFF (NDF モード)

- 1) 設定の終了と同時に内蔵の TC ジェネレーターが歩進を始めます。  
 2) 内蔵の TC ジェネレーターの歩進開始／停止を、映像・音声の記録開始／停止に連動させます。  
 3) システム周波数が 60i で、記録モードが DVCAM または HDV の場合に有効。この条件以外の場合にはメニューでの設定にかかわらず自動的に OFF (NDF) に固定されます。

- 4** TC PRESET ボタンを押す。

現在の設定値がモニター画面に表示されます。左端の値が点滅し続けます。  
 モニター画面には、手順 **2** で行った選択 (TC または UB) に応じて、次のどちらかのメニュー画面が表示されます。



タイムコード初期値設定画面

ユーザービット設定画面

#### ご注意

- タイムデータの表示設定が CNT のときに TC PRESET ボタンを押すと、モニター画面には「CNT MODEです。」というメッセージが表示され、タイムカウンター表示部には「CNT mode!」と表示されます。COUNTER SELECT ボタンを押して、タイムデータ種別インジケーターの表示を TC または UB にしてください。

- 本機の **i** HDV/DV 端子から HDV フォーマットの信号を記録したとき、ユーザービットは自動的にコピーされ、本機でプリセットすることはできません。
- HDV フォーマットの 1080i 方式では、ユーザービットは 3 フレームおきにしか記録されません。

- 5** **◀/[A]** ボタンまたは **▶/[B]** ボタンを押して、値を変更したい桁を点滅させる。  
 00:00:00:00 に設定する場合は RESET (NO) ボタンを押す。
- 6** **↑** ボタンまたは **↓** ボタンを押して、値を入力する。ユーザービットは 16 進数 (0 ~ 9, A ~ F) で設定する。
- 7** 手順 **5** と **6** を繰り返し、すべての桁の値を設定する。
- 8** SET (YES) ボタンを押す。

モニター画面に「NOW SAVING...」、タイムカウンター表示部に「Saving...」と表示され、設定した値が本機のメモリーに保存されます。  
 保存が終了すると、モニター画面とタイムカウンター表示部の表示が通常の状態に戻ります。

#### ご注意

保存中に本機の電源を切ると、設定した内容が失われることがあります。  
 保存が完了するまで、電源を切らないでください。

### 現在の時刻をタイムコードの初期値として設定するには

手順 **3** でメニュー項目 RUN MODE を FREE RUN に設定し、手順 **4** 以降で現在の時刻（時：分：秒：フレーム）を設定します。

### 記録済みのタイムコードに続けてタイムコードを記録するには

#### Internal Regen モード

テープの記録フォーマットが DVCAM または DV で、本機の記録フォーマット設定がテープの記録フォーマットと一致しているとき、タイムコードをテープ上の記録済みタイムコードに連続させて記録することができます。

メニュー項目 TC MODE を INT REGEN に設定すると、記録開始時にテープ上のタイムコードを読み込み、これに連続するタイムコードを本機内部で発生させて記録します。

この場合、フレームカウントモードは、テープ上の記録済みタイムコードと同じ設定（ドロップフレームまたはノンドロップフレーム）で記録されます。

### ご注意

テープの記録フォーマットがHDVのときは、この設定はできません。

## 外部タイムコードに内蔵タイムコードジェネレーターを同期させる—外部同期

### External Regen モード

本機の内蔵 TC ジェネレーターを、次のいずれかの外部タイムコードに同期させることができます。

- TC IN 端子に接続される LTC 信号
- 映像信号に挿入された VITC 信号
- SD-SDI 信号にエンベッドされたタイムコード：RP188 準拠の LTC
- HD-SDI 信号にエンベッドされたタイムコード：ARIB STD-B4.2.0 および RP188 準拠の LTC/VITC 信号

この方法は、複数のレコーダーの TC ジェネレーターを同期させる場合や、外部 VTR の再生タイムコードを記録する場合、ソース画像とタイムコードの関係を乱さずに記録したい場合などに使用します。

### ご注意

外部タイムコードを入力すると、内蔵の TC ジェネレーターの歩進モード、フレームカウントモードは、自動的に次のモードになります。

**歩進モード**：FREE RUN

**フレームカウントモード**：外部タイムコードと同じモード  
(ドロップフレームまたはノンドロップフレーム)

次のように操作します。

- 1 外部タイムコードの種類に応じて、信号の入力先とメニュー項目 TIME CODE (80 ページ参照) を次のように設定する。

外部タイムコード および入力先	映像信号の 入力先 <sup>1)</sup>	本機のメニュー設定	
		TC MODE	TC SELECT
TC IN 端子に入力された LTC	アナログビデオ入力端子	EXT REGEN	TC
HDV/DV 信号上の LTC	i HDV/DV 端子		
SDI 信号上の LTC <sup>2)</sup>	SD/HD SDI IN 端子		
アナログビデオ信号上の VITC	アナログビデオ入力端子	EXT REGEN	VITC
DV 信号上の VITC	i HDV/DV 端子		
SDI 信号上の VITC <sup>3)</sup>	SD/HD SDI IN 端子		

1) 映像信号の入力先はビデオ / オーディオ入力選択部の

INPUT SELECT ボタン (15 ページ参照) で選択します。

2) SD-SDI のエンベデッド TC は LTC のみに対応しています。SDI 入力を選択している場合は、以下の優先順位で外部タイムコードが選択されます。

①SD-SDI 信号：RP188、または HD-SDI 信号：ARIB-STD B4.2.0 および RP188

②TC IN 端子への入力

3) HD-SDI 入力ではエンベデッド TC の VITC、SD-SDI 入力では映像信号として重畳された VITC に対応しています。

タイムコードジェネレーターがリジェネレートモードのとき (メニュー項目 TC MODE が INT REGEN または EXT REGEN に設定されているとき)、タイムコードとユーザービットデータを共にリジェネレートするか、どちらか一方のみにリジェネレートするかを、メニュー項目 TIME CODE > TCG REGEN (80 ページ参照) で選択することができます。

### ご注意

- 入力モードが iLINK になっている (入力信号表示部のビデオエリアに iLINK の表示が出ている) 場合、メニュー項目 TC MODE を EXT REGEN に設定すると、内蔵の TC ジェネレーターは TC IN 入力に同期せず iLINK 入力に同期します。
- VITC の記録は本機の記録フォーマットが DVCAM の場合のみ対応しています。
- メニュー項目 TC MODE を EXT REGEN に設定して、i HDV/DV 端子に接続した外部機器からタイムコードも入力するとき、入力されるタイムコードが不連続なときや正しく歩進しなかったとき、入力されるタイムコードおよびテープに記録されるタイムコードと本機のタイムコード表示がずれことがあります。また、このようにタイムコードが不連続に記録されたテープを用いるときは、組み合わせる機器によっては編集やサーチ動作が正しく行われないことがあります。

## 外部同期がかかったことを確認するには

STOP ボタンを押して本機をストップモードにしてから、REC ボタンを押します。  
タイムカウンター表示部を見て、値が外部タイムコードの値と一致していることを確認してください。

## VITC を記録するには (DVCA M 記録の場合のみ)

テープ上に VITC を記録する場合は、メニュー項目 TIME CODE >VITC の設定を ON にして記録を行ってください (VITC が OFF に設定されている場合でも、入力ビデオに挿入されている VITC 信号はそのまま記録されます)。

# タイムコードを出力する

ここでは、再生時、記録時、E-E モード時に、TC OUT、VIDEO OUT、SDI OUT1/OUT2 端子から出力されるタイムコードについて説明します。

## 再生時のタイムコード出力

### TC OUT 端子から出力されるタイムコード (LTC)

TC OUT 端子からは、再生しているテープから読み取ったタイムコード (およびユーザービットデータ) が出力されます。

工場出荷時の設定では、サーチ時にはタイムコードが出力されないようになっています。サーチ時もタイムコードが出力されるようにするには、メニュー項目 TIME CODE >MUTING IN SRCH を OFF に設定します。

### ご注意

- メニュー項目 MUTING IN SRCH が OFF に設定されている場合、サーチ時にテープからタイムコードが読み取れなかった場合、タイムコードは出力されません。
- 静止画再生時は、タイムコードは出力されません。
- 変速再生時のタイムコード出力はメニュー項目 MUTING IN SRCH の設定に従います (81 ページ参照)。

### ビデオ信号出力端子から出力されるタイムコード (VITC)

VIDEO OUT、SDI OUT1/OUT2 端子からは、メニュー項目 TIME CODE での設定により、タイムコード (VITC) をビデオ信号に挿入して出力することができます。  
メニュー項目 TIME CODE で次のように設定します。

- ◆ メニュー操作のしかたについては、「メニューの設定を変更する」(89 ページ) をご覧ください。

### VITC を出力するには

- 1 メニュー項目 VITC OUTPUT (81 ページ参照) を TC または VITC に設定する。

**TC** : タイムコード (LTC) を VITC に変換して出力ビデオ信号に挿入する。

**VITC** : ビデオ信号に挿入されている VITC を出力する。

VITC を出力ビデオ信号に挿入しないときは、OFF を選択します。

- 2 メニュー項目 VITC POS SEL-1、VITC POS SEL-2 (81 ページ) で、VITC を挿入するラインを指定する。

## SDI 出力のエンベデッドタイムコード

本機の SDI 出力にはメニュー設定により、RP188 規格の LTC としてタイムコードを付加することができます。

## HD-SDI 出力のエンベデッドタイムコード

本機の HD-SDI 出力には HDV のタイムコードを、ARIB STD-B4.2.0 規格および RP188 規格の LTC または VITC として付加します。

## 記録時 /E-E モード時のタイムコード出力

### TC OUT 端子から出力されるタイムコード

「タイムコードやユーザービットを記録する」(53 ページ参照) に従って設定したタイムコード（およびユーザービットデータ）が出力されます。

タイムコードの記録時、STOP REC（強制 E-E モード）時に TC OUT 端子から出力する LTC 信号の位相を制御することができます。(詳しくはメニュー項目 EE OUT PHASE (81 ページ) の説明をご覧ください。)

### ビデオ信号出力端子から出力されるタイムコード

「再生時のタイムコード出力」と同様です。

# 編集のための接続と設定

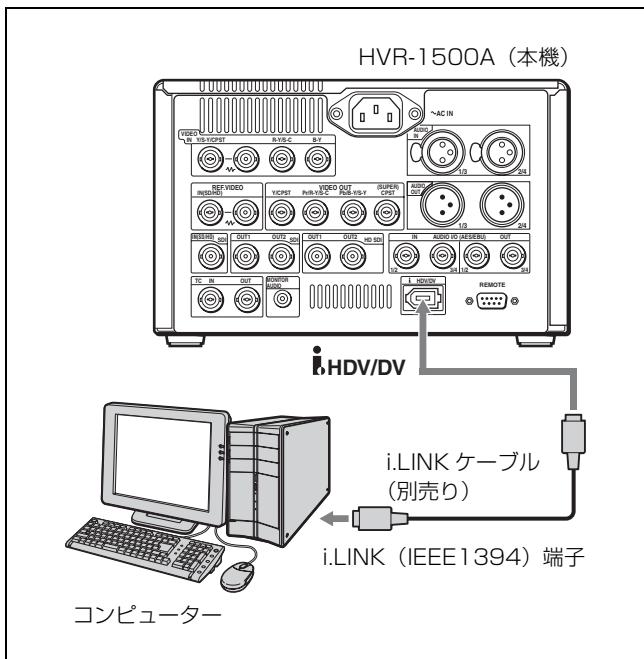
## ご注意

本章で記載されている周辺機器や関連機器は、すでに「生産完了」となっている場合があります。機器の選定にあたっては、ソニーの営業担当者またはお買い上げ店にお問い合わせください。

## i.LINK を使った接続

### ノンリニア編集システムで使用する(AV/C 接続)

ノンリニア編集システムと本機を i HDV/DV 端子で接続し、HDV フォーマットまたは DVCAM/DV フォーマットの信号を入出力したり、本機をリモートコントロールすることができます。次図に接続例を示します。



## ご注意

本機の iLINK 出力は、入力の選択およびテープに記録されているフォーマットにより、自動的に DV/DVCAM フォーマット、HDV フォーマットが切り替わります。HDV と DV/DVCAM では iLINK ストリームが異なるため、切り替わり時に iLINK インターフェースでバスリセットが発生し、接続するノンリニア編集機によっては支障となる場合があります。

このような場合は、メニュー項目 INTERFACE SELECT >iLINK FORMAT を iLINK INPUT に設定し、お使いになるフォーマットに合わせて iLINK 入力を選択してください。

### DVCAM/DV フォーマットで接続するには

ノンリニア編集システムに、DVCAM/DV フォーマットまたは HDV フォーマットの映像 / 音声信号を DVCAM/DV フォーマットで転送するには、次のように設定します。

このとき、HDV フォーマットで記録されたデータは、DVCAM/DV フォーマットにダウンコンバートされて出力されます。

コンピューターの設定	本機の設定
DVCAM/DV フォーマット対応の編集ソフトウェアをインストール	リモートコントロールスイッチ : iLINK メニュー項目 INTERFACE SELECT >iLINK OUTPUT : DV (SP) または DVCAM (86 ページ参照) に設定
	入力信号の設定 : iLINK : DVCAM または iLINK : DV
	<b>キャプチャーの場合 :</b> メニュー項目 OPERATIONAL FUNCTION > AUTO EE SELECT : STOP、STANDBY OFF を PB に設定
	<b>書き戻しの場合 :</b> メニュー項目 OPERATIONAL FUNCTION > AUTO EE SELECT : STOP、STANDBY OFF、F.FWD/REW を EE に設定

**ご注意**

- ・ノンリニア編集システムには、DV または DVCAM フォーマットに対応した編集ソフトウェア（別売り）が必要です。使用する編集ソフトウェアによっては正しく動作しない場合があります。ご使用になる前に、必ず本機が対応機種として推奨されていることをご確認ください。
- ・本機の i HDV/DV 端子は 6 ピンです。接続するコンピューター側の iLINK (DV) 端子のピン数をご確認の上、適切な iLINK ケーブルを使用してください。
- ・iLINK 入力選択時は、本機の再生信号は基準ビデオ入力信号には同期しません。
- ・本機を RS-422A インターフェース (REMOTE 端子) を介して制御する場合には、SDI 入出力など iLINK 以外の入出力を使用してください。

**HDV フォーマットで接続するには**

ノンリニア編集システムに、HDV フォーマットで記録された映像／音声信号を転送するには、次のように設定します。

コンピューターの設定	本機の設定
HDV フォーマット対応の編集ソフトウェアをインストール	リモートコントロールスイッチ : iLINK メニュー項目 INTERFACE SELECT >iLINK OUTPUT : HDV (86 ページ参照) に設定
	入力信号の設定 : iLINK : HDV
	<b>キャプチャーの場合 :</b> メニュー項目 OPERATIONAL FUNCTION >AUTO EE SELECT : STOP、STANDBY OFF、F.FWD/REW を PB に設定
	<b>書き戻しの場合 :</b> メニュー項目 OPERATIONAL FUNCTION >AUTO EE SELECT : STOP、STANDBY OFF、F.FWD/REW を EE に設定

**ご注意**

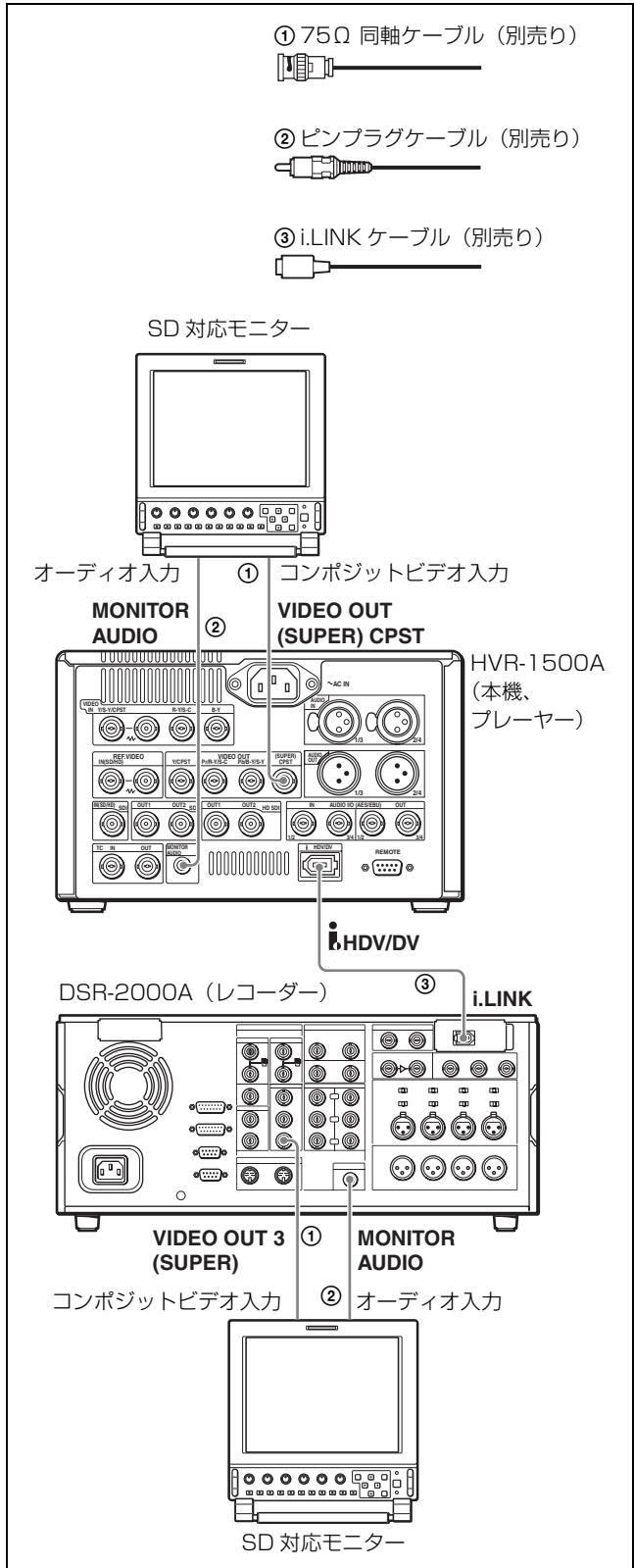
- ・ノンリニア編集システムには、HDV フォーマットに対応した編集ソフトウェア（別売り）が必要です。
- ・本機の i HDV/DV 端子は 6 ピンです。接続するコンピューター側の iLINK (DV) 端子のピン数をご確認の上、適切な iLINK ケーブルを使用してください。
- ・HDV フォーマットと DVCAM/DV フォーマットを切り換える場合には、iLINK ケーブルの抜き差しが必要になることがあります。
- ・パソコン、本機に iLINK ケーブルをつなぐとき、端子の向きを確認してください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。
- ・i HDV/DV 端子は HDV 1080i/DVCAM/DV 信号に対応しています。
- ・6 ピン型の iLINK 端子を持つ機器と本機を iLINK ケーブルで接続する場合、iLINK ケーブルを抜き差しするとき

は、あらかじめ機器の電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。機器の電源プラグを差したまま iLINK ケーブルを抜き差しすると、機器の iLINK 端子から出力している高圧電流 (8 ~ 40 V) が本機に流れ込み、本機の故障の原因となる恐れがあります。

- ・HDV フォーマットで記録されたテープを DVCAM フォーマットに変換して出力する場合、以下の制限事項があります。
    - テープ上の絶対番地 (ATN : Absolute Track Number) は常に「0」が出力されます。
    - 通常再生スピード (1 倍速) で再生中に無記録部分が存在した場合、その部分を DVCAM に換算した絶対番地と見積もって走行します。
  - ・本機では、DVCAM (DV) フォーマットで記録した画像を HDV にアップコンバートして iLINK 出力することはできません。
- ◆ 接続に際しては、接続する機器、および使用するノンリニア編集システムの取扱説明書も併せてご覧ください。

**カット編集システムで使用する**

次図は、本機をプレーヤー、DSR-2000A をレコーダーとして DVCAM フォーマットのカット編集システムを構成する場合の接続例です。DSR-2000A から本機をコントロールしてカット編集を行います。



ド間では、アラームが表示され、編集できないように設定されています。

DSR-2000A (レコーダー) の設定	本機の設定
メニュー項目 INPUT SELECT : iLINK	リモートコントロール
リモートコントロール設定部 : HD VIDEO ボタン (点灯)	スイッチ : iLINK

◆ DSR-2000A の設定について詳しくは、DSR-2000A の取扱説明書をご覧ください。

### ご注意

オーディオ編集時は、ベーステープ（編集を行うテープ）の記録モードと DSR-2000A 側のオーディオ記録モードを一致させるように注意してください。異なるオーディオモード

# リニア編集システムのための接続

## ご注意

### • DVCAM 編集で本機をレコーダーとして使用する場合

- オーディオのチャンネル別編集はできません。ただし、すべてのオーディオチャンネルを選択してインサート編集を行うことは可能です。
- オーディオの編集点には、メニュー選択によりカットまたはフェードイン／フェードアウトが設定できます。
- ビデオインサート編集時にはタイムコード情報も IN 点からの連続性を保って書き換えます。
- iLINK 入力を使用するリニア編集の場合、RS-422A インターフェース経由でコントロールを行うと編集点がずれます。コントロールも iLINK 経由で行ってください。

### • 本機を HDV フォーマットのプレーヤーとして使用する場合

本機を HD リニア編集のプレーヤーとしてお使いになる場合、本機は調相には対応できません。コントローラーのプレーヤーに対する調相の設定をオフにするか、「Preroll & Play」に設定してお使いください。

## ご注意

本機は HDV テープのリニア編集用のレコーダーとして、アッセンブル編集やインサート編集などを行うことはできません。HD-SDI 入力は、REC ボタンを使用する通常の記録モードでのみ記録可能です。

## 外部コントローラーを使用した DVCAM フォーマットの編集

### RM-280 を使用する

次図は、DSR-1500A をプレーヤー、本機をレコーダーとしてエディティングコントローラー RM-280 に接続し、DVCAM フォーマットのカット編集システムを構成する場合の接続例です。

① 75Ω 同軸ケーブル（別売り）



② 9ピンリモートケーブル（別売り）



③ XLR ケーブル（別売り）



④ ピンプラグケーブル（別売り）



基準ビデオ信号

① REF. VIDEO IN

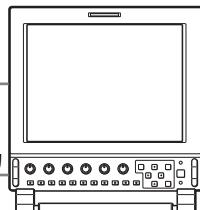
コンポジットビデオ入力

オーディオ入力

VIDEO OUT  
(SUPER)  
B-Y/CPST

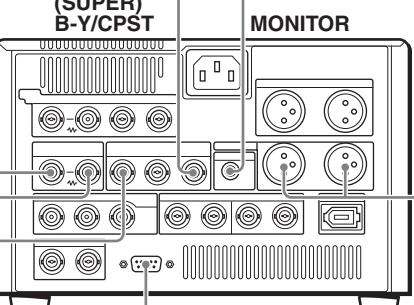
①

SD 対応モニター



DSR-1500A  
(プレーヤー)

AUDIO OUT  
1/3, 2/4



①

①

REF. VIDEO IN  
(SD/HD)

HVR-1500A  
(本機、  
レコーダー)

①

MONITOR  
AUDIO

VIDEO OUT  
(SUPER)CPST

①  
コンポジット  
ビデオ入力

オーディオ入力

RM-280 エディティ  
ングコントローラー

REMOTE (9P)  
PLAYER (DEVICE 2)

REMOTE (9P)  
RECORDER (DEVICE 1)

REF IN/OUT

②

②

SD 対応モニター

a) アナログビデオ / オーディオ信号を入力するに  
は、HVBK-1505 が必要です。

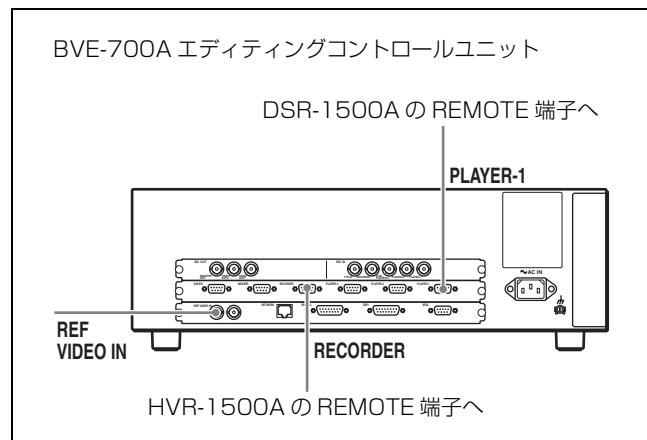
DSR-1500A（プレーヤー）の設定	RM-280（エディティングコントローラー）の設定	本機の設定
LOCAL/REMOTE スイッチ：REMOTE	EDITOR/REMOTE CONTROL 切り替えスイッチ：EDITOR	リモートコントロールスイッチ：9PIN
メニュー項目 REMOTE I/F : 9PIN	セットアップメニュー 01 PREROLL : 5s	ビデオ入力信号の切り替え：COMPOSITE
	セットアップメニュー 05 SYNC SEL : ON	オーディオ入力信号の切り替え CH1 1/2 : ANALOG、CH2 3/4 : ANALOG
	セットアップメニュー 06 SYNC VTR : RECORDER	メニュー項目 TC MODE : INT PRESET
	セットアップメニュー 09 EDIT DLY : AUTO	メニュー項目 RUN MODE : FREE RUN
	セットアップメニュー 10 R ST DLY : AUTO または LEARN	メニュー項目 REC FORMAT : DVCA
	セットアップメニュー 11 P ST DLY : AUTO または LEARN	

◆ DSR-1500A、RM-280 の設定について詳しくは、DSR-1500A の取扱説明書、RM-280 のオペレーションマニュアルをご覧ください。

## BVE-700/700A を使用する

エディティングコントローラー RM-280 の代わりに、エディティングコントロールユニット BVE-700/700A を使ってカット編集することができます。

◆ BVE-700/700A の設定について詳しくは、BVE-700/700A のユーザーガイドをご覧ください。



DSR-1500A（プレーヤー）の設定	エディティングコントロールユニット BVE-700/700A の設定	本機の設定
LOCAL/REMOTE スイッチ：REMOTE	メニュー項目 SYNCHRONIZE : ON	リモートコントロールスイッチ：9PIN
メニュー項目 REMOTE I/F : 9PIN		ビデオ入力信号の切り替え：COMPOSITE
		オーディオ入力信号の切り替え CH1 1/2 : ANALOG、CH2 3/4 : ANALOG
		メニュー項目 TC MODE : INT PRESET
		メニュー項目 RUN MODE : FREE RUN
		メニュー項目 REC FORMAT : DVCA

## VTR 定数の設定について

本機をエディティングコントロールユニットに接続して使用するには、VTR 定数の設定が必要です。エディティングコントロールユニットで、HVR-1500A、DSR-1500A それぞれの VTR 定数を次のように設定してください。

## HVR-1500A（本機）

システム周波数	1	2	3	4	5	6	7	8
59.94i	80	19	00	96	05	05	03	80
50i	81	19	00	7D	05	05	02	80

システム周波数	9	10	11	12	13	14	15	16
59.94i	0A	08	FE	00	80	5A	FF	5A
50i	0A	07	FE	00	80	4C	FF	4B

## DSR-1500A

1	2	3	4	5	6	7	8
80	17	00	96	05	05	03	80

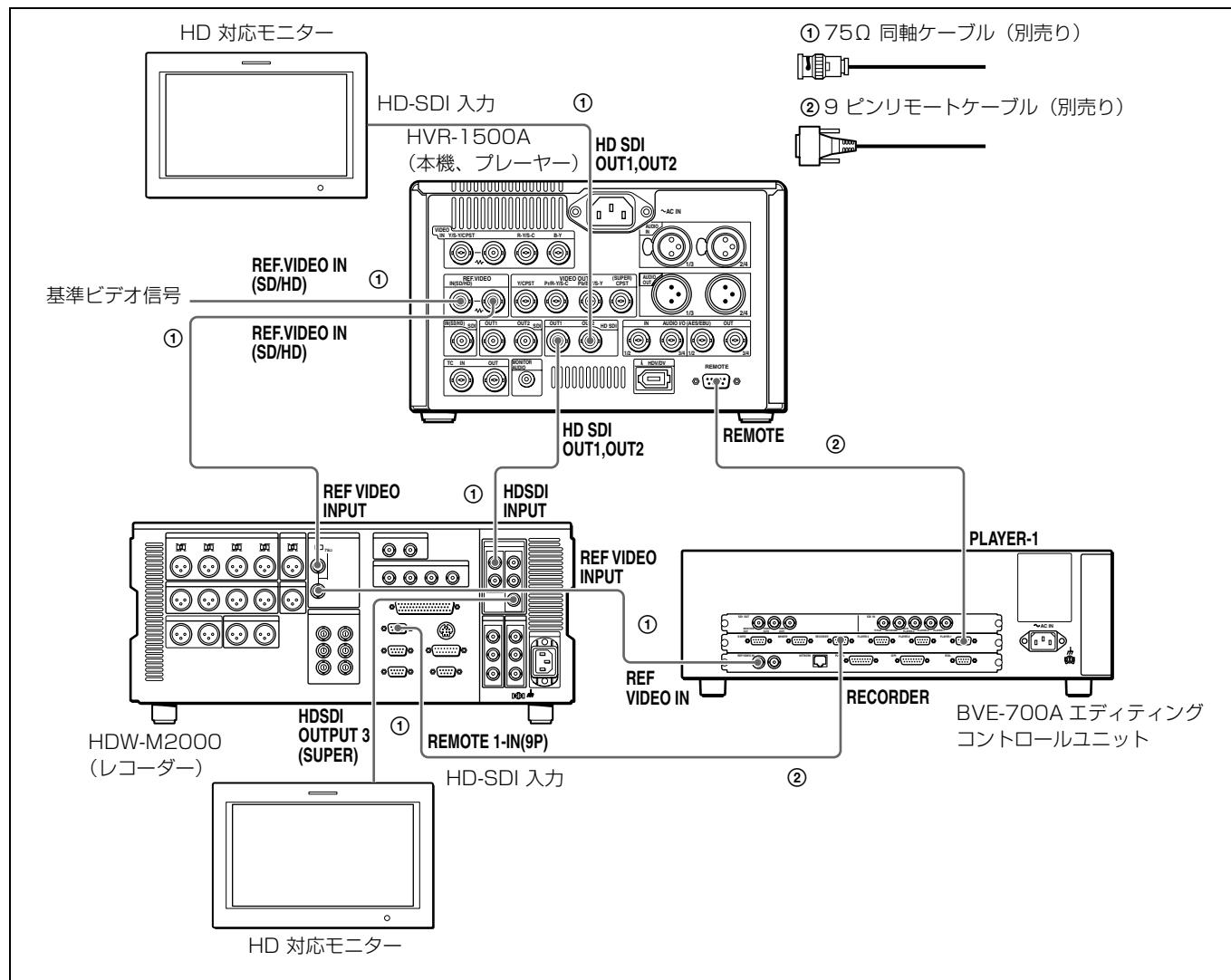
9	10	11	12	13	14	15	16
0A	08	FE	00	80	5A	FF	5A

## 本機を HDV テープのプレーヤーとして使用する場合

### BVE-700/700A を使用する

次図は、本機をプレーヤー、HDW-M2000 をレコーダーとしてエディティングコントロールユニット BVE-700/700A

に接続し、HDV フォーマットの素材を HD リニア編集に使用する場合の接続例です。



HDW-M2000（レコーダー）の設定	エディティングコントロールユニット BVE-700/700A の設定	本機の設定
REMOTE 1 (9P) ボタン：点灯	メニュー項目 PREROLL & PLAY	リモートコントロールスイッチ：9PIN
REF.VIDEO INPUT 端子の 75Ω 終端スイッチ：ON		
オーディオ選択機能切り換えボタン		
INPUT ボタン：HDSDI		
ファンクションメニューの HOME >F1 (VID. IN) : SDI		
ファンクションメニューの 1 ページ >F1 (TCG) : INT		
ファンクションメニューの 1 ページ >F2 (PR/RGN) : PRESET		
ファンクションメニューの 1 ページ >F3 (RUN) : FREE		

- ◆ HDW-M2000、BVE-700/700A の設定について詳しくは、HDW-M2000 のオペレーションマニュアル、BVE-700/700A のユーザガイドをご覧ください。

#### VTR 定数の設定について

本機をエディティングコントロールユニットに接続して使用するには、VTR 定数の設定が必要です。エディティングコントロールユニットで次のように VTR 定数を設定してください。

#### HVR-1500A（本機）

システム周波数	1	2	3	4	5	6	7	8
59.94i	80	19	00	96	05	05	3C	80
50i	81	19	00	7D	05	05	32	80

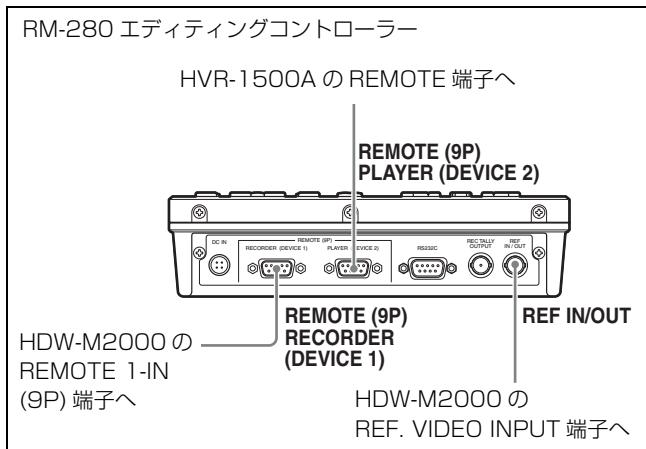
システム周波数	9	10 <sup>a)</sup>	11	12	13	14	15	16
59.94i	0A	36	FE	00	80	5A	FF	5A
50i	0A	2D	FE	00	80	4C	FF	4B

a) START DELAY を編集点のずれが少なくなるように調整してください（フレーム単位）。

#### RM-280 を使用する

エディティングコントロールユニット BVE-700/700A の代わりに、エディティングコントローラ RM-280 を使ってカット編集することができます。

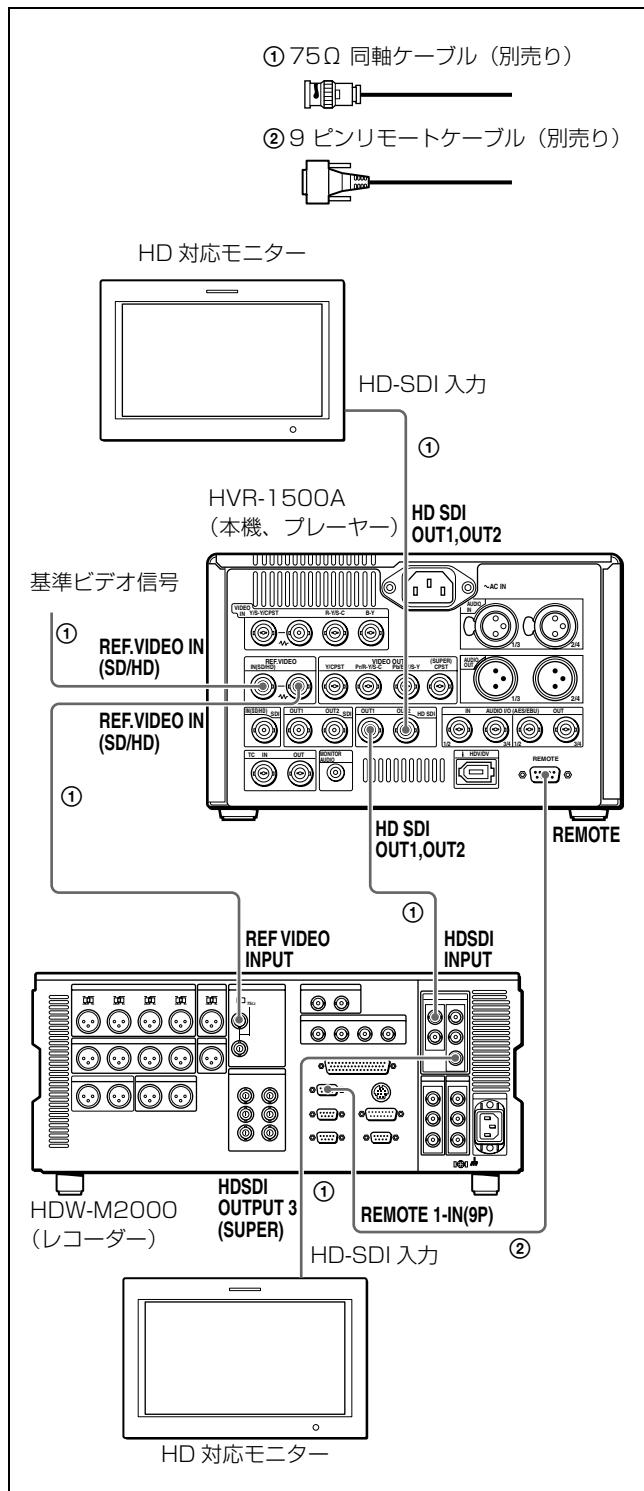
- ◆ RM-280 の設定について詳しくは、RM-280 のオペレーションマニュアルをご覧ください。



HDW-M2000（レコーダー）の設定	RM-280（エディティングコントローラー）の設定	本機の設定
REMOTE 1 (9P) ボタン：点灯	EDITOR/REMOTE CONTROL 切り替えスイッチ：EDITOR	リモートコントロールスイッチ：9PIN
REF.VIDEO INPUT 端子の 75Ω 終端スイッチ：ON	セットアップメニュー 01 PREROLL: 10s	
オーディオ選択機能切り換えボタン INPUT ボタン：HDSDI	セットアップメニュー 05 SYNC SEL: ON	
ファンクションメニューの HOME >F1 (VID. IN) : SDI	セットアップメニュー 06 SYNC VTR : RECORDER	
ファンクションメニューの 1 ページ >F1 (TCG) : INT	セットアップメニュー 09 EDIT DLY: AUTO	
ファンクションメニューの 1 ページ >F2 (PR/RGN) : PRESET	セットアップメニュー 10 R ST DLY: AUTO	
ファンクションメニューの 1 ページ >F3 (RUN) : FREE	セットアップメニュー 11 P ST DLY: AUTO	

## レコーダーの編集機能を使用する場合

次図は、本機をプレーヤー、HDW-M2000 をレコーダーとして HD カット編集システムを構成する場合の接続例です。この例では、映像 / 音声を HD-SDI 接続し、コントロール信号は REMOTE 端子を介して転送します。



HDW-M2000 (レコーダー) の設定	本機の設定
REMOTE 1 (9P) ボタン : 点灯	リモートコントロールスイッチ : 9PIN
REF.VIDEO INPUT 端子の 75Ω 終端スイッチ : ON	
オーディオ選択機能切り換えボタン INPUT ボタン : HDSDI	
ファンクションメニューの HOME >F1 (VID. IN) : SDI	
ファンクションメニューの 1 ページ >F1 (TCG) : INT	
ファンクションメニューの 1 ページ >F2 (PR/RGN) : PRESET	
ファンクションメニューの 1 ページ >F3 (RUN) : FREE	

◆ HDW-M2000 の設定について詳しくは、HDW-M2000 のオペレーションマニュアルをご覧ください。

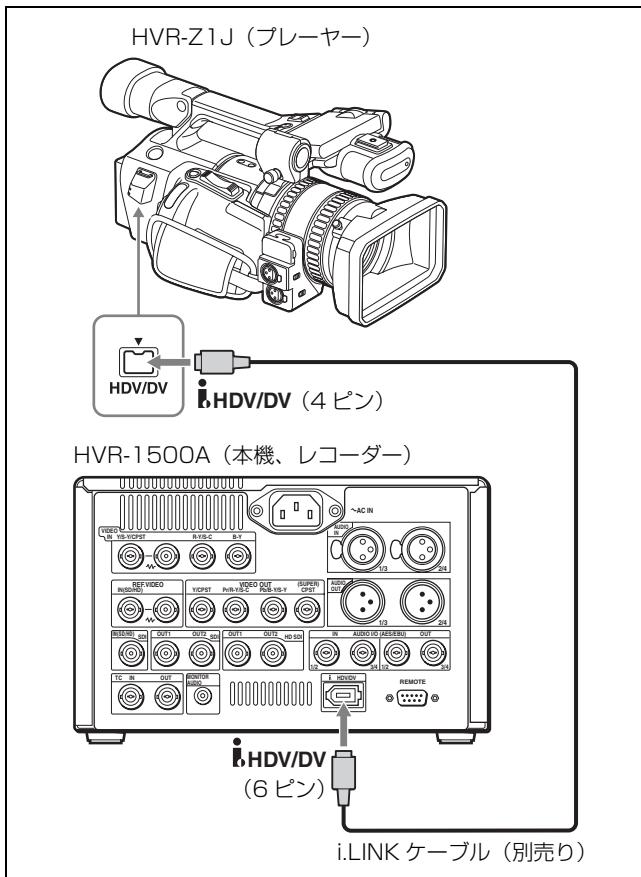
# i.LINK 端子を使ったダビングと TC インサート

## デジタルダビングする

本機では、単純なテープのダビングのほかに、i.LINK インターフェースを介して、HDV 1080i または DVCAM/DV フォーマットの信号をテープの先頭から終わりまで自動的にダビングすることができます。

### 接続と設定

次図は、本機をレコーダー、HVR-Z1J をプレーヤーとして i.LINK インターフェースを介してダビングを行う場合の接続例です。



HVR-Z1J (プレーヤー) の設定	本機の設定
◀ (IN/OUT REC) メニューの VCR HDV/DV <sup>1)</sup> : HDV または DV	目的に応じて、ビデオ / オーディオ入力選択部の HD VIDEO ボタンを押し、入力信号表示部に i.LINK : HDV を表示させる。また、SD VIDEO ボタンを押し、入力信号表示部に i.LINK : DV または i.LINK : DVCAM を表示させる。

1) i.LINK 出力するフォーマットの設定が必要です。

◆ HVR-Z1J の設定について詳しくは、HVR-Z1J の取扱説明書をご覧ください。

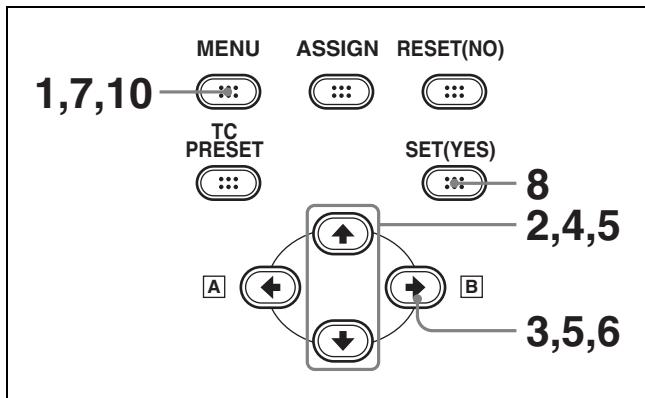
### HDV/DVCAM/DV フォーマットの信号をデジタルダビングする

#### ご注意

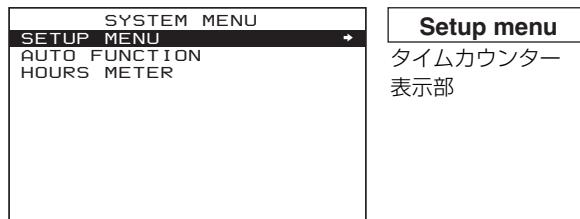
- 同じ最長記録 / 再生時間のテープを使用しても、記録フォーマットにより実際に記録できる時間に差異があるため（41 ページ参照）、ダビングを行う際は、プレーヤーから出力するフォーマットに記録フォーマットを合わせるか、最長記録 / 再生時間の長いテープを記録用にお使いください。
- HDV フォーマットと DVCAM/DV フォーマットが混在している記録テープの場合は、どちらかのフォーマットを選択してダビングします。選択されないフォーマットの記録部分は無信号記録になります。
- DV (SP) フォーマットと DVCAM フォーマットが混在している記録テープの場合には、混在したまでダビングを行いますが、フォーマットの切り替り部分では元のテープと乱れ方が異なる場合があります。
- DV (LP) フォーマットで記録されたテープを、ここで説明する手順によりデジタルダビングすることはできません。
- ソーステープの始めから無信号記録部分がある場合は、ソーステープのデジタルフォーマットと本機の記録フォーマットの設定などにより、ダビングされたテープの始めからの無信号記録部分の長さが異なる場合があります。また、途中でフォーマットが変わった場合は、無信

- 号記録部分ができます。また、DV (LP) フォーマットの場合も無信号記録になります。
- 本機のオーディオ記録モードの設定にかかわらず、ダビングする信号のオーディオ記録モード（2チャンネル / 48kHz または 4 チャンネル / 32kHz）でそのまま記録されます。
  - テープの終わりの約 2 分間の内容は、テープの長さの違いによりダビングされない場合があります。（その部分にインデックスピクチャーが記録されている場合も、ダビングされないことがあります。）
  - 記録開始点より前に連続記録区間が約 5 秒間必要です。本機でダビングするソーステープの開始点には、あらかじめカラーバー信号などを記録しておくことをおすすめします。

デジタルダビングは、次のように操作します。

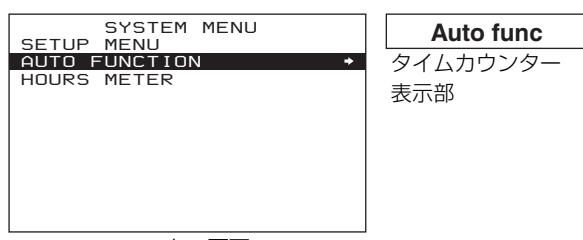


1 MENU ボタンを押す。



モニター画面

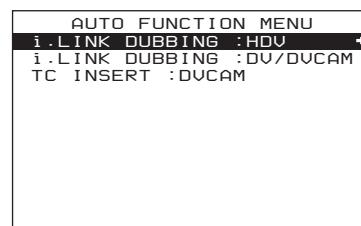
2 ↑ボタンまたは↓ボタンを押して AUTO FUNCTION を選択する。



モニター画面

3 →/B ボタンを押す。

AUTO FUNCTION（自動モード実行）メニューの第 1 層の項目が表示されます。



モニター画面

**i.LINK DUB**

タイムカウンター表示部

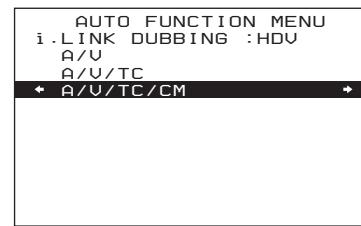
4 ↑ボタンまたは↓ボタンを押してダビングするフォーマットを選択する。

ここでは、iLINK DUBBING : HDV を選択した場合の手順を説明します。

5 →/B ボタンを押してメニュー項目 iLINK DUBBING: HDV の第 2 層を表示し、↓ボタンでダビングする内容を選択する。

表示	ダビングする内容
A/V [>A/V]	オーディオおよびビデオ信号をダビングする。 <b>ご注意</b> A/V を選択した場合、タイムコードは、TIME CODE メニュー（80 ページ参照）の設定内容に従って記録されます。
A/V/TC [>A/V/TC]	オーディオおよびビデオ信号、タイムコードをダビングする。
A/V/TC/CM [>A/V/TC/CM]	オーディオおよびビデオ信号、タイムコード、カセットメモリーの内容をダビングする。

ここでは、A/V/TC/CM を選択した場合の手順を説明します。



モニター画面

**>A/V/TC/CM**

タイムカウンター表示部

6 →/B ボタンを押す。

次のメッセージが表示されます。

i.LINK DUBBING : HDV  
(A/U/TC/CM)  
記録用テープを入れ、再生機にソーステープを入れて下さい。  
ABORT: MENU KEY

**Set tape!**  
タイムカウンター  
表示部

モニター画面

- 7** プレーヤーにソーステープを入れ、本機に記録用テープを入れる。

ダビングを実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

i.LINK DUBBING : HDV  
(A/U/TC/CM)  
ダビングを開始します。  
よろしいですか?  
START: YES KEY  
ABORT: MENU KEY

**Start dub!**  
タイムカウンター  
表示部

モニター画面

**ダビングを中止するには**  
MENUボタンを押します。

- 8** SET(YES)ボタンを押す。

自動的にテープが先頭まで巻き戻され、ダビングが始まります。

i.LINK DUBBING : HDV  
(A/U/TC/CM)  
実行中です。  
TCR 00:00:00:00  
UBR 00:00:00:00  
ABORT: MENU KEY

**Executing**  
タイムカウンター  
表示部

モニター画面

**テープの途中でダビングを終了するには**  
STOPボタンを押します。

ダビングが終了すると、モニター画面には「終了しました。」、タイムカウンター表示部には「Completed」と表示されます。  
ソーステープと記録用テープは自動的に先頭まで巻き戻され、イジェクトされます。テープをイジェクトすると、本機は手順**6**の状態に戻ります。

- 9** 引き続き他のテープをダビングするときは、手順**7**、**8**を繰り返す。

- 10** ダビングを終了するときは、MENUボタンを押してメニューを終了する。

A/V/TC/CMのダビング時に手順**6**で次のメッセージが表示されたときは

i.LINK DUBBING : HDV  
(A/U/TC/CM)  
記録用テープのカセットメモリーの容量不足です。  
カセットメモリーの容量が大きなテープに交換して下さい。  
ABORT: MENU KEY

**CM capacity!**  
タイムカウンター  
表示部

モニター画面

A/V/TC/CMのダビングを行う場合は、手順**7**でテープを入れると、自動的に本機およびプレーヤーに挿入されたテープのカセットメモリーの容量がチェックされます。ソーステープのカセットメモリーの容量が記録用テープのカセットメモリーの容量より大きい場合は、上記のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、記録用テープをカセットメモリーの容量の大きいものに交換してください。

A/V/TC/CMのダビング時に手順**8**で次のメッセージが表示されたときは

i.LINK DUBBING : HDV  
(A/U/TC/CM)  
ダビングを途中で終了しました。  
カセットメモリーのコピーを行いますか?  
COPY : YES KEY  
NOT COPY: RESET KEY

**Copy CM?**  
タイムカウンター  
表示部

モニター画面

A/V/TC/CMのダビングを行っている場合は、手順**8**でSTOPボタンを押してダビングを止めたときや、ソーステープの方が記録用テープより長いためにダビングが中断したときに、カセットメモリーの内容をコピーするかどうかを確認する上記のメッセージが表示されます。

カセットメモリーの内容をコピーする場合はSET(YES)ボタンを押します。

コピーしない場合はRESET(NO)ボタンを押します。

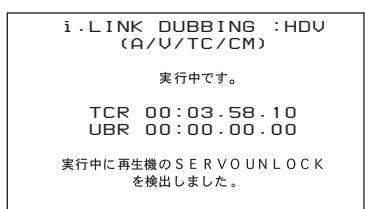
コピーしない場合は、カセットメモリーの内容とテープに記録されている内容が一致しないことがあります。

**プレーヤー側の異常や、対応外のフォーマットを検出したときは**

手順**8**で次のようなメッセージが表示されます。

## • メッセージ例 1

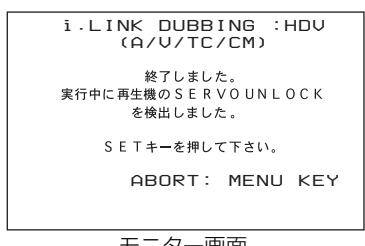
実行中



**Executing**  
タイムカウンター  
表示部

モニター画面

実行後



**SV unlocked**  
タイムカウンター  
表示部

モニター画面

## • メッセージ例 2

実行中



**Executing**  
タイムカウンター  
表示部

モニター画面

実行後



**ILL format**  
タイムカウンター  
表示部

モニター画面

# タイムコードを記録し直す—TC インサート機能 (DVCAAM フォーマットのみ)

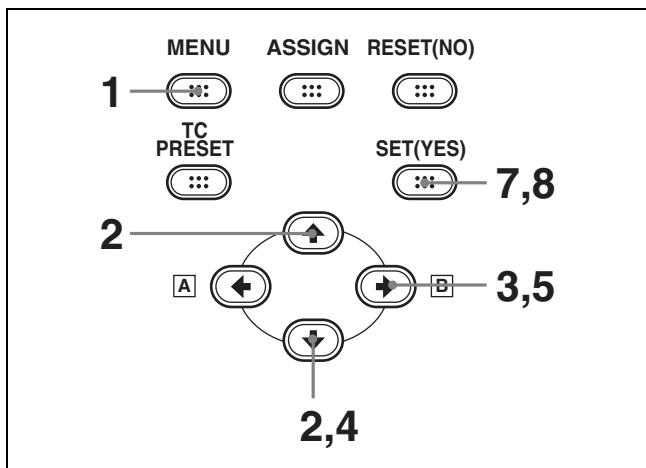
TC インサートは、タイムコードが不連続に記録された場合などに、内蔵のタイムコードジェネレーターを使って連続したタイムコードに書き換える機能です（ユーザービットの書き換えも同時に可能）。

記録フォーマットがDVCAAM のときは、任意に設定した初期値（53 ページ参照）から、タイムコードの記録を開始することができます。

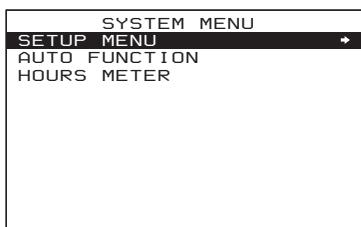
### ご注意

- DVCAAM フォーマットで記録されたテープを使用してください。（HDV/DV フォーマットで記録されたテープでは、TC インサート機能は使えません。）
- 現在のテープ位置からタイムコードの記録を開始します。あらかじめ記録を開始する位置を頭出ししてください。
- クリップリンクログデータが記録されているテープを使うと、クリップリンクログデータは無効になります。

TC PRESET ボタンを押してインサートするタイムコードの初期値を設定し、次の手順で操作します。



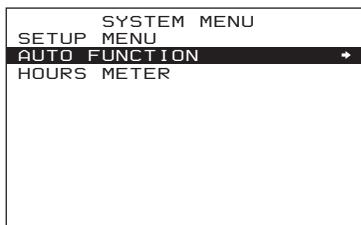
1 MENU ボタンを押す。



モニター画面



2 ↑ボタンまたは↓ボタンを押してAUTO FUNCTIONを選択する。

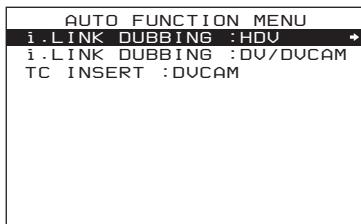


モニター画面



3 →/Bボタンを押す。

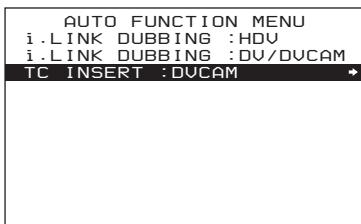
AUTO FUNCTION（自動モード実行）メニューの第1層の項目が表示されます。



モニター画面



4 ↓ボタンを押してTC INSERT : DVCAMを選択する。



モニター画面



5 →/Bボタンを押す。

次のメッセージが表示されます。



モニター画面



タイムカウンター  
表示部

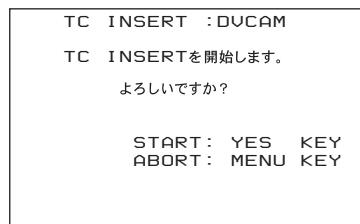
**ご注意**

記録フォーマットがDVCAMに設定されていないときは、異なるメッセージが表示されます。

◆ 詳しくは、「記録フォーマットがDVCAMでないときは」(72ページ)をご覧ください。

6 カセットを入れる。

TCインサートを実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



モニター画面



タイムカウンター  
表示部

**TCインサートを中止するには**

MENUボタンを押します。

7 SET (YES)ボタンを押す。

現在のテープ位置から、タイムコードの記録が開始されます。



モニター画面



タイムカウンター  
表示部

記録が終了すると、モニター画面には「終了しました。YESキーを押して下さい。」が、タイムカウンターディスプレイには「Completed」が、それぞれ表示されます。

**8** 再度 SET (YES) ボタンを押す。

メニューが終了します。

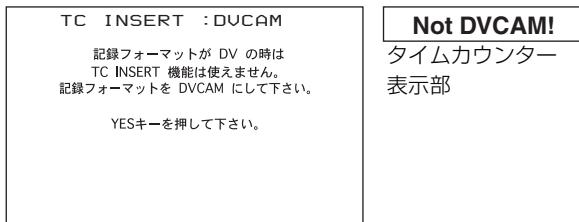
**TC インサートを途中で終了するには**

STOP ボタンを押します。

押した位置で TC インサートが終了します。

**記録フォーマットが DVCAM でないときは**

前記手順 **5** で以下のメッセージが表示されます。



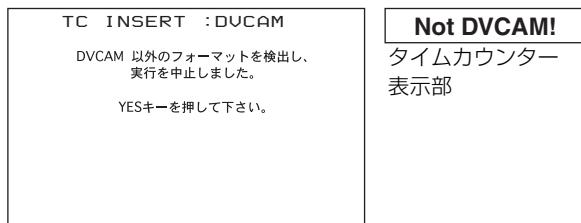
モニター画面

SET (YES) ボタンを押して操作を終了し、メニュー項目 REC FORMAT (77 ページ参照) を DVCAM に設定してください。

TC インサート記録は、記録フォーマットが DVCAM のときのみ実行することができます。

**DVCAM フォーマットで記録されたテープでないときは**

前記手順 **7** で以下のメッセージが表示されます。



モニター画面

SET (YES) ボタンを押して操作を終了し、DVCAM フォーマットで記録されたテープと入れ換えてください。

# メニュー

## メニューの構成

メニューは、SETUP MENU（セットアップメニュー）、AUTO FUNCTION（自動モード実行メニュー）、HOURS METER（デジタル時間計）の3つの系統で構成されています。MENU ボタンを押すと、モニター画面にメニュー選択層が表示され、希望の項目を設定できます。

ここでは、機能の設定を行う SETUP MENU を中心に説明します。

- ◆ AUTO FUNCTION メニューについて詳しくは、「第6章 iLINK 端子を使ったダビングと TC インサート」(67 ページ) をご覧ください。  
デジタル時間計表示メニューについては、「定期点検」(95 ページ) をご覧ください。

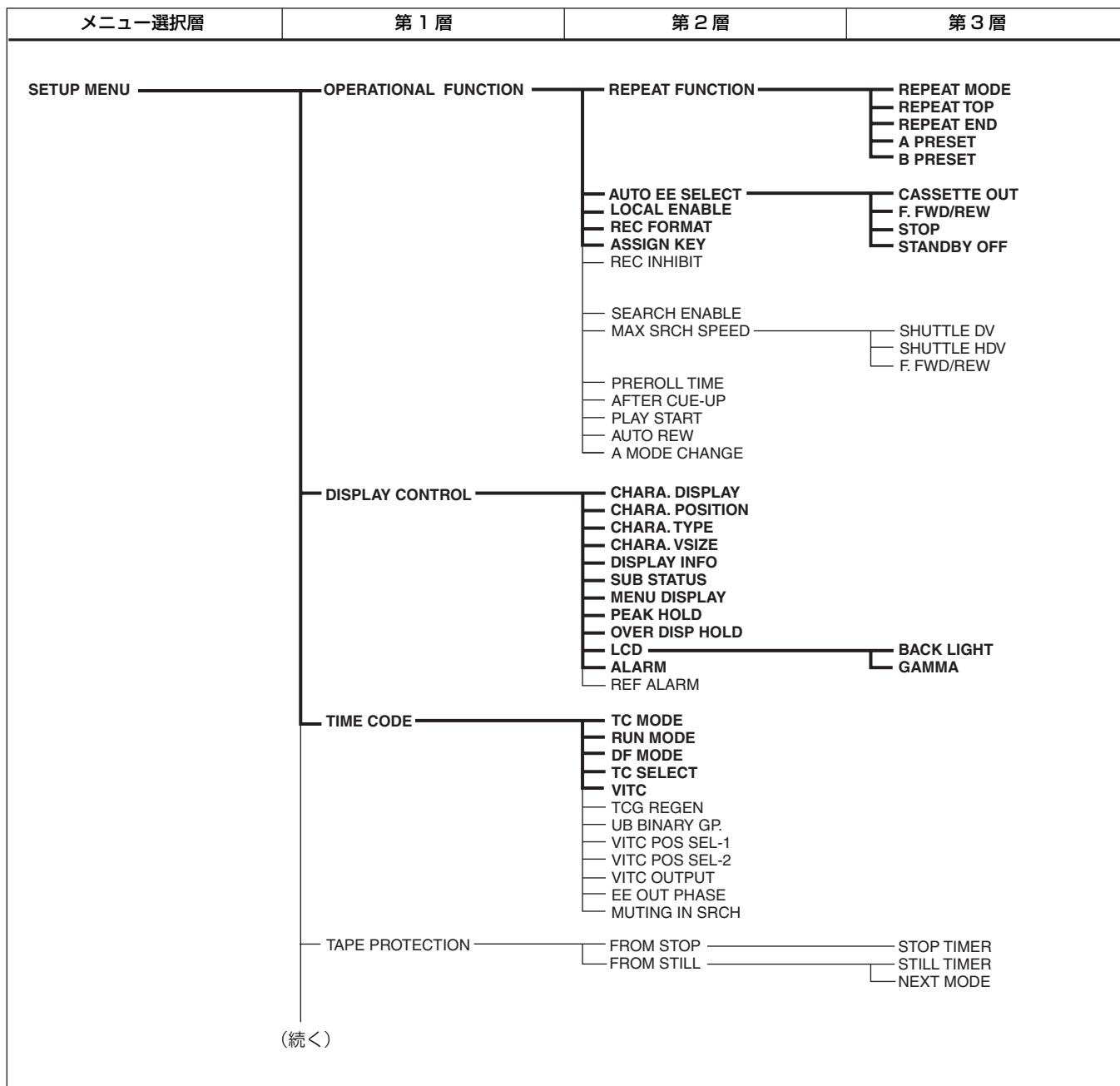
SETUP MENU は3つの層から構成されており、各層の項目は BASIC（基本）メニューと ENHANCED（拡張）メニューに分かれています。BASIC（基本）メニューは通常の操作で必要な項目、ENHANCED（拡張）メニューはより高度な使いかたをするときに必要な項目です。

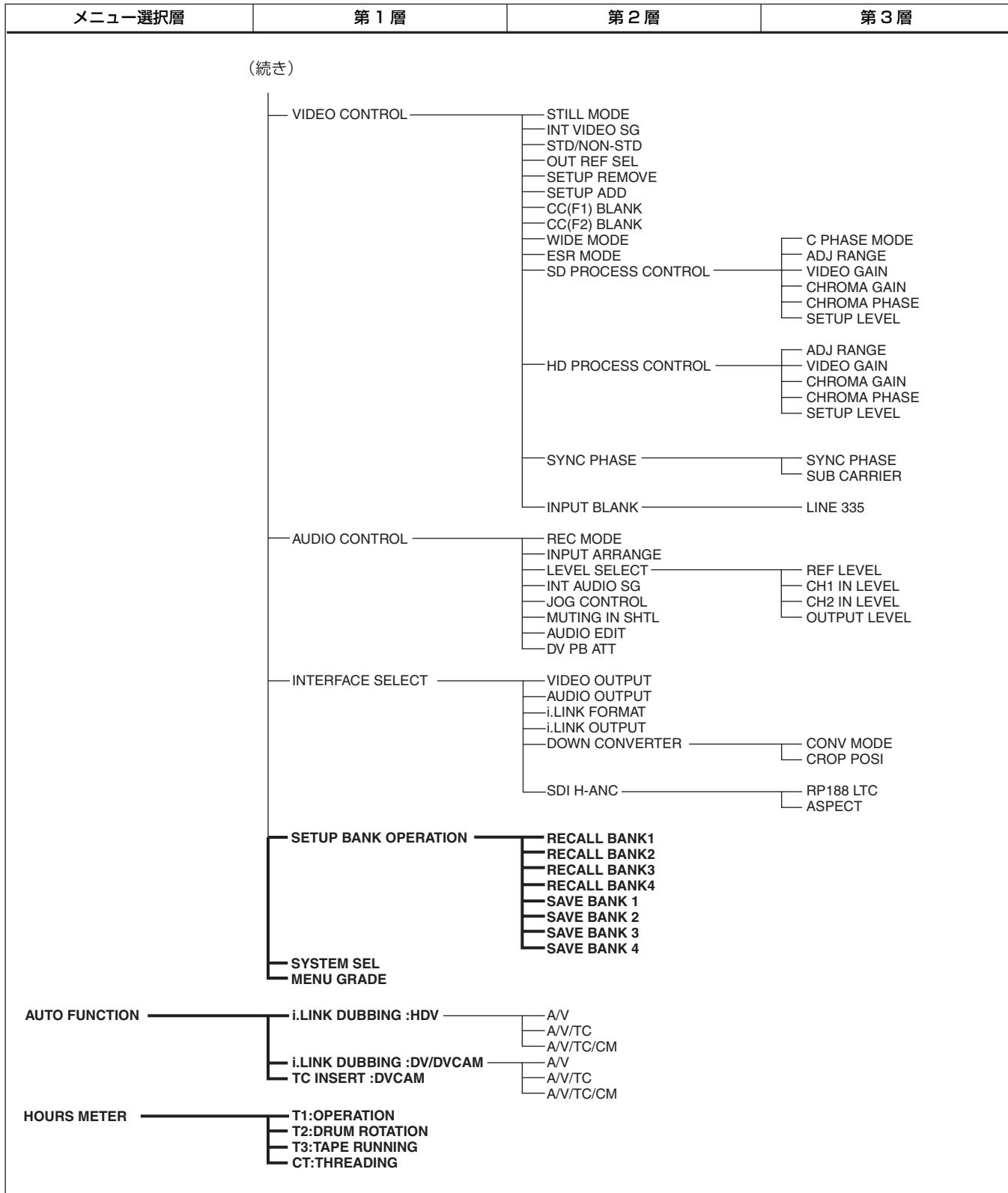
- ◆ ENHANCED（拡張）メニューを表示するには、「ENHANCED（拡張）メニューを表示する」(90 ページ) をご覧ください。

メニューの設定は不揮発性メモリーに記憶されるので、電源を切っても消去されません。

下の図で、太字で示す項目が BASIC (基本項目)、その他  
が ENHANCED (拡張項目) です。

### メニューの階層構造





# メニューの内容

## セットアップメニュー

以下に、セットアップメニューの各項目の目的と設定内容を示します。

### 項目および設定の表示について

「メニューの内容」の表で、モニター画面に表示される項目、設定に続けて [ ] 内に示す文字や記号は、同じ項目、設定のタイムカウンター表示部での表示を表します。

### メニューの内容

OPERATIONAL FUNCTION [Operational] : 本機の動作に関する設定	設定内容	
REPEAT FUNCTION [> REP FUNC] : リピート再生に関する設定を行う。	REPEAT MODE [>> REPEAT MD] : リピート再生するかどうかを選択する。 REPEAT TOP [>> REP TOP] : リピート再生の開始点をテープの初めにするか、または A 点にするかを選択する。 REPEAT END [>> REP END] : リピート再生の終了点をビデオ信号の記録終了点にするか、またはテープの終わりにするか、B 点にするかを選択する。	* OFF [>>> OFF] : リピート再生しない。 ON [>>> ON] : リピート再生する。 ON (FREEZE) [>>> FREEZE] : リピート再生する。(リピート開始点へのキューアップ中は、リピート終了点の静止画を出力する。) * TAPE TOP [>>> Tape top] : 開始点をテープの初めにする。 A POINT [>>> A point] : 開始点を A 点にする。 * VIDEO END [>>> VD end] : 終了点をビデオ信号記録終了点にする。 TAPE END [>>> Tape end] : 終了点をテープの終わりにする。 B POINT [>>> B point] : 終了点を B 点にする。
A PRESET [>> A preset] : A 点の位置をタイムコードで指定する。	◆ 詳しくは、「タイムコードを入力して A 点、B 点を任意に設定するには」(50 ページ) をご覧ください。	
B PRESET [>> B preset] : B 点の位置をタイムコードで指定する。	◆ 詳しくは、「タイムコードを入力して A 点、B 点を任意に設定するには」(50 ページ) をご覧ください。	

### 例 :

モニター画面での表示	タイムカウンター表示部の表示
OPERATIONAL FUNCTION	[Operational]
CASSETTE OUT	[>> Cass. out]
* EE	[>>> EE]

- ・「\*」に続けて示す設定（たとえば「\* EE」）は、工場出荷時の設定を表します。
- ・ タイムカウンター表示部には、現在のメニューの層に応じて、1～3 個の「>」記号が表示されます。下位の層になるほど、「>」の数が増えます。

OPERATIONAL FUNCTION [Operational] : 本機の動作に関する設定		設定内容
AUTO EE SELECT [> Auto EE] : 外部からビデオ信号とオーディオ信号が入力されているとき、EEモードにするか再生モードにするかを選択する。本機をカット編集システムのレコーダーとして使用する場合、EEに設定するとプレーヤーのビデオ信号とオーディオ信号をモニターすることができる。これにより、モニター1台での編集が可能となる。	CASSETTE OUT [>> Cass.out] : カセットを取り出したときの状態  F. FWD/REW [>> F. FWD/REW] : 早送りと巻き戻しのときの状態  STOP [>> STOP] : ストップモードのときの状態  STANDBY OFF [>> STBY OFF] : スタンバイオフのときの状態	* EE [>>> EE] : 外部からのビデオ信号とオーディオ信号を出力する。 PB [>>> PB] : ビデオ信号とオーディオ信号を出力しない。  * EE [>>> EE] : 外部からのビデオ信号とオーディオ信号を出力する。 PB [>>> PB] : 再生モードになり、再生ビデオ信号を出力する。オーディオ信号は出力しない。  EE [>>> EE] : 外部からのビデオ信号とオーディオ信号を出力する。 * PB [>>> PB] : 再生モードになり、静止画が出力される。  EE [>>> EE] : 外部からのビデオ信号とオーディオ信号を出力する。 * PB [>>> PB] : 再生モードになり、静止画が出力される。
LOCAL ENABLE [> Local ENA] : LOCAL/REMOTEスイッチがREMOTEに設定されているときに、本機で操作できるテープ走行コントロールボタン (EJECT/REW/PLAY/F FWD/STOP/REC) を選択する。		ALL DISABLE [>> All DIS] : すべてのテープ走行コントロールボタンが使えない。  * STOP & EJECT [>> STOP&EJ] : STOPとEJECTボタンのみ使える。 ALL ENABLE [>> All ENA] : すべてのテープ走行コントロールボタンが使える。また、プリロールタイムやCNT/タイムコードの切り替えなども本機で行うことができる。
REC FORMAT [> REC format] : 記録フォーマットを選択する。		* DVCAM [>> DVCAM] : DVCAMフォーマット DV (SP) [>> DV (SP)] : DV (SP) フォーマット  <b>ご注意</b> HD VIDEO 入力が選択されているときは、このメニュー設定にかかわらず HDV 記録となります。
ASSIGN KEY [> assign key] : ASSIGNボタンに割り当てるメニュー項目（第1層または第2層の項目）を選択する。項目を割り当てるとその機能をダイレクトに呼び出せる。		◆ ASSIGNボタンに割り当てる可能なメニュー項目について詳しくは、「ASSIGNボタンに機能を割り当てる」(92ページ)をご覧ください。
REC INHIBIT [> REC INH] : テープへの記録を禁止するかどうかを選択する。ONにすると、液晶ディスプレイ（ステータス表示モード）にREC INHIが表示され、テープへの記録ができなくなる。		* OFF [>> OFF] : テープへの記録を禁止しない。 ON [>> ON] : テープへの記録を禁止する。（液晶ディスプレイ（ステータス表示モード）にREC INHIが表示される。）
SEARCH ENABLE [> Search ENA] : 4つの矢印ボタンによるシャトル／ジョグ再生を禁止するかどうかを選択する。		* DISABLE [>> DISABLE] : 禁止する。 ENABLE [>> ENABLE] : 有効にする。
MAX SRCH SPEED [> Max SRCH] : サーチモードと早送り／巻き戻しの最大速度を設定する。	SHUTTLE DV [>> SHUTL DV] : DV/DVCAMフォーマット再生時のサーチモードの最大速度を設定する。	× 60 [>>> × 60] : 最大60倍速。 × 32 [>>> × 32] : 最大32倍速。 × 16 [>>> × 16] : 最大16倍速。
	SHUTTLE HDV [>> SHUTL HDV] : HDVフォーマット再生時のサーチモードの最大速度を設定する。	* × 24 [>>> × 24] : 最大24倍速。 × 8 [>>> × 8] : 最大8倍速。
	F. FWD/REW [>> F. FWD/REW] : 早送り(F.FWD)、巻き戻し(REW)の最大速度を設定する。	MAX [>>> MAX] : 速度制限をしない。 × 85 [>>> × 85] : 最大85倍速 × 60 [>>> × 60] : 最大60倍速 × 32 [>>> × 32] : 最大32倍速  <b>ご注意</b> <ul style="list-style-type: none"><li>MAXに設定すると再生ビデオ信号は出力されません。</li><li>HDVフォーマット再生時のテープ走行スピードは、次のようにになります。 × 85/× 60/× 32選択時：テープ走行スピードは× 24となります。</li></ul>

OPERATIONAL FUNCTION [Operational] : 本機の動作に関する設定	設定内容
PREROLL TIME [> Preroll] : プリロールタイムを設定する。	15 SEC [>>> 15 sec] ~ 0 SEC [>>> 0 sec] : 0 秒から 15 秒まで 1 秒単位で設定可能。 工場出荷時 : * 5 SEC [>>> 5 sec] PVE-500 などの編集機を接続している場合は、この設定は無効になり、編集機の設定に従う。また、プリロールタイムや CNT / タイムコードの切り換えなども編集機で行う。 (本機を使って編集を行う場合は、プリロール時間は 5 秒以上を推奨する。)
AFTER CUE-UP[ > After CUE] : キューアップ終了時の動作モードを選択する。	* STOP [>> STOP] : ストップモードにする。 STILL [>> STILL] : サーチモードにして静止画を出力する。
PLAY START [> PLAY start] : ストップモードから再生モードに移るタイミングを設定する。 PVE-500 などの編集機と編集システムを構成する場合、この設定により VTR 間で再生モードへの移行時間の遅れを合わせることができる。編集時に調相する必要がなくなり、プリロールタイムを短縮できる。	16 FRAME DELAY [>>> 16 delay] ~ 4 FRAME DELAY [>>> 4 delay] : 16 フレームディレイ～4 フレームディレイ（数値が大きいほど遅くなる）。 工場出荷時 : * 5 FRAME DELAY [>>> 5 delay]
AUTO REW [> Auto REW] : テープが最後まで記録 / 再生されたとき、自動的に巻き戻しを行うかどうかを選択する。	DISABLE [>> DISABLE] : 自動巻き戻しを行わない。 * ENABLE [>> ENABLE] : 自動巻き戻しを行う。
A MODE CHANGE [> Aud change] : テープに記録されているオーディオモード（2 チャンネルまたは 4 チャンネル）とは異なるモード（4 チャンネルまたは 2 チャンネル）でオーディオデータを書き換える編集を許可するかどうかを選択する。	* OFF [>> OFF] : 許可しない。 ON [>> ON] : 許可する。
<b>ご注意</b> 下地のオーディオモードをそっくり入れ替える場合に使用します。IN 点、OUT 点では音声がミュートされます。	

DISPLAY CONTROL [Display] : モニター画面と本機のインジケーターに関する設定	設定内容
CHARA. DISPLAY [> Chara disp] : (SUPER) CPST 端子からタイムコードなどの文字情報を出力するかしないかを設定する。	OFF [>> OFF] : 文字情報を出力しない。（ただし、前面パネルの MENU ボタンを押せばメニューは表示される。） * ON [>> ON] : 文字情報を出力する。
CHARA. POSITION [> Chara pos] : (SUPER) CPST 端子からモニター画面に出力する文字の位置を設定する。	• 表示位置を上下に移動するには、↑、↓ ボタンを押す。 • 表示位置を左右に移動するには、←/[A]、→/[B] ボタンを押す。 文字位置設定画面からセットアップメニューの第 1 層に戻るには、MENU ボタンを押す。
CHARA. TYPE [> Chara type] : (SUPER) CPST 端子からモニター画面に出力する文字のタイプを選択する。	モニター画面で文字を見ながら設定する。 * WHITE (WITH BKGD) [>> White] : 黒地に白文字 BLACK (WITH BKGD) [>> Black] : 白地に黒文字 WHITE/OUTLINE [>> W/outline] : 白文字に黒の縁取り BLACK/OUTLINE [>> B/outline] : 黒文字に白の縁取り
CHARA. VSIZE [> Chara size] : (SUPER) CPST 端子からモニター画面に出力するタイムコードなどの文字情報の縦方向の大きさを設定する。	モニター画面を見ながら希望の状態に合わせる。 * × 1 [>> × 1] : 標準 × 2 [>> × 2] : 2 倍

DISPLAY CONTROL [Display] : モニター画面と本機のインジケーターに関する設定	設定内容
DISPLAY INFO [> DISP info] : (SUPER) CPST 端子からモニター画面に出力する文字情報の内容を選択する。	<p>* TIME DATA &amp; STATUS [&gt;&gt; Time&amp;STA] : タイムデータと本機の動作モード</p> <p>TIME DATA &amp; UB [&gt;&gt; Time&amp;UB] : COUNTER SELECT ボタンで選択したタイムデータとユーザービットデータ。ただし、COUNTER SELECT ボタンでユーザービット表示を選択している場合は、ユーザービットデータとタイムコード。</p> <p>TIME DATA &amp; CNT [&gt;&gt; Time&amp;CNT] : COUNTER SELECT ボタンで選択したタイムデータと CNT。ただし、COUNTER SELECT ボタンで CNT 表示を選択している場合は、CNT とタイムコード。</p> <p>TIME DATA &amp; TIME [&gt;&gt; Time&amp;Time] : TC と VITC</p> <p>TIME DATA ONLY [&gt;&gt; Time] : タイムデータのみ</p> <p>REC DATE &amp; TIME [&gt;&gt; REC Date] : タイムカウンター表示部には COUNTER SELECT ボタンで選択したタイムデータ、モニター画面には REC DATE (記録年月日)、REC TIME (記録時間) が表示される。</p>
SUB STATUS [> Sub status] : (SUPER) CPST 端子からモニター画面に出力するサブ情報の内容を選択する。	<p>* OFF [&gt;&gt; OFF] : サブ情報は出力しない。</p> <p>EDIT PRESET [&gt;&gt; Edit pre] : エディティングコントローラによる編集モードの設定内容</p> <p>TC MODE [&gt;&gt; TC mode] : 内蔵タイムコードジェネレーターの動作状態</p> <p>REMAIN [&gt;&gt; Remain] : 分単位のテープ残量</p> <p>AUDIO MIXING [&gt;&gt; Aud Mix] : オーディオ入力信号のミキシング状態</p> <p>ALL [&gt;&gt; ALL] : 上記すべてのサブ情報</p> <p>◆ OFF 以外の設定にしたときにモニター画面に表示される内容については、「サブ情報の表示」(31 ページ) をご覧ください。</p>
MENU DISPLAY [> Menu DISP] : (SUPER) CPST 端子からモニター画面に出力するメニュー文字のタイプを選択する。	<p>モニター画面で文字を見ながら設定する。</p> <p>* WHITE (WITH BKGD) [&gt;&gt; White] : 黒字に白文字</p> <p>BLACK (WITH BKGD) [&gt;&gt; Black] : 白字に黒文字</p> <p>WHITE/OUTLINE [&gt;&gt; W/outline] : 白文字に黒の縁取り</p> <p>BLACK /OUTLINE [&gt;&gt; B/outline] : 黒文字に白の縁取り</p>
PEAK HOLD [> Peak hold] : オーディオレベルメーターのピークホールド時間を設定する。	<p>1.5 SEC [&gt;&gt; 1.5 sec] ~ OFF [&gt;&gt; OFF] (ピークホールドしない) : 0.1 秒毎に設定可能。</p> <p>工場出荷時 : * OFF [&gt;&gt; OFF]</p>
OVER DISP HOLD [> Hold OVER] : オーディオレベルメーターの OVER インジケーターをホールドするかどうかを選択する。	<p>* OFF [&gt;&gt; OFF] : ホールドしない。</p> <p>ON (HOLD) [&gt;&gt; ON] : ホールドする。</p> <p><b>ご注意</b> ON に設定した場合、いったんホールドされた OVER インジケーターを元に戻すには、設定を OFF に戻す必要があります。</p>
LCD [> LCD] : 液晶ディスプレイの画質を調整する。	<p>BACK LIGHT [&gt;&gt; BK Light] : バックライトの明るさを設定する。</p> <p>GAMMA [&gt;&gt; GAMMA] : ガンマ補正カーブの傾きを調整する。</p>
ALARM [> ALARM] : 警告メッセージを表示するかどうかを選択する。	<p>OFF [&gt;&gt; OFF] : 警告メッセージを表示しない。</p> <p>* ON [&gt;&gt; ON] : 警告メッセージを表示する。</p>
REF ALARM [> REF ALARM] : 基準ビデオ信号に関する警告メッセージを表示するかどうかを選択する。	<p>OFF [&gt;&gt; OFF] : 警告メッセージを表示しない。</p> <p>* ON (LIMITED) [&gt;&gt; ON (Limit)] : 記録モード、E-E モード、REC-PAUSE モード、EDIT モード時にのみ警告メッセージを表示する。</p> <p>ON [&gt;&gt; ON] : 警告メッセージを表示する。</p>

TIME CODE [Time code] : タイムコードジェネレーターに関する設定	設定内容
TC MODE [> TC mode] : 内部 / 外部タイムコードおよびプリセット / リジェネレートを切り換える。	<p>* INT PRESET [&gt;&gt; PRESET] : 内蔵タイムコードジェネレーターのタイムコード。操作によって初期値をプリセットすることができる。</p> <p>INT REGEN [&gt;&gt; REGEN] : 内蔵タイムコードジェネレーターのタイムコードを読みとった再生タイムコードに同期する。</p> <p>EXT REGEN [&gt;&gt; EXT] : 外部タイムコード。TC または VITC で以下のように異なる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>TC を選択しているとき : TC IN 端子に入力される外部タイムコード。ただし、SDI 入力を選択している場合はエンベデッド TC に対応するため、同期の優先順位は次のようになる。           <ul style="list-style-type: none"> <li>①SDI 入力にエンベデッドされている LTC (SD-SDI 信号 : RP188、または HD-SDI 信号 : ARIB STD-B4.20 および RP188)</li> <li>②TC IN 端子への入力</li> <li>VITC を選択しているとき : 入力ビデオ信号の VITC タイムコード</li> <li>①SD-SDI 入力選択時 : 映像信号として重畳されている VITC</li> <li>②HD-SDI 入力選択時 : ANC DATA のエンベデッド VITC</li> </ul> </li> </ul>
RUN MODE [> RUN mode] : タイムコードジェネレーターの歩進モードを選択する。	<p>* FREE RUN [&gt;&gt; FREE RUN] : 常に歩進させる。</p> <p>REC RUN [&gt;&gt; REC RUN] : 記録時のみ歩進させる。</p> <p><b>ご注意</b> 編集機を接続して編集を行う場合は、必ず FREE RUN を選択してください。 REC RUN のままでは正しい編集が行われません。</p>
DF MODE [> DF mode] : タイムコードジェネレーターとタイムカウンターをドロップフレーム (DF)、ノンドロップフレーム (NDF) のどちらのモードで動作させるかを選択する。  通常は、実時間と一致する DF を選択し、コンピューターグラフィックなどでフレーム数が重要な場合は NDF を選択してください。	<p>* ON (DF) [&gt;&gt; ON (DF)] : ドロップフレームモードで動作させる。</p> <p>OFF (NDF) [&gt;&gt; OFF (NDF)] : ノンドロップフレームモードで動作させる。</p>
<b>ご注意</b> システム周波数が 60i に設定されているときのみ表示されます。	
TC SELECT [> TC select] : タイムカウンター表示部に表示するタイムコードを TC にするか、VITC にするかを選択する。	<p>VITC [&gt;&gt; VITC] : VITC を表示する。</p> <p>* TC [&gt;&gt; TC] : TC を表示する。</p>
<b>ご注意</b> HDV モード時は設定にかかわらず常に TC が表示されます。	
VITC [> VITC] : 内蔵のタイムコードジェネレーターで発生する VITC を記録するかどうかを選択する。	<p>OFF [&gt;&gt; OFF] : 記録しない、ただし、この場合も入力ビデオに挿入されている VITC はそのまま記録される。</p> <p>* ON [&gt;&gt; ON] : 記録する。</p>
<b>ご注意</b> 記録モードが HDV の場合、この設定は無効です。	
TCG REGEN [> TCG regen] : タイムコードジェネレーターがリジェネレートモードのとき (TC MODE の設定が INT REGEN または EXT REGEN に設定されているとき)、リジェネレートする信号を選択する。	<p>* TC &amp; UB [&gt;&gt; TC &amp; UB] : タイムコード信号、ユーザービット信号ともにリジェネレートする。</p> <p>TC [&gt;&gt; TC] : タイムコード信号のみリジェネレートする。</p> <p>UB [&gt;&gt; UB] : ユーザービット信号のみリジェネレートする。</p>
UB BINARY GP. [> Binary Gp.] : タイムコードジェネレーターのユーザービットバイナリーグループフラグに関する設定を行う。	<p>* 000 : NOT SPECIFIED [&gt;&gt; 000] : キャラクターセットを指定しない。</p> <p>001 : ISO CHARACTER [&gt;&gt; 001] : ISO 646、ISO 2022 に準拠した 8 ピットキャラクター</p> <p>010 : UNASSIGNED-1 [&gt;&gt; 010] : 未定義</p> <p>011 : UNASSIGNED-2 [&gt;&gt; 011] : 未定義</p> <p>100 : UNASSIGNED-3 [&gt;&gt; 100] : 未定義</p> <p>101 : PAGE/LINE [&gt;&gt; 101] : マルチブレックス</p> <p>110 : UNASSIGNED-4 [&gt;&gt; 110] : 未定義</p> <p>111 : UNASSIGNED-5 [&gt;&gt; 111] : 未定義</p>
<b>ご注意</b> メニューの TC MODE が EXT REGEN に設定されている場合は、外部タイムコードのユーザービットバイナリーフラグに従います。	

TIME CODE [Time code] : タイムコードジェネレーターに関する設定	設定内容
VITC POS SEL-1 [> VITC pos-1] : VITC 信号を何ラインに挿入するかを選択する。	<p><b>20 LINE [&gt;&gt; 20 line] ~ 12 LINE [&gt;&gt; 12 line]</b> : 12 ラインから 20 ラインのいずれかを選択可能。  <b>工場出荷時 : * 16 LINE [&gt;&gt; 16 line]</b></p> <p><b>ご注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• VITC 信号は 2 か所に挿入することができます。2 か所に挿入するときは、VITC POS SEL-1 と VITC POS SEL-2 をそれぞれ設定してください。</li> <li>• システム周波数が 50i に設定されている場合、設定値は次のようにになります。  <b>9 LINE [&gt;&gt; 9 line] ~ 22 LINE [&gt;&gt; 22 line]</b> : 9 ラインから 22 ラインのいずれかを選択可能。  <b>工場出荷時 : * 19 LINE [&gt;&gt; 19 line]</b></li> </ul>
VITC POS SEL-2 [> VITC pos-2] : VITC 信号を何ラインに挿入するかを選択する。	<p><b>20 LINE [&gt;&gt; 20 line] ~ 12 LINE [&gt;&gt; 12 line]</b> : 12 ラインから 20 ラインのいずれかを選択可能。  <b>工場出荷時 : * 18 LINE [&gt;&gt; 18 line]</b></p> <p><b>ご注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• VITC 信号は 2 か所に挿入することができます。2 か所に挿入するときは、VITC POS SEL-1 と VITC POS SEL-2 をそれぞれ設定してください。</li> <li>• システム周波数が 50i に設定されている場合、設定値は次のようにになります。  <b>9 LINE [&gt;&gt; 9 line] ~ 22 LINE [&gt;&gt; 22 line]</b> : 9 ラインから 22 ラインのいずれかを選択可能。  <b>工場出荷時 : * 21 LINE [&gt;&gt; 21 line]</b></li> </ul>
VITC OUTPUT [> VITC out] : VITC 信号として出力するタイムコードを選択する。	<p><b>OFF [&gt;&gt; OFF]</b> : VITC を出力しない。  <b>TC [&gt;&gt; TC]</b> : TC を VITC に変換して出力する。  <b>* VITC [&gt;&gt; VITC]</b> : VITC を出力する。</p>
EE OUT PHASE [> EE out] : タイムコードの記録時、または STOP REC (強制 E-E モード) 時に TC OUT 端子から出力する LTC 信号の位相を制御する。	<p><b>* NO OUTPUT [&gt;&gt; NO OUT]</b> : タイムコードを出力しない。  <b>THROUGH [&gt;&gt; through]</b> : TC IN 端子に入力されたタイムコードをそのまま出力する。  <b>VIDEO INPUT PHASE [&gt;&gt; V input]</b> : ビデオの入力位相に合わせて LTC を出力する。ビデオ入力をブリッジ接続する場合はこのモードに設定する。  <b>VIDEO OUTPUT PHASE [&gt;&gt; V output]</b> : ビデオの出力位相に合わせて LTC を出力する。ビデオ出力からビデオ入力にブリッジ接続する場合はこのモードに設定する。</p>
MUTING IN SRCH [> Muting] : サーチ (ジョグ / シャトル) モードのとき、TC OUT 端子からタイムコードを出力するかどうかを選択する。	<p><b>OFF [&gt;&gt; OFF]</b> : 出力しない。  <b>* ON [&gt;&gt; ON]</b> : 出力する。</p>

TAPE PROTECTION [Tape protct] : テープの保護に関する設定	設定内容
FROM STOP [> From STOP] : ビデオヘッドとビデオテープ保護のため、ストップモードからテープ保護モードに移るまでの時間を設定する。	<p><b>STOP TIMER [&gt;&gt; STP timer]</b> : ストップモードからテープ保護モードに移るまでの時間。</p> <p><b>0.5 SEC [&gt;&gt;&gt; 0.5 sec] ~ 5 MIN [&gt;&gt;&gt; 5 min]</b> : 0.5 秒から 5 分まで 12 段階に設定可能  <b>工場出荷時 : * 1 MIN [&gt;&gt; 1 min]</b></p> <p><b>ご注意</b></p> <p>1 分以上に設定すると、1 分で内部保護モードに入るため、立ち上がりが遅くなります。</p>

TAPE PROTECTION [Tape protct] : テープの保護に関する設定		設定内容
FROM STILL [> From STILL] : ビデオヘッドとテープ保護のため、サーチモードのうちの静止画モードからテープ保護モードに移行するまでの時間とテープ保護モードを設定する。	STILL TIMER [>> STL timer] : サーチモードのうちの静止画モードからテープ保護モードに移るまでの時間。	<p>0.5 SEC [&gt;&gt;&gt; 0.5 sec] ~ 5 MIN [&gt;&gt;&gt; 5 min]) : 0.5 秒から 5 分まで 12 段階に設定可能</p> <p>工場出荷時 : * 1 MIN [&gt;&gt; 1 min]</p> <p><b>ご注意</b></p> <p>1 分以上に設定すると、1 分で内部保護モードに入るため、立ち上がりが遅くなります。</p>
	NEXT MODE [>> Next mode] : 静止画モードから、STILL TIMER で設定した時間が経過した後に本機に入るテープ保護モード。	<p>* STEP FWD [&gt;&gt;&gt; Step] : 1/30 倍速で約 2 秒間、順方向にステップ送りを行う。</p> <p>STANDBY OFF [&gt;&gt;&gt; STANDBY] : スタンバイオフモード（スタンバイが解除された状態）になる。</p> <p><b>ご注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>STEP FWD の設定は、STILL TIMER を 1 分未満に設定した場合にのみ有効になります。</li> <li>HDV フォーマットでの使用時は、設定は STANDBY OFF に固定されます。</li> </ul>

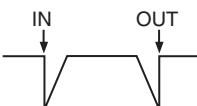
VIDEO CONTROL [Video] : ビデオコントロールに関する設定		設定内容
STILL MODE [> STILL mod] : 静止画モード時に出力する画像を選択する。		<p>* AUTO [&gt;&gt; Auto] : 静止画像としてフィールド 1 およびフィールド 2 を停止場所に応じて表示する。</p> <p>FRAME [&gt;&gt; Frame] : 静止画像としてフレーム画像を表示する。</p> <p>FIELD 1 [&gt;&gt; Field 1] : 静止画像として常にフィールド 1 のみを表示する。</p> <p>FIELD 2 [&gt;&gt; Field 2] : 静止画像として常にフィールド 2 のみを表示する。</p> <p><b>ご注意</b></p> <p>HDV フォーマットでの使用時は、設定は FIELD 2 に固定されます。</p>
INT VIDEO SG [> Video SG] : INPUT SELECT ボタンで、ビデオ入力を SG に設定したときのテスト信号を選択する。		<p>* 75% COLOR BARS [&gt;&gt; 75% bar] : 75% カラーバー信号</p> <p>100% COLOR BARS [&gt;&gt; 100% bar] : 100% カラーバー信号</p> <p>BLACK BURST [&gt;&gt; BB] : ブラックバースト信号</p> <p><b>ご注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HD ビデオ入力を SG に設定した場合は、75% COLOR BARS または 100% COLOR BARS のどちらを選択しても 100% COLOR BARS (100% カラーバー信号) が表示されます。</li> <li>SD ビデオ入力を SG に設定した場合は、100% COLOR BARS は、システム周波数が 50i に設定されているときにのみ表示されます。</li> </ul>
STD/NON-STD [> STD/N-STD] : コンポジットまたは S ビデオ入力信号に合わせて STD または NON-STD を選択する。		<p>* FORCED STD [&gt;&gt; STD] : 常に STD モードで使用する場合はこのモードに設定する (強制 STD)。</p> <p>FORCED NON-STD [&gt;&gt; NON-STD] : 入力ビデオ信号が不安定な場合はこのモードに設定する (強制 NON-STD)。</p>
OUT REF SEL [> Out Ref] : VIDEO IN 端子と REF. VIDEO IN 端子の両方に信号が入力されていて、EDIT モードで再生する場合に、どちらを基準信号にするかを設定する。		<p>* REF VIDEO [&gt;&gt; REF] : REF.VIDEO IN (SD/HD) 端子に入力される信号を基準信号とする。編集を実行するには、入力される信号がこの基準信号に同期していることが必要になる。</p> <p>INPUT VIDEO [&gt;&gt; INPUT] : 入力ビデオ信号を基準信号とする。</p>
SETUP REMOVE [> Setup rmv] : アナログビデオ入力信号をデジタル信号に変換するとき、セットアップ (7.5 IRE) を除去するかしないかを選択する。		<p>* OFF [&gt;&gt; OFF] : セットアップを除去しない。</p> <p>ON (REMOVE) [&gt;&gt; ON] : セットアップを除去する。</p> <p><b>ご注意</b></p> <p>システム周波数が 60i に設定されているときにのみ表示されます。</p>
SETUP ADD [> Setup add] : アナログビデオ出力信号にセットアップを付加するかしないかを選択する。		<p>* OFF [&gt;&gt; OFF] : セットアップを付加しない。</p> <p>ON (ADD) [&gt;&gt; ON] : セットアップを付加する。</p> <p><b>ご注意</b></p> <p>システム周波数が 60i に設定されているときにのみ表示されます。</p>
CC (F1) BLANK [> CC1 blank] : ビデオ出力信号の第 1 フィールドに重畳するクローズドキャプション信号を出力するかどうかを設定する。		<p>* OFF [&gt;&gt; OFF] : 出力する。</p> <p>ON [&gt;&gt; ON] : 出力しない。</p> <p><b>ご注意</b></p> <p>システム周波数が 60i に設定されているときにのみ表示されます。</p>

VIDEO CONTROL [Video] : ビデオコントロールに関する設定		設定内容
CC (F2) BLANK [> CC2 blank] : ビデオ出力信号の第2フィールドに重畠するクローズドキャプション信号を出力するかどうかを設定する。		* OFF [>> OFF] : 出力する。 ON [>> ON] : 出力しない。 <b>ご注意</b> システム周波数が 60i に設定されているときにのみ表示されます。
WIDE MODE [> Wide mode] : ワイド画像情報を付加した記録 / 再生を行うかどうかを選択する。		* AUTO [>> Auto] : 選択されている入力ビデオ信号または再生しているテープからワイド情報を検出したときに、自動的にワイド信号を付加する。 OFF [>> OFF] : ワイド画像に対応しない。 ON [>> ON] : 常にワイド信号を付加する。
ESR MODE [> ESR mode] : エッジサブキャリアリダクション (ESR) を動作させるかどうかを選択する。		* OFF [>> OFF] : ESR を動作させない。 ON [>> ON] : ESR を動作させる。 コンポジット信号を記録したテープを再生するときは ON に設定してください。
SD PROCESS CONTROL [> SD Process]	C PHASE MODE [>> C Phas MD] : クロマ位相コントロールの位相回転基準を設定する。コンポジット、S ビデオ、SDI、コンポーネントのすべての出力レベルが、この項目の設定に従って同時に変化する。	* U/V (COMPOSITE) [>>> Cmpst] : 本機のコンポジット出力レベルをコンポジットベクトルスコープで観測する。 PB/PR (COMPONENT) [>>> Cmpnt] : 本機のコンポーネント出力レベルをコンポーネントベクトルスコープで観測する。
	ADJ RANGE [>> Adj range] : VIDEO ゲイン、CHROMA ゲインの可変範囲を選択する。	* -3 to +3 (dB) [>>> -3/+3] : -3 ~ +3dB WIDE [>>> wide] : -∞ ~ +3dB
	VIDEO GAIN [>> V gain] : 映像出力レベルをコントロールする。	000 [>>> 000] ~ 3FF [>>> 3FF] 工場出荷時 : * 200H
	CHROMA GAIN [>> C gain] : クロマ出力レベルをコントロールする。	000 [>>> 000] ~ 3FF [>>> 3FF] 工場出荷時 : * 200H
	CHROMA PHASE [>> C phase] : クロマ位相をコントロールする。	00 [>>> 00] ~ FF [>>> FF] 工場出荷時 : * 80H
	SETUP LEVEL [>> Setup lev] : セットアップレベルをコントロールする。	000 [>>> 000] ~ 3FF [>>> 3FF] 工場出荷時 : * 200H
HD PROCESS CONTROL [> HD Process]	ADJ RANGE [>> Adj range] : ビデオゲイン、クロマゲインの可変範囲を選択する。	* -3 to +3 (dB) [>>> -3/+3] : -3 ~ +3dB WIDE [>>> wide] : -∞ ~ +3dB
	VIDEO GAIN [>> V gain] : 映像出力レベルをコントロールする。	000 [>>> 000] ~ 3FF [>>> 3FF] 工場出荷時 : * 200H
	CHROMA GAIN [>> C gain] : クロマ出力レベルをコントロールする。	000 [>>> 000] ~ 3FF [>>> 3FF] 工場出荷時 : * 200H
	CHROMA PHASE [>> C phase] : クロマ位相をコントロールする。	00 [>>> 00] ~ FF [>>> FF] 工場出荷時 : * 80H
	SETUP LEVEL [>> Setup lev] : セットアップレベルをコントロールする。	000 [>>> 000] ~ 3FF [>>> 3FF] 工場出荷時 : * 200H

VIDEO CONTROL [Video] : ビデオコントロールに関する設定		設定内容
SYNC PHASE [> Sync Phase] : シンク位相を調整する。	SYNC PHASE [>> Sync phs] : SYNC+SC の位相をコントロールする。	000 [>>> 000] ~ 3FF [>>> 3FF] 工場出荷時：*工場での調整値または、200H
	SUB CARRIER [>> SC phase] : サブキャリアの位相をコントロールする。	000 [>>> 000] ~ 3FF [>>> 3FF] 工場出荷時：*工場での調整値または、200H
INPUT BLANK [> Input blank]  <b>ご注意</b> システム周波数が 50i に設定されているときにのみ表示されます。	LINE 335 [>> Line 335] : Line 335 を出力しないか、映像信号として扱って出力するかを設定する。	* BLANK [>>> blank] : 出力しない。 THROUGH [>>> through] : 映像信号として出力する。

AUDIO CONTROL [Audio] : オーディオコントロールに関する設定		設定内容
REC MODE [> REC mode] : オーディオ記録モードを設定する。		* 2 CHANNEL (48kHz) [>> 2 ch] : 2 チャンネル、48kHz モード 4 CHANNEL (32kHz) [>> 4 ch] : 4 チャンネル、32kHz モード
INPUT ARRANGE [> Input arng] : オーディオ入力信号のミキシングを設定する。  <b>ご注意</b> <ul style="list-style-type: none"><li>• オーディオモードが4チャンネルでCH-1/2とCH-3/4にアナログを選択した場合、CH-1/3, CH-2/4には同じアナログオーディオ信号が記録されます。 (前面パネルの VARIABLE スイッチを REC 側にして REC/PB LEVEL つまみの調整で異なるレベルで記録することもできます。)</li><li>• iLINK (HDV) 入力選択時は、この設定は無効です。</li></ul>		<p>入力信号を記録したいチャンネルを設定する</p> <p>(1) <b>↑ ↓ ← / [A] → / [B]</b> ボタンを押して希望の位置にカーソルを合わせてから、SET (YES) ボタンを押す。</p> <p>(2) 設定を保存するには、MENU ボタンを押して前の画面に戻り、SET (YES) ボタンを押す。</p> <p>設定例：</p> <pre> AUDIO INPUT SOURCE ARRANGE in1 in2 in3 in4 ch1 : *on ch2:   on ch3:   on ch4:   on ON/OFF : SET KEY TO MENU : MENU KEY </pre> <p>① 入力の CH1 をテープの CH1 に記録する。  ② 入力の CH2 と入力の CH4 をミックスしてテープの CH2 に記録する。  ③ 入力の CH4 をテープの CH3 に記録する。  ④ 入力の CH3 をテープの CH4 に記録する。</p>

AUDIO CONTROL [Audio] : オーディオコントロールに関する設定		設定内容
LEVEL SELECT [> Level Sel]	REF LEVEL [>> REF Level] : テープに記録するオーディオの基準レベル（ヘッドルーム）を設定する。	* -20dB [>>> -20dB] : -20dB に設定する。 -18dB [>>> -18dB] : -18dB に設定する。 -16dB [>>> -16dB] : -16dB に設定する。 -12dB [>>> -12dB] : -12dB に設定する。 <b>ご注意</b> <ul style="list-style-type: none"><li>記録フォーマットの設定が DV に設定されているときは、-12dB に固定されます。</li><li>システム周波数の設定が 50i の場合、工場出荷時の設定値は、-18dB になっています。</li></ul>
	CH1 IN LEVEL [>> CH1 input] : AUDIO IN 1/3 端子へ入力するオーディオのレベルに応じて設定する。	* +4dB [>>> +4dB] : +4dB に設定する。 0dB [>>> 0dB] : 0dB に設定する。 -3dB [>>> -3dB] : -3dB に設定する。 -6dB [>>> -6dB] : -6dB に設定する。 <b>ご注意</b> -3dB は、システム周波数が 50i に設定されているときのみ表示されます。
	CH2 IN LEVEL [>> CH2 input] : AUDIO IN 2/4 端子へ入力するオーディオのレベルに応じて設定する。	* +4dB [>>> +4dB] : +4dB に設定する。 0dB [>>> 0dB] : 0dB に設定する。 -3dB [>>> -3dB] : -3dB に設定する。 -6dB [>>> -6dB] : -6dB に設定する。 <b>ご注意</b> -3dB は、システム周波数が 50i に設定されているときのみ表示されます。
	OUTPUT LEVEL [>> Out Level] : アナログオーディオ出力信号の基準レベルを設定する。	* +4dB [>>> +4dB] : +4dB に設定する。 0dB [>>> 0dB] : 0dB に設定する。 -3dB [>>> -3dB] : -3dB に設定する。 -6dB [>>> -6dB] : -6dB に設定する。 <b>ご注意</b> -3dB は、システム周波数が 50i に設定されているときのみ表示されます。
INT AUDIO SG [> Audio SG] : 内蔵のオーディオテスト信号発生器の動作を選択する。	SILENCE [>> silence] : 無音信号。 * 1kHz SINE [>> 1kHz] : 1kHz、-20dB FS の正弦波。 前面パネルの入力選択部でオーディオ入力に SG を選択すると、内蔵オーディオテスト信号発生器からのテスト信号が入力される。	
JOG CONTROL [> Jog ctrl] : スロー再生時にスピード補正をするかどうかを選択する。	OFF [>> OFF] : スピード補正しない。 * ON [>> ON] : スピード補正する。	
<b>ご注意</b> HDV フォーマット再生時は、この設定は無効です。		
MUTING IN SHTL [> Shutl mute] : シャトル再生時のオーディオのミュート条件を設定する。	* OFF [>> OFF] : ミュートしない。 CUEUP or PREROLL [>> CUEUP] : キューアップまたはプリロール時にミュートする。 FULL [>> FULL] : シャトルモード時はミュートする。	
<b>ご注意</b> HDV フォーマット再生時は、この設定は無効です。		
AUDIO EDIT [> Audio edit] : オーディオ編集時の音声のつなぎかたを選択する。	* CUT EDIT [>> Cut edit] : カット編集（編集部分で音声が不連続になり、再生時にノイズとなることがある。） FADE IN/OUT [>> Fade] : フェードイン、フェードアウト	
<b>ご注意</b> HDV フォーマット時は、この設定は無効です。		
DV PB ATT [> DV PB ATT] : 家庭用 DV フォーマットで記録されたテープを再生するとき、オーディオ出力レベルをアンテネート（低減）するか、しないかを選択する。	OFF [>> OFF] : アンテネートしない。 * ON [>> ON] : アンテネートする。	
	<b>ご注意</b> 記録フォーマットの設定が DVCAM のときのみ有効です。DV (SP) のときは、無効です。	



INTERFACE SELECT [Interface] : インターフェースの選択に関する操作	設定内容
VIDEO OUTPUT [> Video Out] : VIDEO OUT の 3 個の BNC 端子に出力する信号フォーマットを選択する。	* COMPOSITE&S-VIDEO [>> Compst&S] : S-Y、S-C 出力とコンポジット出力にする。 COMPONENT (SD) [>> Compnt SD] : コンポーネント Y/R-Y/B-Y (SD) 出力にする。 COMPONENT (HD) [>> Compnt HD] : コンポーネント Y/Pr/Pb (HD) 出力にする。
AUDIO OUTPUT [> Audio Out] : AUDIO OUT 1/3、2/4 端子に outputするチャンネルを選択する。	* 1/2 CH [>> 1/2CH] : 1/3 端子に CH-1、2/4 端子に CH-2 を出力する。 3/4 CH [>> 3/4CH] : 1/3 端子に CH-3、2/4 端子に CH-4 を出力する。
iLINK FORMAT [> i.Link Fmt] : iLINK 出力フォーマットを自動判別にするか、iLINK 入力の選択に応じて切り換えるかを選択する。  <b>ご注意</b> HDV と DV/DVCAM では iLINK ストリームが異なるため、切り替わり時に iLINK インターフェースでバスリセットが発生し、接続するノンリニア編集機によっては支障となる場合があります。このような場合は、本項目で iLINK INPUT を選択し、お使いになるフォーマットに合わせて iLINK 入力を選択してください。	* AUTO [>> AUTO] : iLINK 出力フォーマットを次のように自動判別する。 再生時 : テープに記録されているフォーマットに応じて、DV/DVCAM と HDV が自動的に切り替わる。 記録および E-E モード時 : iLINK 入力が HDV の場合は HDV フォーマット、他のフォーマットを選択している場合は DV/DVCAM フォーマットになる。 iLINK INPUT [>> i.Link in] : iLINK 入力の選択に応じて、iLINK 出力フォーマットを次のように切り換える。 iLINK (DV/DVCAM) 入力選択時 : DV/DVCAM フォーマットに固定。HDV テープ再生時は、DV の記録フォーマット設定に応じて、DV または DVCAM に変換された出力になる(メニュー項目 iLINK OUTPUT の設定は無効)。 iLINK (HDV) 入力選択時 : iLINK 出力を HDV 信号に固定する。  <b>ご注意</b> iLINK 以外の入力選択時は AUTO の場合と同様に、テープに記録されているフォーマットおよびメニュー項目 iLINK OUTPUT の設定に応じて、再生時のフォーマットは DV/DVCAM と HDV で自動的に切り替わります。
iLINK OUTPUT [> i.Link Out] : HDV フォーマットで記録されたテープの再生時に、HDV/DV 端子から出力するフォーマットを設定する。  <b>ご注意</b> 設定を変更する前に、iLINK ケーブルを抜くか接続機器の電源を OFF にしてください。	* HDV [>> HDV] : HDV フォーマットで出力する。 DV (SP) [>> DV (SP)] : ダウンコンバートして DV フォーマットで出力する。 DVCAM [>> DVCAM] : ダウンコンバートして DVCAM フォーマットで出力する。
DOWN CONVERTER [> Down Conv] : HDV のダウンコンバート時のアスペクト変換モードを選択する。	CONV MODE [>> D-Con Mod] : 変換モードを選択する。 EDGE-CROP [>> Edge Crp] : エッジクロップモードを選択する。 SQUEEZE [>> Squeeze] : スクイーズモードを選択する。  CROP POSI [>> Crop Posi] : クロップポジションをコントロールする。 O [>> O] ~ B4 [>> B4] 工場出荷時 : * 5A
SDI H-ANC [> SDI H-ANC] : SDSDI 出力の補助データパケットに、RP188 LTC およびアスペクト比のデータを付加して出力するかどうかを選択する。	RPI88 LTC [>> RPI88 LTC] : RP188 タイムコード OFF [>>> OFF] : LTC 信号を重畠しない。 * ON [>>> ON] : LTC 信号を重畠して出力する。  ASPECT [>> ASPECT] : アスペクト比のデータ OFF [>>> OFF] : アスペクト比のデータを重畠しない。 * ON [>>> ON] : アスペクト比のデータを重畠して出力する。

SYSTEM SEL [System Sel] : システム選択に関する操作	設定内容
使用するシステム周波数を選択する。	<p>59.94i (UC) [&gt; 59.94i UC] : 日本以外の NTSC 地域向け      * 59.94i (J) [&gt; 59.94i J] : 日本国内向け      50i (PAL) [&gt; 50i PAL] : PAL 地域向け</p> <p><b>ご注意</b>      設定を変更したときは、POWER スイッチを押していったん電源を切り、再度スイッチを押して可動状態にしてください。ここで行った設定に対応してセットアップメニュー全体の初期設定状態が変更されます。</p>

SETUP BANK OPERATION [Setup Bank] : メニューバンクの操作	設定内容
メニューバンク : 4 種類までのメニューの設定をメニューバンク 1 ~ 4 のそれぞれに保存しておくことができる。	
RECALL BANK 1 [> Recall 1] : メニューバンク 1 をカレントメニューの設定として呼び出す。	以下の手順で操作する。 (1) 呼び出したいメニューバンクを選択してから、➡/[B] ボタンを押す。 「RECALL OK?」のメッセージが表示されます。
RECALL BANK 2 [> Recall 2] : メニューバンク 2 をカレントメニューの設定として呼び出す。	(2) 呼び出しを実行する場合は、SET (YES) ボタンを押す。 呼び出しを中止する場合は、RESET (NO) ボタンを押す。
RECALL BANK 3 [> Recall 3] : メニューバンク 3 をカレントメニューの設定として呼び出す。	
RECALL BANK 4 [> Recall 4] : メニューバンク 4 をカレントメニューの設定として呼び出す。	
SAVE BANK 1 [> Save 1] : カレントメニューの設定をメニュー バンク 1 に保存する。	以下の手順で操作する。 (1) 保存したいメニューバンクを選択してから、➡/[B] ボタンを押す。 「SAVE OK?」のメッセージが表示されます。
SAVE BANK 2 [> Save 2] : カレントメニューの設定をメニュー バンク 2 に保存する。	(2) 保存を実行する場合は、SET (YES) ボタンを押す。 保存を中止する場合は、RESET (NO) ボタンを押す。
SAVE BANK 3 [> Save 3] : カレントメニューの設定をメニュー バンク 3 に保存する。	
SAVE BANK 4 [> Save 4] : カレントメニューの設定をメニュー バンク 4 に保存する。	

MENU GRADE [Menu grade] : 表示させるメニュー項目の選択	設定内容
メニュー操作時、モニター画面とタイムカウンター表示部に基本項目のみを表示させるか、拡張項目も表示させるかを選択する。	* BASIC [>> Basic] : 基本項目のみを表示する。 ENHANCED [>> Enhanced] : 基本項目に加え、拡張項目も表示させる。

## 自動モード (AUTO FUNCTION) 実行メニュー

以下に自動モード実行メニューの各項目の目的と動作内容を示します。

- ◆ 各メニュー項目の使いかたについて詳しくは、「HDV/DVCAM/DV フォーマットの信号をデジタルダビングする」(67 ページ) と「タイムコードを記録し直す—TC インサート機能 (DVCAM フォーマットのみ)」(70 ページ) をご覧ください。

### メニューの内容

i.LINK DUBBING : HDV [i.LINK DUB] : i.LINK ダビングの実行	設定内容
i.LINK インターフェースを介して HDV フォーマットでダビングを行うときの、ダビング内容を選択する。	<p>A/V [&gt; A/V] : オーディオおよびビデオ信号をダビングする。            A/V/TC [&gt; A/V/TC] : オーディオおよびビデオ信号、タイムコードをダビングする。            A/V/TC/CM [&gt; A/V/TC/CM] : オーディオおよびビデオ信号、タイムコード、カセットメモリーの内容をダビングする。</p> <p><b>ご注意</b>            ダビングしようとするソーステープ上に、システム周波や記録フォーマットが異なる信号が存在する場合、ダビングは正しく行われないことがあります。</p>

i.LINK DUBBING : DV/DVCAM [iLINK DUB] : iLINK ダビングの実行	設定内容
<p>iLINK インターフェースを介して DV/ DVCAM フォーマットでダビングを行うときの、ダビング内容を選択する。</p> <p><b>ご注意</b> ダビングしようとするソーステープ上に、システム周波や記録フォーマットが異なる信号が存在する場合、ダビングは正しく行われないことがあります。</p>	<p>A/V [&gt; A/V] : オーディオおよびビデオ信号をダビングする。  A/V/TC [&gt; A/V/TC] : オーディオおよびビデオ信号、タイムコードをダビングする。  A/V/TC/CM [&gt; A/V/TC/CM] : オーディオおよびビデオ信号、タイムコード、カセットメモリーの内容をダビングする。</p> <p><b>ご注意</b> A/V を選択した場合、タイムコードは、メニュー項目 TIME CODE (80 ページ参照) の設定内容に従って記録されます。</p>

TC INSERT : DVCAM [TC insert] : タイムコードの書き換えの実行	設定内容
任意に設定した値から開始するタイムコードに書き換える。	<p><b>ご注意</b> 記録フォーマットが DVCAM の場合のみ実行できます。</p>

# メニューの設定を変更する

以下に、メニューの設定を変更するための操作方法を説明します。

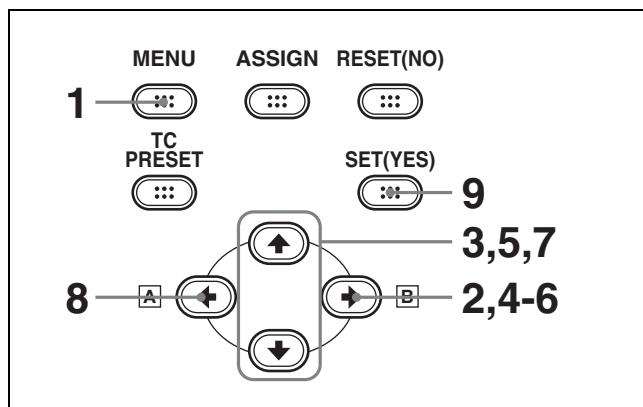
## 設定変更に使用するボタン

メニューの設定変更操作には、前面パネルにある次のボタンを使います。

メニュー操作ボタン	働き
MENU ボタン	<ul style="list-style-type: none"><li>メニューを開いて、メニュー設定モードに入る。</li><li>メニューを閉じて、メニュー設定モードを終了する。</li></ul>
↑、↓ ボタン	1つの層の中で反転カーソルを上下に移動して、項目や設定を選ぶ。押したままにすると、反転カーソルが移動し続ける。
←/ [A]、→/ [B] ボタン	<ul style="list-style-type: none"><li>→/ [B] ボタンで下層に移動する。</li><li>←/ [A] ボタンで上層に移動する。</li></ul> 押したままにすると、反転カーソルが移動し続ける。
RESET (NO) ボタン	<ul style="list-style-type: none"><li>設定を工場出荷時の状態に戻す。</li><li>モニター画面に表示される質問に、NOと答える。</li></ul>
SET (YES) ボタン	<ul style="list-style-type: none"><li>変更後の設定をメモリーに保存する。</li><li>モニター画面に表示される質問に、YESと答える。</li></ul>

## BASIC (基本) メニューの設定を変更する

工場出荷時は、BASIC (基本) メニューだけが表示されるように設定されています。BASIC (基本) メニューを変更するには、次のように操作します。

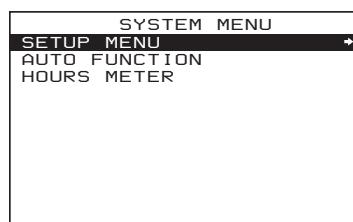


1 MENU ボタンを押す。

モニター画面にメニュー選択層が表示されます。

下図の例では、SETUP MENU (セットアップメニュー) が選択 (反転表示) されています。

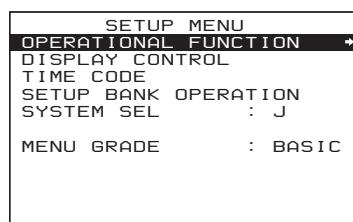
本機のタイムカウンター表示部には、選択されている項目のみが表示されます。項目名が長い場合は省略形で表示されます。



モニター画面

2 SETUP MENU が反転表示された状態で、→/ [B] ボタンを押す。

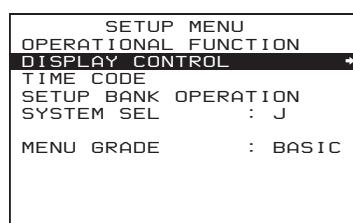
セットアップメニューの第1層にある基本項目がすべて表示されます。



モニター画面

3 ↑ ボタンまたは ↓ ボタンを押して、希望の項目を選択する。

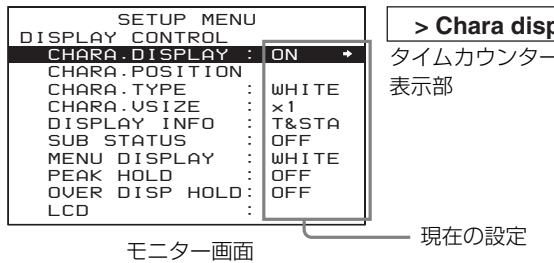
ここでは、DISPLAY CONTROL を選択した場合の手順を説明します。



モニター画面

4 →/ [B] ボタンを押す。

手順 3 で選択したメニュー項目の第2層が表示されます。



**5** ↑ボタンまたは↓ボタンを押して、設定を変更する項目を選択する。

メニューが第3層まである場合は、➡/〔B〕ボタンを押して第3層へ進んでから、設定変更する項目を↓ボタンまたは↑ボタンで選択する。

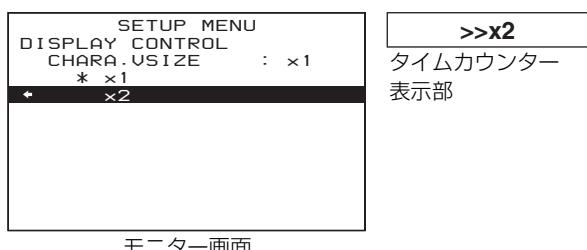


**6** ➡/〔B〕ボタンを押す。

手順5で選択した項目のすべての設定が表示されます。



**7** ↓ボタンまたは↑ボタンを押して、設定を変更する。



**8** さらに設定変更したい項目がある場合は、⬅/〔A〕ボタンを押して前の画面に戻り、手順5～7を繰り返す。

**9** すべての項目の設定変更が終わったら、SET (YES) ボタンを押す。

モニター画面には「NOW SAVING...」、タイムカウンター表示部には「Saving...」と表示され、変更した設定が本機のメモリーに保存されます。

保存が終了すると、モニター画面とタイムカウンター表示部の表示は通常の状態に戻ります。

#### ご注意

- 保存中に本機の電源を切ると、設定データが失われることがあります。保存が完了するまで、電源を切らないでください。
- SET (YES) ボタンを押さずにMENUボタンを押すと、新しい設定は保存されません。モニター画面に「ABORT!」が、タイムカウンター表示部には「Abort!」が、それぞれ0.5秒間表示され、メニューは強制終了されます。複数の項目の設定を変更する場合は、すべての設定変更を終了した後に、必ずSET (YES) ボタンを押してください。

### モニター画面の表示の意味

表示	意味
画面右端に表示される ⇒ (89ページの手順1参照)	➡/〔B〕ボタンを押すことにより、1つ下の層のメニュー画面または設定選択画面に進める。
画面左端に表示される ⇌ (89ページの手順4参照)	⬅/〔A〕ボタンを押すことにより、1つ前の(1つ上の層の)メニュー画面に戻れる。
項目名の右側に表示される文字列	そのメニューの項目の現在の設定 「:」が付いているとき：現在の設定が工場出荷時の設定と同じ (89ページの手順4参照) 「・」が付いているとき：現在の設定が工場出荷時の設定と異なる (「ENHANCED メニュー（拡張）の設定を変更する」の手順2参照)
選択した項目のすべての設定が表示されているときの「*」 (90ページの手順6参照)	工場出荷時の設定

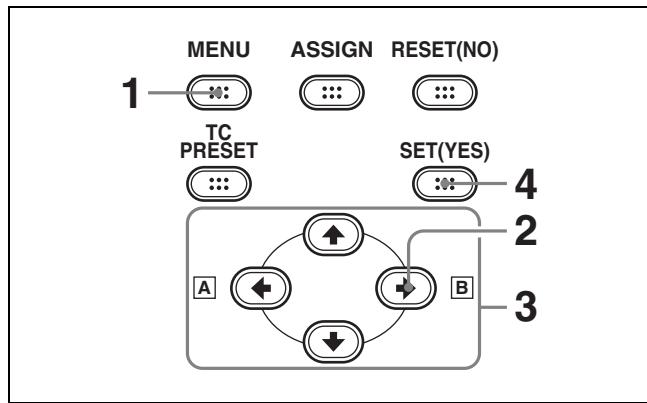
### ENHANCED（拡張）メニューを表示する

ENHANCED（拡張）メニューは、工場出荷時の設定のままで表示されません。ENHANCED（拡張）メニューを表示するときは、前項「BASIC（基本）メニューの設定を変更する」の手順に従って、メニュー項目 MENU GRADE の設定を ENHANCED にします。すなわち、89ページの手

順3でMENU GRADEを選択した後、ENHANCEDを選択し、SET(YES)ボタンで設定をメモリーに保存します。いったんメニュー項目 MENU GRADE の設定を ENHANCED に設定すると、以降は、MENU ボタンと →/ [B] ボタンを押して SETUP メニュー画面を表示したとき、第1層の BASIC (基本) メニューと ENHANCED (拡張) メニューのすべてが表示されます。

## ENHANCED (拡張) メニューの設定を変更する

ENHANCED (拡張) メニューの設定を変更するときは、あらかじめ前項の「ENHANCED (拡張) メニューを表示する」の設定を行ってから、次のように操作します。



1 MENU ボタンを押す。

モニター画面にメニュー選択層の項目が表示されます。

2 SETUP MENU が反転表示された状態で、→/[B] ボタンを押す。

セットアップメニューの第1層にある基本項目と拡張項目のすべてが表示されます。



モニター画面

3 「BASIC (基本) メニューの設定を変更する」(89ページ)の手順3～8と同じ要領で、↓、↑、←/[A]、→/[B] ボタンで項目を選択し、設定を変更する。

4 すべての項目の設定変更が終わったら、SET(YES)ボタンを押す。

モニター画面には「NOW SAVING...」、タイムカウンター表示部には「Saving...」と表示され、変更した設定が本機のメモリーに保存されます。

保存が終了すると、モニター画面とタイムカウンター表示部の表示は通常の状態に戻ります。

## メニューの設定を工場出荷時の設定に戻す—設定の初期化

メニューの設定を変更したあと出荷時の設定に戻す(初期化する)には、次のように操作します。

### 特定の項目の設定を初期化するには

その項目の設定を選択する画面で、RESET (NO) ボタンを押します。

たとえば、CHARA. VSIZE の項目を初期値に戻すには、次のように操作します。

なお、「BASIC (基本) メニューの設定を変更する」の手順6(90ページ参照)で、設定値が工場出荷時の設定以外の「×2」に変更されているものとします。

1 RESET (NO) ボタンを押す。

工場出荷時の設定である「×1」が選択されます。

2 SET(YES) ボタンを押す。

現在の設定値として保存されます。

### すべての項目の設定を初期化するには

1 MENU ボタンを押して、メニュー選択層を表示する。

2 →/[B] ボタンを押して、セットアップメニューの第1層を表示させる。

3 RESET (NO) ボタンを押す。

設定を初期化してよいかどうかを確認するメッセージが表示されます。

モニター画面のメッセージ	「すべての項目を工場出荷時の設定に初期化しますか?」
タイムカウンター表示部のメッセージ	「Init setup?」

4 SET(YES) ボタンを押す。

モニター画面には「NOW SAVING...」、タイムカウンター表示部には「Saving...」と表示され、全項目の設定

が工場出荷時の状態に戻るとともに、出荷時の設定が本機のメモリーに保存されます。

### ご注意

設定の保存中に本機の電源を切ると、初期化が確実に行われないことがあります。保存が完了するまで、電源を切らないでください。

### 初期化を中止するには

SET (YES) ボタンの代わりに、RESET (NO) ボタンを押します。

初期化が行われずにメニュー第1層の表示画面に戻ります。

## ASSIGN ボタンに機能を割り当てる

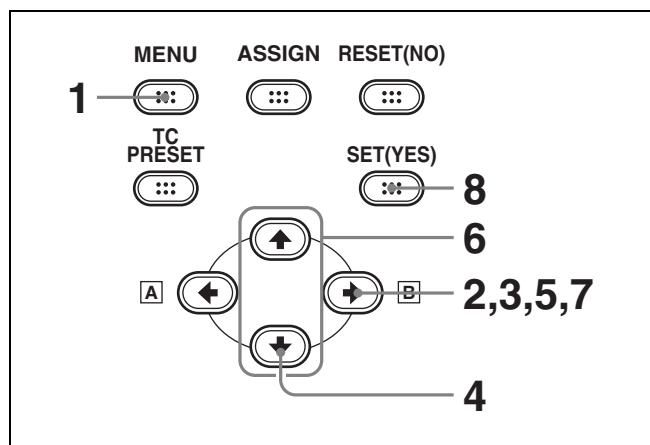
ASSGIN ボタンに希望のメニュー項目（第1層または第2層）を割り当てることができます。よく使うメニューを割り当てておくと、ASSIGN ボタンにより、ワン・アクションで呼び出すことができます。

### ASSIGN ボタンに割り当て可能なメニュー項目

メニュー項目 MENU GRADE での設定に従って、セットアップメニューの第1層および第2層のメニュー項目を割り当てることができます。ENHANCED（拡張）メニューを割り当てるには、MENU GRADE を ENHANCED に設定してください。

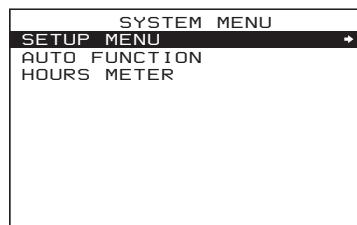
### ASSIGN ボタンに機能を割り当てるには

次のように操作します。



1 MENU ボタンを押す。

モニター画面にメニュー選択層が表示されます。

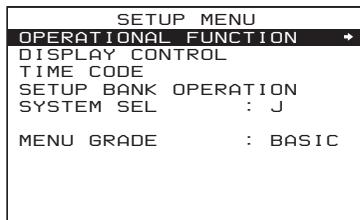


Setup menu  
タイムカウンター  
表示部

モニター画面

**2** SETUP MENU が反転表示された状態で、→/ [B] ボタンを押す。

セットアップメニューの第1層にある基本項目がすべて表示されます。

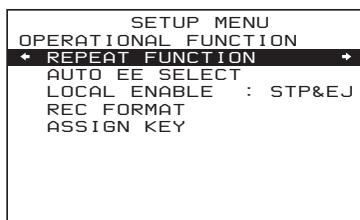


モニター画面



**3** OPERATIONAL FUNCTION が反転表示された状態で、→/ [B] ボタンを押す。

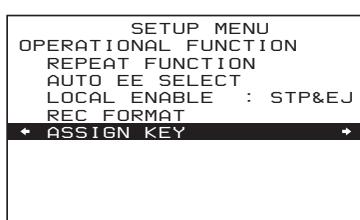
OPERATIONAL FUNCTION の第2層が表示されます。



モニター画面



**4** ↓ ボタンを押して ASSIGN KEY を反転表示させる。

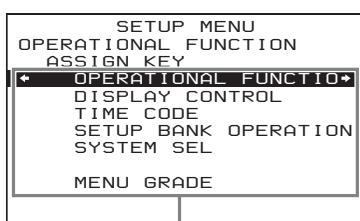


モニター画面



**5** →/ [B] ボタンを押す。

割り当てるメニュー項目の第1層が表示されます。



モニター画面



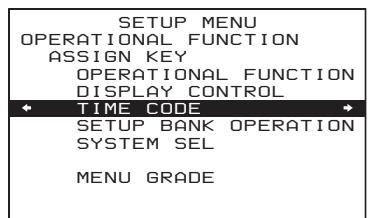
割り当てる可能なメニュー項目（第1層）

**6** ↑ ボタンまたは ↓ ボタンを押す。

割り当てるメニュー項目の第1層が反転表示されます。

- 割り当てるメニュー項目が第1層の場合：手順 8 へ
- 割り当てるメニュー項目が第2層の場合：手順 7 へ

ここでは、TIME CODE を選択した場合の手順を説明します。

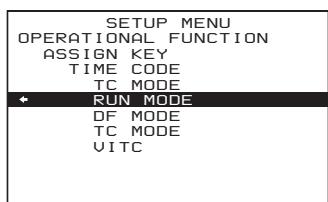


モニター画面



**7** →/ [B] ボタンを押して、メニュー第2層へ進む。

さらに ↑ ボタンまたは ↓ ボタンを押すと、割り当てる第2層のメニュー項目を反転表示させることができます。



モニター画面



**8** SET (YES) ボタンを押す。

選択したメニュー項目が ASSIGN ボタンに割り当てられます。

モニター画面には「NOW SAVING...」、タイムカウンター表示部には「Saving...」と表示され、変更した設定が本機のメモリーに保存されます。

次回設定時には、ASSIGN ボタンに割り当てられている項目に「\*」が表示されます。

#### 変更した設定を保存しないときは

MENU ボタンを押すと、メニュー操作を終了します。

## 使用上のご注意

### ⚠ 注意

#### 使用・保管場所

- 次のような場所での使用および保管は避けてください。
- 極端に寒いところや暑いところ(使用温度は5°C~40°Cです。)
  - 直射日光が長時間当たるところや暖房器具の近く(真夏の窓を締め切った自動車内では50°Cを越えることがありますので、ご注意ください。)
  - 湿気、ほこりの多いところ
  - 激しく振動するところ
  - 強い磁気を発生するものの近く
  - 強力な電波を発生するテレビ、ラジオの送信所の近く

#### 水平位置で使用してください

本機は水平位置で使用するように設計してあります。垂直にしたり、極端に(20°以上)傾けて使うことは避けてください。

#### 強い衝撃を与えないでください

落としたりして強い衝撃を与えると故障することがあります。

#### 通風口をふさがないようにしてください

温度上昇を防ぐため、動作中に布などで包まないでください。

#### お手入れ

キャビネットやパネルの汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふきとってください。汚れがひどいときは、中性洗剤溶液を少し含ませた布で汚れをふきとり、乾いた布で仕上げてください。アルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤など、揮発性のものをかけると、変質したり塗装がはげたりすることがあります。

#### 輸送のときは

付属のカートン、または同等品で梱包し、急激な衝撃を与えないように注意してください。

#### ライセンスに関するご注意

個人的使用以外の目的で、MPEG-2 規格に合致した本製品をパッケージメディア向けビデオ情報をエンコードするために使用する場合、MPEG-2 PATENT PORTFOLIO の特許に関するライセンスを取得する必要があります。尚、当該ライセンスは、MPEG L.A.LLC.（住所：250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206）より取得可能です。

## 液晶画面の輝点・滅点について

本機の液晶パネルは有効画素 99.99% 以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、画面上に黒い点が現れたり(画素欠け)、常時点灯している輝点(赤、青、緑など)や滅点がある場合があります。また、液晶パネルの特性上、長期間ご使用の間に画素欠けが生じることもあります。これらの現象は故障ではありませんので、ご了承の上本機をお使いください。なお、これらの点が記録されることはありません。

## 結露について

本機を寒い場所から暖かい場所に急に移動したり、湿度の高い部屋で使用したりすると、空気中の水分が水滴となってヘッドドラムに付着することがあります。これを結露といい、この状態でテープを走行させると、テープがヘッドドラムに貼りつきやすくなり、テープを傷める危険があります。

ます。これを防ぐために、本機は結露検出機構を備えています。

### 本機を使用中に結露が生じると

モニター画面には「結露を検出しました。」、タイムカウンター表示部には「HUMID！」と警告メッセージが表示されます。保護回路が働き、カセットが自動的にイジェクトされるので、警告メッセージが消えるまで、電源を入れたままでお待ちください。

### 電源を入れた直後に警告メッセージが表示されたときは

電源を入れたまま、警告メッセージが消えるまで待ちます。警告メッセージが表示されている間は、カセットを入れることはできません。

表示が消えた後は、そのまま使用することができます。

# 定期点検

## デジタル時間計

デジタル時間計は、本機の通電時間、ドラム回転時間、テープ走行時間、スレッディング回数をそれぞれ累計して、モニター画面と本機のタイムカウンター表示部に表示します。定期点検の目安として、この時間計をご利用ください。なお、定期点検は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

### 表示モード

デジタル時間計には、以下の4種類の表示モードがあります。

#### • T1 : OPERATION (通電時間) 表示モード

本機に電源が投入されている時間を累計して、10時間単位で表示します。

#### • T2 : DRUM ROTATION (ドラム回転時間) 表示モード

テープのスレッディングが完了した状態でヘッドドラムが回転している時間を累計して、10時間単位で表示します。

#### • T3 : TAPE RUNNING (テープ走行時間) 表示モード

早送り、巻き戻し、再生、サーチ（静止画モードのサーチは除く）、編集時にテープが走行している時間を累計して、10時間単位で表示します。

#### • CT : THREADING (スレッディング回数) 表示モード

テープのスレッディング、アンスレッディングの回数を累積して、10回単位で表示します。

T2、T3、CTの各モードでは、リセット可能な累計とリセット不可能な累計の2種類の値が表示されます。

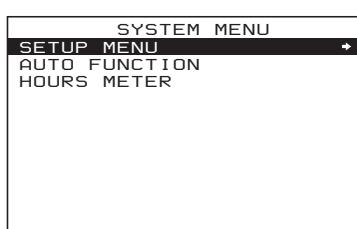
## デジタル時間計を表示するには

次のように操作します。

### 1 MENU ボタンを押す。

モニター画面とタイムカウンター表示部に、メニュー選択層が表示されます。

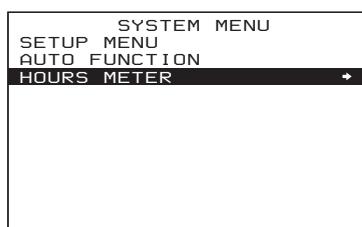
#### メニュー選択層の表示



Setup menu  
タイムカウンター  
表示部

モニター画面

2 ↓ ボタンを押して、HOURS METER を選択する。



モニター画面

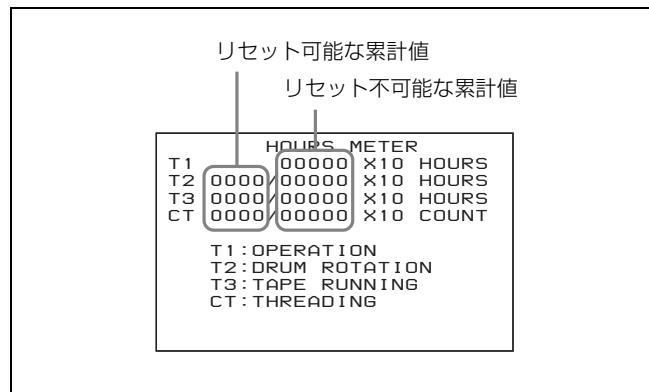


3 →/[B] ボタンを押す。

モニター画面とタイムカウンター表示部に、デジタル時間計による累計値が表示されます。

#### モニター画面でのデジタル時間計表示

モニター画面には、T1（通電時間）、T2（ドラム回転時間）、T3（テープ走行時間）、CT（スレッディング回数）の累計値がすべて表示されます。



スラッシュ (/) の左側がリセット可能な累計値、右側がリセット不可能な累計値です。

#### タイムカウンター表示部でのデジタル時間計表示

タイムカウンター表示部には、T1、T2、T3、CT の（リセット可能な）累計のいずれか 1 つが表示されます。表示モードを切り換えるには、↑ ボタンまたは ↓ ボタンを押します。

T2、T3、および CT 表示モードのときは、→/[B] ボタンを押している間だけ、リセット不可能な累計値も見ることができます。その場合は、モニター画面と同様、リセット不可能な累計値はスラッシュ (/) の右側に表示されます。以下に、各モード時の表示例を示します。右側に示すのが、→/[B] ボタンを押しているときの表示です。

#### T1 : OPERATION (通電時間) 表示モード



#### T2 : DRUM ROTATION (ドラム回転時間) 表示モード



#### T3 : TAPE RUNNING (テープ走行時間) 表示モード



#### CT : THREADING (スレッディング回数) 表示モード



#### 表示を終了するには

MENU ボタンを押します。

#### リセットするには

ソニーのサービス窓口にご相談ください。

# ヘッドクリーニング

ビデオヘッドとオーディオヘッドのクリーニングを行うときは、必ず専用クリーニングカセット PDVM12CL（ミニサイズ）または PDV12CL（標準サイズ）をお使いください。

クリーニングは1回につき10秒間です。使用法を誤ると、ヘッドを傷めことがありますので、クリーニングカセットの説明書をよくお読みください。

## クリーニングするには

クリーニングカセットを挿入すると、自動的にクリーニングが開始されます。クリーニング中、EJECTボタン以外のテープ走行コントロールボタンは働きません。約10秒後にクリーニングが終了し、カセットが自動的にイジェクトされます。

# トラブル時の対処

本機を操作中、モニター画面に警告メッセージが表示されたり、故障かなと思ったときは、ソニーのサービス窓口に連絡する前に、下記の項目を確認してください。

## テープ関連

症状	原因	処置
記録ができない。	カセットの REC/SAVE スイッチが SAVE 側になっている。	REC/SAVE スイッチを REC 側にするか、別のテープを使用する。
本機の PLAY、F FWD、REW など、テープ走行コントロールボタンが動かない。	リモートコントロールスイッチが LOCAL 以外の設定で、メニュー項目 LOCAL ENABLE が STOP & EJECT または ALL DISABLE に設定されている。	リモートコントロールスイッチを LOCAL 側にするか、メニューの設定を ALL ENABLE (77 ページ参照) にする。
液晶ディスプレイの NO EDIT インジケーターが点灯する。	カセットが入っていない。	カセットを入れる。
	本機の録音モードと、テープの録音モードが一致していない。	<ul style="list-style-type: none"><li>編集する場合は、リモートコントロールスイッチを LOCAL 側にしてから、メニュー項目 REC MODE (84 ページ参照) でベーステープと同じ録音モードを選択する。録音モードの選択後、9PIN または iLINK 側にする。</li><li>記録する場合は、現在入っているテープをそのまま使用することができる。</li></ul>
	HDV/DV フォーマットで記録したテープまたは DVC PRO テープが入っている。	DVCAM フォーマットで記録されたテープと入れ替える。
	記録フォーマットが HDV または DV (SP) に設定されている。	DVCAM フォーマットに設定する。

## タイムデータ関連

症状	原因	処置
タイムデータの初期値を任意に設定できない。	メニュー項目 TC MODE が EXT REGEN になっている。	メニューの設定を INT PRESET にする。(80 ページ参照)
	表示するタイムデータとして CNT が選択されている。(タイムデータ種別インジケーターの CNT が点灯している。)	COUNTER SELECT ボタンを押して、タイムデータ種別インジケーターの TC または UB を点灯させる。(CNT 値の任意設定はできません。)
	リモートコントロールスイッチが LOCAL 以外の設定で、メニュー項目 LOCAL ENABLE が STOP & EJECT または ALL DISABLE に設定されている。	リモートコントロールスイッチを LOCAL 側にするか、メニューの設定を ALL ENABLE にする。(77 ページ参照)
テープが走行しているのに、タイムカウンター表示部にタイムデータが表示されない。	MENU ボタン、TC PRESET ボタンを押した。	これらのボタンをもう 1 度押して、メニュー設定モード、タイムコードプリセットモードまたはデジタル時間計表示モードを解除する。(メニュー設定モードとタイムコードプリセットモードでは、タイムカウンター表示部にタイムデータが表示されません。)
	タイムデータ種別インジケーターの UB が点灯している。	COUNTER SELECT ボタンを押して、タイムデータ種別インジケーターの CNT または TC を点灯させる。

## モニター関連

症状	原因	処置
モニターに文字情報が表示されない。	メニュー項目 CHARA. DISPLAY が OFF になっている。	メニューの設定を ON にする。(78 ページ参照)
	モニターが (SUPER) CPST 端子につながっていない。	(SUPER) CPST 端子にモニターを接続する。(文字情報を出力するときは、必ず (SUPER) CPST 端子をお使いください。)
モニターの映像が明るすぎる。	モニターのビデオ入力端子の $75\Omega$ 終端スイッチが OFF になっているか、終端器が取り付けられていない。	$75\Omega$ 終端スイッチを ON にするか、終端器を取り付ける。
モニターの映像が暗すぎる。	複数のモニターを使ってビデオ信号をブリッジ接続しているとき、2 台以上のモニターのビデオ入力端子の $75\Omega$ 終端スイッチが ON になっている。	ブリッジ接続している端子の $75\Omega$ 終端スイッチを OFF にする。
コンポジット信号で記録しているときの映像が暗い。		

## オーディオ関連

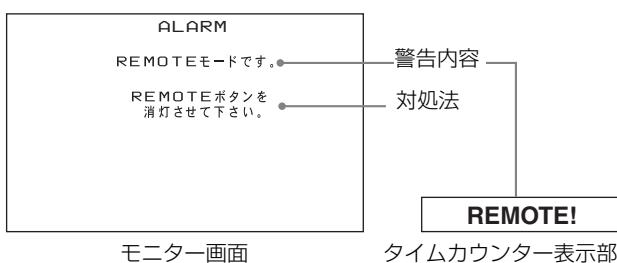
症状	原因	処置
REC/PB LEVEL つまみを回してもオーディオ入出力レベルが変化しない。	前面パネルの VARIABLE スイッチが PRESET に設定されている。	VARIABLE スイッチを REC または PB にする。

## 編集関連（編集時の制限事項）

症状	原因
インサートモードでビデオを編集したら、テープ上に記録されていたサブコードのうち、タイムコード以外のデータ（ユーザービットデータなど）が消去された。	本機をレコーダーとして使用する編集システムでは左記のようになる。

## アラーム表示

本機を操作中、モニター画面やタイムカウンター表示部に次のような警告メッセージが表示されることがあります。



このような場合は、接続や操作方法が間違っていたり、ヘッドが結露している可能性があります。モニター画面の指示に従って対処してください。

### ご注意

モニター画面に警告メッセージを表示するには、必ず (SUPER) CPST 端子にモニターを接続し、以下のメニュー項目を ON にしてください。

- CHARA. DISPLAY (78 ページ参照)
- ALARM (79 ページ参照)
- REF ALARM (79 ページ参照)

モニター画面の警告メッセージ（警告内容）	対処法	タイムカウンター表示部の警告メッセージ
オーディオの記録モードがテープと一致していません。	オーディオの記録モードをテープのオーディオモードに合わせて下さい。	A mode err!
カセットアダプターは使用できません。	ミニカセットもアダプターなしでそのままお使い下さい。	Adaptor!

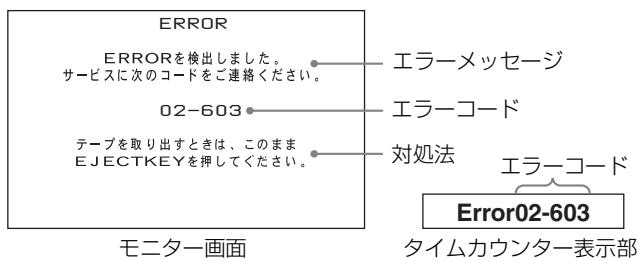
モニター画面の警告メッセージ（警告内容）	対処法	タイムカウンター表示部の警告メッセージ
カセットが入っていません。	-	No Cass!
カセットの誤消去防止プラグが押し下げられています。	-	REC INH!
記録中はオーディオの記録モードを変更できません。	-	REC mode!
記録中はオーディオの MIXING モードを変更できません。	-	
記録中は入力切り換えできません。	-	
クリーニング実行中にテープが終了しました。	新しいクリーニングテープに交換して下さい。	Tape End!
クリーニングテープです。	クリーニング実行後、自動的に EJECT します。	Cleaning Tp
結露を検出しました。	電源を入れたまま、しばらくお待ち下さい。	HUMID!
このテープには記録できません。	DVCAM または DV VTR 用の ME テープをお使い下さい。	REC INH!
このテープには編集できません。	オーディオモードを 2CH/48kHz か 4CH/32kHz で記録したテープをお使い下さい。	2CH/32kHz! Fs 44.1kHz!
	オーディオを LOCKED モードで記録したテープをお使い下さい。	UNLOCK mode
	DVCAM フォーマットで記録したテープをお使い下さい。	Not DVCAM!
	PAL 方式の信号を記録したテープをお使い下さい。	525/60 Tape
	NTSC 方式の信号を記録したテープをお使い下さい。	625/50 Tape
このテープは再生できません。	PAL 方式の信号を記録したテープをお使い下さい。	525/60 Tape
	NTSC 方式の信号を記録したテープをお使い下さい。	625/50 Tape
	本機で再生可能なフォーマットで記録したテープをお使い下さい。	ILL. FORMAT!
このテープは使用できません。	DVCAM または DV VTR 用の ME テープをお使い下さい。	ILL. Tape!
入力信号が DVCAM/DV フォーマットではありません。	-	Unknown sig
HD/SD 選択を変更してください。	-	CHANGE SEL
HDV/DV 選択を変更してください。	-	
設定されている映像方式では、このテープは再生できません。	-	50i Tape 60i Tape
入力信号方式が PAL 方式です。	-	625/50 sig!
入力信号方式が NTSC 方式です。	-	525/60 sig!
設定されている映像方式では、この VIDEO 信号は入力できません。	-	50i INPUT! 60i INPUT!
入力信号が REF VIDEO と同期していません。	-	ILL. REF!
COUNTER MODE です。	COUNTER SELECT スイッチを TC あるいは UB にして下さい。	CNT mode!
INPUT VIDEO が検出できません。	VIDEO INPUT MODE を確認し INPUT VIDEO を入力して下さい。	No INPUT!
INPUT VIDEO が NON-STD です。	INPUT VIDEO には STANDARD 信号を入力して下さい。	VIN NON-STD
REF VIDEO が NON-STD です。	REF VIDEO には STANDARD 信号を入力して下さい。	REF NON-STD
REMOTE MODE です。	REMOTE/LOCAL スイッチを LOCAL にして下さい。	REMOTE!
SETUP MENU の設定値が異常です。SETUP MENU を再設定してください。	再設定後も同様なメッセージが表示される場合はサービスにご連絡下さい。	ILL. SETUP!
TC EXTERNAL です。	TC MODE (SETUP MENU) を INTERNAL にして下さい。	TC EXT!
TCG REGEN MODE です。	TCG MODE を PRESET にして下さい。	REGEN mode!
TCG RUN MODE が REC RUN です。	TCG RUN MODE (SETUP MENU) を FREE RUN にして下さい。	REC RUN!
バッテリーの交換時期です。	サービスにご連絡下さい。	Exchg batt!
FAN の異常を検出しました。	1 分後に電源を OFF にします。	FAN STOPPED

## エラー表示

本機は、内部の異常を検出する自己診断機能を備えています。異常が発見された場合は、モニター画面にエラーメッセージ、本機のタイムカウンター表示部にエラーコードが表示されます。

### ご注意

モニター画面にエラーメッセージを表示するには、必ず (SUPER) CPST 端子にモニターを接続し、メニュー項目 CHARA. DISPLAY (78 ページ参照) を ON に設定してください（出荷時は ON に設定されています）。



### エラーコードの分類

0X-XXX	サーボ、テープ走行に関するエラーが検出された場合に表示される
02- XXX	テープ、リールなどに関する異常
06- XXX	テンションに関する異常
07- XXX	キャプスタンに関する異常
08- XXX	ドラムに関する異常
09- XXX	ローディングに関する異常
2X-XXX	メカコントロールに関するエラーが検出された場合に表示される
20-XXX	カセットコンパートメントの異常
21-XXX	リールシフトの異常
22-XXX	ヘッドクリーナーの異常
3X-XXX	センサーの異常が検出された場合に表示される
9X-XXX	CPU周辺システムおよびIC制御通信のエラーが検出された場合に表示される

エラーメッセージが表示されたときは、モニター画面の対処法の指示に従ってください。

エラーメッセージの表示が消えないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

# 付録

## i.LINKについて

本機の **i** HDV/DV 端子は iLINK に準拠した端子です。ここでは、iLINK の規格や特長について説明します。

### iLINKとは？

iLINKはiLINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。

iLINK対応機器は、iLINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることがあります。

複数のiLINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。

ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

iLINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。

IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

### お詫び

iLINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できる機器は通常1台だけです。複数接続できるDV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

### iLINKの転送速度について

iLINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。

S100（最大転送速度 約100Mbps<sup>1)</sup>）

S200（最大転送速度 約200Mbps）

S400（最大転送速度 約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはiLINK端子周辺に表記されています。

最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

#### 1) Mbpsとは？

「Mega bits per second」の略で「メガビーピース」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

### 本機でのiLINK操作は

他のiLINK対応機器と接続して使用する方法については、「iLINKを使った接続」（58ページ）、「デジタルダビングする」（67ページ）をご覧ください。

接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書を併せてご覧ください。

### 必要なiLINKケーブル

ソニー製のiLINKケーブルをお使いください。

6ピン ⇌ 4ピン

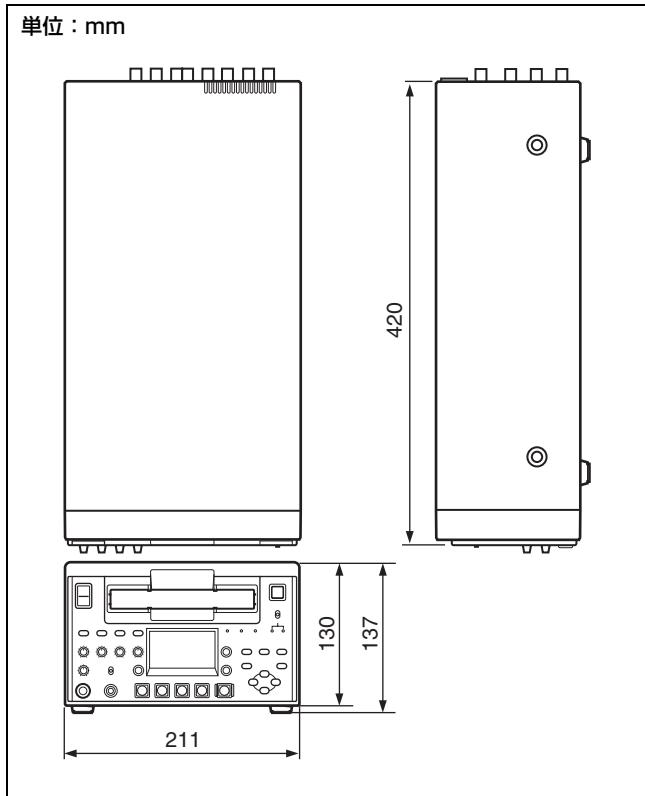
6ピン ⇌ 6ピン

iLINKと**i**は商標です。

# 仕様

## 一般

信号方式	1080/60i 方式、NTSC カラー、EIA 標準 方式 1080/50i 方式、PAL カラー、CCIR 標準 方式
録音方式 (HDV)	MPEG-1 Audio Layer 2 (2 チャンネル) 16 ビット 48kHz (ステレオ)、転送レー ト 384kbps
録音方式 (DVCAM/DV)	12 ビット Fs32K (4 チャンネル) 16 ビット Fs48K (2 チャンネル)
電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	60W
動作温度	5°C ~ 40°C
保存温度	-20°C ~ +60°C
動作湿度	80% 以下
保存湿度	90% 以下
質量	6.9kg
外形寸法 (幅 / 高さ / 奥行き、足、突起部含まず)	211 × 130 × 420mm



## テープ走行系

テープ走行速度 DVCAM : 28.193mm/ 秒  
HDV/DV (SP) : 18.812mm/ 秒

記録 / 再生時間

- HDV/DV (SP) フォーマット :
  - スタンダードサイズ (L) カセット
  - PHDV-276DM 使用時 : 最長 276 分
  - ミニサイズ (S) カセット PHDVM-63DM  
使用時 : 最長 63 分
- DVCAM フォーマット :
  - スタンダードサイズ (L) カセット PDV-  
184ME 使用時 : 最長 184 分
  - ミニサイズ (S) カセット PDVM-40ME  
使用時 : 最長 40 分

早送り / 卷き戻し時間

- スタンダードサイズ (L) カセット PDV-  
184ME、PHDV-276DM 使用時 : 3 分  
以内
- ミニサイズ (S) カセット PDVM-40ME、  
PHDVM-63DM 使用時 : 1 分以内

サーチ速度

- RS-422A 経由でリモートコントロール時 :
  - DV/DVCAM/DVC PRO : ±60 倍速
  - HDV 1080i : ±24 倍速

- リモートコントロールユニット DSRM-10 使用時 :
  - DV/DVCAM/DVC PRO :

- ジョグモード : 0 ~ ±2 倍速
- シャトルモード : 静止画 ~ ±16 倍速
- HDV 1080i :
  - ジョグモード : 0 ~ 1 倍速
  - シャトルモード : 静止画 ~ ±24 倍速

## ビデオ特性

帯域	コンポジット / S ビデオ : 30Hz ~ 4.2MHz±1.0dB (Y) コンポーネント入出力 : 30Hz ~ 5.0MHz±1.0dB (Y) 30Hz ~ 1.5MHz+1.0/-5.0dB (R-Y/B-Y)
S/N	コンポジット / S ビデオ入出力 (Y) : 52dB 以上 コンポーネント入出力 (Y) : 54.5dB 以上
Y/C ディレイ	30 ns 以内
K ファクター	2.0% 以下 (K2T、KPB)

## プロセッサー調整範囲

- ビデオレベル<sup>1)</sup> ±3dB/-∞ ~ 3dB
- クロマレベル<sup>1)</sup> ±3dB/-∞ ~ 3dB

セットアップレベル<sup>1)</sup>

±30IRE

クロマ位相<sup>1)</sup> ±30°

システム位相<sup>1)</sup> SYNC : ±1μs

SC : ±180°

1) メニューで選択可能

## オーディオ特性

周波数特性 2 チャンネルモード (48kHz) : 20Hz ~ 20kHz ±1.0dB  
4 チャンネルモード (32kHz) : 20Hz ~ 14.5kHz ±1.0dB

ダイナミックレンジ 87dB 以上

ひずみ率 (THD+N) 0.07% 以下 (48kHz)

## 入力端子

### デジタル入力

SD/HD SDI IN BNC 型 (1)  
SDI フォーマット、SMPTE 259M、(270Mbps)  
HD SDI フォーマット、SMPTE 292M 準拠  
AUDIO I/O (AES/EBU) IN BNC 型 (2)、AES-3id-1995 準拠  
■ HDV/DV 6 ピン、IEEE1394 コネクター、S100 (1)

### アナログビデオ入力

REF. VIDEO IN BNC 型 (2) (ループスルー、75Ω 自動終端)  
HD3 値シンク : 0.6Vp-p、75Ω、同期負または SD コンポジットシンク、プラックバースト : 0.286V、75Ω、同期負  
VIDEO IN (別売りのアナログインプットボード HVBK-1505 装着時) BNC 型 (4) (ループスルー、75Ω 自動終端)、コンポジット / コンポーネント / S ビデオ切り換え  
コンポジット Y/S-Y/CPST とループスルー、75Ω 自動終端 : 1.0Vp-p、75Ω、同期負  
コンポーネント Y/S-Y/CPST : 1.0Vp-p、75Ω、同期負 R-Y/S-C、B-Y : 0.7Vp-p (75% カラーバー)、75Ω  
S ビデオ Y/S-Y/CPST : 1.0Vp-p、75Ω、同期負 R-Y/S-C : 0.286Vp-p、75Ω (バーストレベル)

### アナログオーディオ入力

AUDIO IN (別売りのアナログインプットボード HVBK-1505 装着時) XLR 型 3 ピン (凹) (2)  
+4/0/-6dBu、ハイインピーダンス平衡

### タイムコード入力

TC IN BNC 型 (1)、SMPTE タイムコード準拠  
0.5Vp-p ~ 18Vp-p、3.3kΩ、不平衡

## 出力端子

### デジタル出力

SDI OUT BNC 型 (2)  
SDI フォーマット、SMPTE 259M、(270Mbps)  
HD SDI OUT BNC 型 (2)  
HD SDI フォーマット、SMPTE 292M 準拠  
AUDIO I/O (AES/EBU) OUT BNC 型 (2)、AES-3id-1995 準拠  
■ HDV/DV 6 ピン、IEEE1394 コネクター、S100 (1)

### アナログビデオ出力

VIDEO OUT BNC 型 (3)、コンポジット + S ビデオ / コンポーネント SD / コンポーネント HD 切り替え  
コンポジット Y/CPST : 1.0Vp-p 75Ω 同期負  
コンポーネント SD Y/CPST : 1.0Vp-p、75Ω、同期負  
Pr/R-Y/S-C、Pb/B-Y/S-Y : 0.7Vp-p (75% カラーバー<sup>1)</sup>)、75Ω  
1) システム周波数が 50i に設定されている場合 : 100% カラーバー  
コンポーネント HD Y/CPST : 1.0Vp-p、75Ω、同期負  
Pr/R-Y/S-C、Pb/B-Y/S-Y : 0.7Vp-p、75Ω  
S ビデオ Pb/B-Y/S-Y : 1.0Vp-p、75Ω、同期負  
Pr/R-Y/S-C : 0.286Vp-p、75Ω (バーストレベル)  
モニター出力 BNC 型 (1)、コンポジット (スーパーインポーズ)  
(SUPER) CPST : 1.0Vp-p、75Ω、同期負

### アナログオーディオ出力

AUDIO OUT XLR 型 3 ピン (凸) (2)  
+4/0/-6dBu (メニュー選択可)、600Ω 負荷、ローインピーダンス、平衡

## MONITOR AUDIO

ピンジャック (1)、  
-∞ ~ -11dBu ± 1dB (-20dBFS)、  
47kΩ、不平衡

## ヘッドホン出力

PHONES ステレオ標準ジャック (1)、  
-∞ ~ -13dBu (-20dBFS)、8Ω、不平衡

## タイムコード出力

TC OUT BNC型 (1)、SMPTE タイムコード、  
2.2Vp-p±3.0dB、不平衡

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります、ご了承ください。

- 必ず事前に記録テストを行い、正常に記録されていることを確認してください。本機や記録メディア、外部ストレージなどを使用中、万一これらの不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかるわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

## 制御用端子

REMOTE D-sub 9 ピン、エディティングコントローラー接続用、RS-422A 準拠 (1)  
CONTROL-S ステレオミニジャック (1)  
HDV/DV 6 ピン、IEEE1394 コネクター (1)

## 付属品

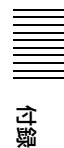
AC 電源コード (サービスパーツ番号 : 1-783-795-6X) (1)  
取扱説明書 (1)  
保証書 (1)

## 別売り品

アナログインプットボード  
HVBK-1505  
フォーマットコンバーターボード  
HVBK-1520  
9 ピンリモートコントロールケーブル  
RCC-5G (長さ 5m)  
リモートコントロールユニット  
DSRM-10  
デジタルビデオカセット  
DVCAM シリーズ  
スタンダードサイズ (L) : PDV-184 \* /  
124 \* /94 \* /64 \* <sup>1)</sup>  
ミニサイズ (S) : PDVM-40 \* /32 \* /22  
\* /12 \* <sup>1)</sup>  
1)型名中の「\*」は、「ME」(カセットメモリー付き)、「N」(カセットメモリー無し)または「MEM」(マスター・テープ)を表す。

Digital Master シリーズ (HDV 対応)  
スタンダードサイズ (L) : PHDV-  
276DM/186DM/124DM/64DM  
ミニサイズ (S) : PHDVM-63DM

クリーニングカセット  
PDV12CL (標準サイズ)  
PDVM12CL (ミニサイズ)



# **保証書とアフターサービス**

## **保証書**

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

## **アフターサービス**

### **調子が悪いときはまずチェックを**

この説明書をもう一度ご覧になってお確かめください。

### **それでも具合の悪いときはサービスへ**

お買い上げ店またはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

### **保証期間中の修理は**

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

### **保証期間経過後の修理は**

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店またはお近くのソニーサービス窓口にお問い合わせください。

# 用語解説

## 五十音順

### アンスレッディング

「アンローディング」の項を参照。

### アンローディング

ローディングしたテープを、VTR のテープバスからカセット内に収納すること。ふつう、アンローディングは、EJECT ボタンを押すと自動的に行われる。アンスレッディングともいう。

### エッジクロップ

16:9 の HD 信号の両端をカットして、4:3 の映像にダウンコンバートする方法。

### エディティングコントローラー

編集の際に VTR、スイッチャー、オーディオミキサーなどをコントロールするために使用する映像・音声編集機のこと。エディティングコントローラユニットなどともいう。

### エディティングコントロールユニット

「エディティングコントローラー」の項を参照。

### 外部タイムコード

ビデオ機器に外部から入力されるタイムコードのこと。これに対し、機器の内蔵タイムコードジェネレーターで発生させるタイムコードを内部タイムコードということがある。

### キャブスタン

テープを巻き取り方向に一定速度で送る回転機構のこと。同期信号に同期させて回転させることが多い。

### カラーサブキャリア

色の成分を送るために、映像信号（輝度信号）の上に重ねてある信号のこと。周波数の位相変化と振幅で、色相と彩度を表す。単にサブキャリアともいう。

### 基準ビデオ信号

シンク信号とバースト信号などで構成され、ビデオ機器間の同期の基準となる信号のこと。

### 結露

VTR のテープ走行系などに水滴がつく現象のこと。ビデオヘッドドラムに結露が生じると、テープがドラムに貼りつき、VTR の故障やテープを傷める原因になる。

### コンポーネントビデオ信号 (YRB)

輝度信号 (Y)、色差信号 (R-Y, B-Y) が別々になっている信号のこと。

### コンポジットビデオ信号

映像信号、バースト信号、同期信号を組み合わせた信号（複合映像信号）のこと。

### サーチ

早送り・巻き戻し状態で画像またはタイムコードを見ながら、テープ上の目的の箇所を探すこと。

### サーボロック

再生時にビデオヘッドが記録時と同じパターンでテープをなぞるようにするために、再生時および記録時に、ドラム回転位相、テープ走行位相を基準信号に同期させること。

### サブキャリア (SC)

「カラーサブキャリア」の項を参照。

### シンク (SYNC)

同期信号のこと。カメラで撮影したものと同じ状態で画面走査を再現するための基準信号であり、垂直同期信号と水平同期信号の 2 つの信号からなっている。

### スーパーインポーズ

映像に新たな映像（字幕など）を挿入すること。

### スクイーズ

16:9 の HD 信号を左右方向に縮小して、4:3 の映像にダウンコンバートする方法。

### スタンバイオフモード

VTR のストップ（停止）状態の 1 つ。ヘッドドラムの回転は停止しており、テープはテンションがゆるんだ状態にある。このモードから瞬時に記録・再生状態に移行することはできない。なお、このモードではテープやヘッドに損傷は与えない。

### スタンバイオンモード

VTR のストップ（停止）状態の 1 つ。ヘッドドラムは回転しており、テープもドラムに巻き付いている。瞬時に記録・再生状態に移行できるが、この状態が長時間続くと、テープやヘッドが損傷を受ける。

### スレッディング

「ローディング」の項を参照。

### セットアップ

コンポジットビデオ信号で、カラーサブキャリア信号がシンク信号に干渉しないように、基準ブラックレベルをブランкиングレベルよりも高く設定すること、「セットアップを付加する」などという。

### タイムコード

編集位置の設定、場面のサーチなどを容易にするために、テープ上に記録する時刻およびフレーム情報を含むテープ位置情報信号のこと。タイムコードの種類には NTSC 方式用の SMPTE タイムコードと PAL/SECAM 方式用の EBU タイムコードがある。

### ダウンコンバート

ハイビジョンなどの高い解像度の映像信号を、低い解像度の映像信号に変換すること。解像度の変換と合わせて画面サイズも変換を行っている。

### ドラム

「ヘッドドラム」の項を参照。

## ドロップフレームモード

NTSC 方式では、1 秒間の実際のフレーム数が約 29.97 フレームであるのに対して、タイムコードの処理基準となる 1 秒間のフレーム数は 30 フレームである。このフレーム数のズレを補正するようなタイムコードの歩進モードをドロップフレームモードという。このモードでは、タイムコードは、毎 10 分目を除く各分の開始時点で 2 フレームスキップされ、タイムコードの値は実時間に一致する。

## ノンドロップフレームモード

タイムコードのフレームの一部を省略しないで、フレーム数と実時間とのズレを無視するタイムコード歩進モードのこと。1 日に約 86 秒のズレが生じる。実際のフレーム数を基準にして、秒単位で番組の長さを決めて編集するときには、このモードを使うと問題が生じる。

## ノンリニア編集

ハードディスクに記録された映像信号、音声信号を再生しながら行う編集。瞬時に頭出しが行えるという利点がある。これに対し、ビデオテープに記録された映像信号、音声信号を再生しながら行う編集をリニア編集という。

## ブリッジ接続

入力端子へ入った信号が、そのまま機器の中を通って出力端子から出て（ループスルー）、外部機器の入力端子に供給される接続方式のこと。

## プリロール

編集開始点で映像がスムースにつながるように、レコーダーおよびプレーヤーを編集開始点の少し前まで巻き戻すこと。プリロールを行うとテープの助走期間が得られるので、テープの走行を安定させることができる。

## ヘッドドラム

ビデオヘッドが取り付けられた金属製の円筒のこと。記録・再生中は、同期信号に同期して高速で回転している。テープは、ヘッドに対して斜めに巻き付くようにして走行する。

## ユーザービット

タイムコード記録期間のうち、32 ビットは、ユーザーが自由に使うことができる。このビットを、ユーザービットと呼ぶ。タイムコードの補足情報として日付（年月日）を記録したり、リール番号、シーン番号などを記録するために使用できる。ユーザーズビットともいう。

## リニア編集

「ノンリニア編集」の項を参照。

## ループスルー

「ブリッジ接続」の項を参照。

## ローディング

カセットからビデオテープを引き出し、VTR 内部の所定のテープパスに通し、ビデオヘッドドラムに巻き付け、記録・再生が可能な状態にすること。ふつう、ローディングは、カセットを挿入口に差し込むと自動的に行われる。スレッディングともいう。

## アルファベット順

### A/B ロール編集

複数のプレーヤーと 1 台のレコーダーを使って行う編集で、プレーヤー間でディゾルブ、ワイプなどの特殊効果を付加しながら、レコーダーのテープに編集していく方法。エディティングコントローラーを使用することによって、複数の VTR を容易に制御し、精度の高い編集を行うことができる。

### AES/EBU フォーマット

デジタルオーディオ信号の伝送フォーマット。1 個の端子で 2 チャンネルの信号を扱うことができる。

## B-Y 信号

コンポーネント信号の一部を構成する色差信号で、B 信号（青）から Y 信号（輝度）を引いたもの。

## C 信号

色相、彩度などの色情報を持ったカラー信号のこと。クロマ信号ともいう。

## EBU タイムコード

ヨーロッパ放送連盟 (European Broadcasting Union) の規格に準拠したタイムコード。

## EE 画像

「E-E モード」の項を参照。

## E-E モード

Electric to Electric の略。VTR の記録回路に入力した映像・音声の電気信号を、テープやヘッドなどの磁気変換回路を通さずに、電気回路のみを通して出力するモードのこと。このモードを使って、入力信号を確認したり、入力レベルを調整する。

## HD 3 値シンク

59.94/50Hz システムに適用する HDTV アナログ基準信号。SMPTE 274M として規定されている正方向、負方向 3 値の同期信号。

## HD-SDI 信号

HD Serial Digital Interface の略。SMPTE 292M として規定されている HDTV シリアルインターフェースの規格の信号。

## MPEG2

Moving Picture Experts Group phase 2 の略で、動画映像と音声のデジタル圧縮方式の一つ。主に DVD ビデオや BS デジタル放送などで使われており、高画質を維持したまま高压縮する技術で、動きの予測をしながら圧縮を行う。

## PCM オーディオ

PCM は Pulse Code Modulation の略。パルス符号変調されたオーディオ信号のこと。アナログオーディオ信号を各瞬間ごとのパルスに変換し、さらにそれぞれのパルスを 1 と 0 のデジタル符号に書き換えて録音する。

## RP-188

SMPTE (米国映画テレビ技術者協会) で定められたデジタルテレビの補助的なデータスペースでの制御コードおよびタイムコードの仕様。

## R-Y 信号

コンポーネント信号の一部を構成する色差信号で、R 信号（赤）から Y 信号（輝度）を引いたもの。

## S ビデオ

Y 信号と C 信号を分離して伝送するビデオ方式。コンポジット信号の欠点である Y 信号と C 信号の干渉がなくなり、解像度のよい画像を得ることができる。

## SC

「カラーサブキャリア」の項を参照。

## SD-SDI 信号

SD Serial Digital Interface の略。SMPTE 259M として規定されている非圧縮デジタルコンポーネントの映像信号のこと。

## SMPTE

Society of Motion Picture and Television Engineers の略。アメリカの映画テレビ技術者の協会。

## S/N

Signal-to-Noise ratio の略。ビデオ / オーディオ機器における信号と雑音（ノイズ）の強さの比。S/N が高いほど、その機器のノイズは少なく、ビデオ機器の場合はちらつきの少ない高画質の再生画像が得られる。

## SYNC

「シンク」の項を参照。

## TBC (Time Base Corrector)

ドラムの回転速度ムラ、テープの走行速度ムラなどに起因する再生画像の横ゆれや色の変動を除去し、再生信号を電気的に安定させるための電子回路のこと。

アナログ信号で画像の伝送、ダビングを行うときの画質の劣化を軽減する。また、ユーザーが基準ビデオ信号に対してシンク位相、SC 位相を調整したり、ビデオレベル、クロマレベル等を調整できるように設計されている。

## VBI (Video Blanking ID)

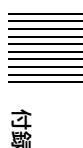
アスペクト比を判別するために、EIAJ CPR-1204 規格に準拠したビデオ ID 信号が VBS (ビデオ出力) に付加されている。この ID 信号は LINE20、283VBI の期間に挿入される

## Y 信号

明るさを決定する信号。輝度信号ともいう。コンポーネント信号のひとつ。

## Y/C 分離信号

「S ビデオ」の項を参照。



# 索引

## あ

- 頭出し ..... 52  
アナログ  
　ビデオ / オーディオ信号出力部 24  
　ビデオ / オーディオ信号入力部 23  
アラーム表示 ..... 99

## い

- インターフェース ..... 10

## え

- 液晶画面について ..... 94  
液晶ディスプレイ ..... 17  
　小画面表示モード ..... 17  
　ステータス表示モード ..... 17  
　全画面表示モード ..... 17  
エディティングコントロールユニット ..... 64  
エラー表示 ..... 101

## お

- オーディオ  
　入出力レベル調整部 ..... 16  
　入力 ..... 44  
　モードの選択 ..... 45  
オプションボード ..... 11

## か

- 外部モニター ..... 29  
　HD の映像を見るには ..... 29  
　映像を見るには ..... 29  
拡張項目の設定変更 ..... 91  
各部の名称と働き ..... 13  
カセット  
　入れる / 取り出す ..... 42  
　挿入口 ..... 14  
カセットメモリー ..... 41  
カット編集システム ..... 59

## き

- 基準ビデオ信号  
　入力 ..... 22  
基本項目の設定変更 ..... 89  
記録  
　設定 ..... 43  
　操作 ..... 45  
記録・再生 ..... 43  
記録フォーマット ..... 77  
記録フォーマットと入出力信号 ..... 36  
　E-E モード時 ..... 36

## く

- 繰り返し再生 ( リピート再生 ) ..... 49

## け

- 結露について ..... 94

## こ

- 後面パネル ..... 22

## さ

- サーボロックインジケーター ..... 21  
再生

- 設定 ..... 47

- 操作 ..... 48

### 再生区間

- 現在のテープ位置 ..... 50

- 任意指定 ..... 50

- サブ情報 ..... 31

## し

- システム周波数 ..... 26

- システム周波数表示部 ..... 17

- 自動モード ( AUTO FUNCTION ) 実

- 行メニュー ..... 87

- 出力信号表示部 ..... 18

- 仕様 ..... 103

## す

- スーパーインポーズ ..... 30

## せ

- 接続  
　カット編集 ..... 61  
接続と設定 ..... 58  
セットアップメニュー ..... 76  
前面パネル ..... 13

## た

- タイムカウンター表示部 ..... 19, 34  
タイムコード  
　記録・設定 ..... 53  
　出力 ..... 56  
　表示 ..... 34  
　記録し直す ..... 70  
　入出力部 ..... 25  
タイムデータ ..... 53  
　タイムカウンター表示部 ..... 34  
　表示 ..... 34  
タイムデータ種別インジケーター ..... 19  
ダビング ..... 67

## て

- 定期点検 ..... 95

- テープ走行コントロール部 ..... 21

## デジタル

- ダビング ..... 67  
　時間計 ..... 95  
　信号入出力部 ..... 25

## と

- 動作モード ..... 34  
特長 ..... 9  
トラブル時の対処 ..... 98

## な

- 内蔵タイムコードジェネレーター  
　外部タイムコード ..... 55

## に

- 入力信号表示部 ..... 17  
入力選択部 ..... 15

## の

- ノンリニア編集システム ..... 58

## ひ

- ビデオ / オーディオ入力選択部 ..... 15  
表示部 ..... 17

## ふ

- フォーマットインジケーター ..... 20  
フレームカウントモード ..... 55  
プレイヤー ..... 47

## へ

- ヘッドクリーニング ..... 97  
編集

- カット ..... 59  
　接続と設定 ..... 58  
变速再生 ..... 48

## ほ

- 保守・点検 ..... 102  
歩進モード ..... 55

## め

- メニュー ..... 73  
操作方法 ..... 27  
内容 ..... 76  
BASIC メニュー ..... 26, 89  
ENHANCED メニュー ..... 26, 90  
階層構造 ..... 74  
構成 ..... 73  
設定の初期化 ..... 91  
設定変更 ..... 89

## ゆ

- ユーザービット  
　記録・設定 ..... 53  
ユーザービットデータの設定 ..... 53

<b>よ</b>	DISPLAY INFO .....	79
用語解説.....	DISPLAY ボタン.....	14
107	DOWN CONVERTER .....	86
	DV PB ATT.....	85
<b>り</b>	DVCAM カセットについて.....	41
リピートインジケーター .....	DVCAM フォーマット .....	9
19	対応再生速度 .....	49
リピート再生 .....	DVC PRO (25Mbps) フォーマット .....	49
49	対応再生速度 .....	49
リモートコントロール .....		
49		
リモートコントロールスイッチ .....		
20		
<b>れ</b>		
レコーダー .....		
43, 66		
レベルメーター .....		
20		
<b>わ</b>		
ワイドトラック .....		9
<b>A</b>		
A MODE CHANGE .....		78
AC IN 端子 .....		22
AFTER CUE-UP .....		78
ALARM .....		79
ASSIGN KEY .....		77
ASSIGN ボタン .....		92
ASSIGN (アサイン) ボタン .....		14
AUDIO CONTROL .....		84
AUDIO EDIT .....		85
AUDIO I/O (AES/EBU) IN 端子 ....		25
AUDIO I/O (AES/EBU) OUT 端子 .....		25
AUDIO IN 1/3、2/4 端子 .....		23
AUDIO OUT 1/3、2/4 端子 .....		24
AUDIO OUTPUT .....		86
AUTO EE SELECT .....		77
AUTO FUNCTION .....		87
AUTO REW .....		78
A 点(開始点) .....		50
<b>B</b>		
B 点(終了点) .....		50
<b>C</b>		
CC (F1) BLANK .....		82
CC (F2) BLANK .....		83
CH1 1/2 ボタン .....		15
CH2 3/4 ボタン .....		15
CHARA. DISPLAY .....		78
CHARA. POSITION .....		78
CHARA. TYPE .....		78
CHARA. VSIZE .....		78
CONTROL-S 端子 .....		14
COUNTER SELECT ボタン .....		14
<b>D</b>		
DF MODE .....		80
DISPLAY CONTROL .....		78
<b>E</b>		
EE OUT PHASE .....		81
EJECT ボタン .....		14
ESR MODE .....		83
<b>F</b>		
F FWD ボタン .....		21
FROM STILL .....		82
FROM STOP .....		81
<b>H</b>		
HD .....		29
HD PROCESS CONTROL .....		83
HD VIDEO ボタン .....		15
HD SDI OUT1、OUT2 端子 .....		25
HDV フォーマット .....		9
対応再生速度 .....		49
<b>I</b>		
i. HDV/DV 端子 .....		22
iLINK DUBBING :DV/DVCAM .....		88
iLINK DUBBING :HDV .....		87
iLINK OUTPUT .....		86
iLINK について .....		102
INPUT ARRANGE .....		84
INPUT BLANK .....		84
INT AUDIO SG .....		85
INT VIDEO SG .....		82
INTERFACE SELECT .....		86
<b>J</b>		
JOG CONTROL .....		85
<b>L</b>		
LCD .....		79
LEVEL SELECT .....		85
LEVEL つまみ .....		14
LOCAL ENABLE .....		77
<b>M</b>		
MAX SRCH SPEED .....		77
MENU DISPLAY .....		79
MENU GRADE .....		87
MENU (メニュー) ボタン .....		14
MONITOR AUDIO 端子 .....		22
<b>O</b>		
MONITOR SELECT ボタン .....		14
MUTING IN SHTL .....		85
MUTING IN SRCH .....		81
<b>P</b>		
PEAK HOLD .....		79
PHONES ジャック .....		14
PLAY START .....		78
PLAY ボタン .....		21
POWER スイッチ .....		13
PREROLL TIME .....		78
<b>R</b>		
REC FORMAT .....		77
REC INHIBIT .....		77
REC MODE .....		84
REC/PB LEVEL つまみ .....		16
REC/SAVE スイッチ .....		41
REC ボタン .....		21
RECALL BANK .....		87
REF ALARM .....		79
REF VIDEO IN (SD/HD) 端子 ...		22
REMOTE 端子 .....		22
REPEAT FUNCTION .....		76
RESET (NO) ボタン .....		14
REW ボタン .....		21
RUN MODE .....		80
<b>S</b>		
SD PROCESS CONTROL .....		83
SD VIDEO ボタン .....		15
SD/HD SDI IN 端子 .....		25
SDI H-ANC .....		86
SDI OUT1/OUT2 端子 .....		25
SEARCH ENABLE .....		77
SET (YES) ボタン .....		14
SETUP ADD .....		82
SETUP BANK OPERATION .....		87
SETUP REMOVE .....		82
STD/NON-STD .....		82
STILL MODE .....		82
STOP ボタン .....		21
SUB STATUS .....		79
SYNC PHASE .....		84
SYSTEM SEL .....		87
<b>T</b>		
TAPE PROTECTION .....		81
TC INSERT :DVCAM .....		88

TC IN 端子 .....	25
TC MODE .....	80
TC OUT 端子 .....	25
TC PRESET ボタン .....	14
TC SELECT .....	80
TC インサート .....	67, 70
TCG REGEN .....	80
TIME CODE .....	80

## U

UB BINARY GP .....	80
--------------------	----

## V

VARIABLE スイッチ .....	16
VIDEO CONTROL .....	82
VIDEO IN 端子 .....	23
VIDEO OUT 端子 .....	24
VIDEO OUTPUT .....	86
VITC .....	80
VITC OUTPUT .....	81
VITC POS SEL-1 .....	81
VITC POS SEL-2 .....	81
VITC インジケーター .....	19

## W

WIDE MODE .....	83
-----------------	----







